

10-1 災害発生記録

年	月	日 (西暦)	種	別	地	域	被 害 状 況
応	仁	元 (1467)	暴	風	雨	松 前	8月(IX)洪水・台風 破船多し(道史)
応	仁	2 (1468)	暴	き	風	松 前	大風・ききんで人多く死す(道史)
文	明	元 (1469)	き	き	ん		全道的に暴風に加え夷人の反乱ありさらにききんと疫病のため夷人の死者多し(道史)
文	明	3 (1471)	暴	き	ん		全道的に風災・ききんのため人夷死亡者多し(道史)
天	文	元 (1532)	干	ば	つ		全道的に4月(V)から8月(IX)まで雨降らず(道史)
天	文	23 (1554)	大		雨	松 前	夏洪水あり(道史)
天	文	23 (1554)	大		雪	松 前	冬大雪あり(道史)
天	正	17 (1589)	火		災	松 前	4月27日(IV・10)福山城から火を出し、松前家伝来の武器財宝が多く焼けた(道史)
慶	長	10 (1605)	暴		風	松 前	7月(VIII)に暴風あり(道史)
慶	長	12 (1607)	暴		風	松 前	7月14日(IX5)暴風あり(日気史)
慶	長	16 (1611)	地	震			10月28日(VII2)10時過ぎ大地震あり。震央は三陸沖と推定され、東蝦夷海あふれ人多く死す M8.1 津波規模4 38.2N 143.8E 同日、有珠岳噴火した(日地資・道史)
元	和	7 (1621)	暴		風	松 前	石を飛ばすほどの暴風(東風)が吹き、松前城下に被害あり(道史)
元	和	7 (1621)	火		災	松 前	3月6日(IV27)東町から出火、東風はげしく城下の人家皆焼く(道史)
寛	永	3 (1626)	噴		火	有 珠 岳	4月20日(V15)噴火し、7月(VIII)まで鳴動続き津軽まできこえた(日地資)
寛	永	4 (1627)	大		雨	松 前	7月9日(VIII19)・18～19日(28～29)に大雨あり 洪水船の破損多し(道史)
寛	永	6 (1629)	大		雨	松 前	大雪が降り多数の死者 虻田の湖水(洞爺湖)氷る(維新前)
寛	永	12 (1635)	地	震		松 前	1月22日(III11)朝大地震あり、火災も発生した M6.1 震源渡島半島沖41.5N 140.0E(道史)
寛	永	14 (1637)	火		災	松 前	3月28日(IV23)福山城中から火を出し、硝薬瓶に火移り爆発松前公広負傷 市中類焼多し 松前氏の文書・宝物ほとんど消失(道史)
寛	永	15 (1638)	噴		火	有 珠 岳	6月14日(VII25)噴火す(日地資)
寛	永	17 (1640)	噴		火	駒 か 岳	6月13日(VII31)噴火し飛灰空に満ち、昼暗きこと2日におよび太平洋岸では戸梶(十勝)から亀田にかけ津波が来襲、海水は有珠善光寺如来像の後方の丘まできた 破船100余 夷人700余死す M6.5 津波規模1 震源駒か岳付近42.0N 140.7N(道史)
正	保	元 (1644)	火		災	松 前	3月(IV)大松前出火(維新前)
慶	安	2 (1649)	暴		風	松 前	12月(翌年I)大風吹き、高広焔藩の乗船大沢村で破船(維新前)
万	治	3 (1660)	大		雪	松 前	春、大雪山のごとし(維新前)
寛	文	2 (1662)	大		雨	松 前	3月24日(IV12)雪積もること3m余(維新前)
寛	文	3 (1663)	大		雨	松 前	7月11日(VIII13)大雨洪水 12日夜所々洪水・山くずれ(維新前)
寛	文	3 (1663)	噴		火	有 珠 岳	7月11日(VIII13)から鳴動を始め、13日までたびたび地震あり、14日明け方噴火し、震動は15日が最もはなはだしい。山頂の10分の8がくずれ噴煙の中に火光が見えた。付近の夷人住居が焼失・埋没し5名死亡 鳴動は7月中続く M6.5 震源有珠付近 42.6N 140.8E(維新前)
寛	文	5 (1665)	地	変	隄	山 上の 国	太平山鳴動 天の川海口ふさがり陸となる(維新前)
寛	文	7 (1667)	大		雪	松 前	正月II大雪山のごとし 前代未聞(維新前)
寛	文	7 (1667)	噴		火	樽 前 山	8月6日(IX23)噴火し、その震動津軽にもおよぶ(維新前)
延	宝	7 (1681)	大		雪	松 前	冬大雪(道史)
天	和	元 (1681)	大		雪	松 前	正月大雪(維新前)
天	和	2 (1682)	大		雪	松 前	正月(II)雪山のごとし 春大雪(維新前)
元	禄	3 (1690)	火		災	松 前	蔵町から出火 延焼148(道史)
元	禄	4	地	震		松 前	4月12日(V9)夜地震あり翌日まで続く 福山地方で日光の色異常

年	月	日 (西暦)	種	別	地	域	被 害 状 況	
		(1691)					(維新前)	
元	禄	5	暴	風	雨	福 山	9月21日(X30)大風 破船多し(道史)	
		(1692)						
元	禄	6	暴	風	雨	福 山	9月21日(X20)暴風 破船50余(上記と月日が同じをみれば重複かもしれない)(道史)	
		(1693)						
元	禄	8	山	火	江	差	4月(V)ひのき山から発火、12日間燃え続け榎川から厚沢部間の立木木過半が焼失(道史)	
		(1695)						
元	禄	12	大	雪	松	前	12月18日(翌年II6)大雪のため家埋没(維新前)	
		(1699)						
元	禄	15	暴	風	雨	松 前	4月7日(V3)暴風雨で洪水となり被害多し(維新前)	
		(1702)						
元	禄	15	暴	風	雨・雷	松 前	4月26日(V22)暴風雨 12時ごろ民家に落雷(維新前)	
		(1702)						
元	禄	15	暴	風	雨	亀 田	7月29日～30日(VIII22～23)大風雨あり翌30日洪水 畑作皆無となる(道史)	
		(1702)						
元	禄	15	暴	風	雨	松 前	8月6日(VIII28)大風雨 風浪高く洪水となる 破船100 溺死47(道史)	
		(1702)						
元	禄	15	き	き	ん	松 前	風水害多くききん(道史)	
		(1702)						
元	禄	16	火	災	江	差	正月22日(III9)西部江差大火(維新前)	
		(1703)						
元	禄	16	大	雨	江	差	6月4日～10日(VII17～23)にかけ大雨による洪水と山くずれ江差津花～熊石間 民家破壊78 小船埋没6 流家24 溺死1 亀田 洪水による番所半分流失 高竜寺倒壊 民家30流れ、橋所々落ちる(維新前)	
		(1703)						
元	禄	16	暴	風	雨	松 前	8月18～19日(IX28～29)暴風雨波浪高し(維新前)	
		(1703)						
元	禄	16	ひ	よ	う	江 差	9月1日(X11)氷降る 重さ113g(維新前)	
		(1703)						
元	禄	16	暴	風	雨	松 前	9月9日(X19)暴風雨と洪水 家破壊13 破船250 商船5 溺死者89 蝦夷にも溺死者あり(道史)	
		(1703)						
宝	永	2	大	雪	松	前	冬深山大雪 杣夫雪に埋まり死者13(維新前)	
		(1705)						
宝	永	4	火	災	福 山	山	正月19日(II21)大松前から出火延焼67(道史)	
		(1707)						
宝	永	4	大	雨	松	前	7月9日(VIII6)大雨洪水(維新前)	
		(1707)						
宝	永	4	暴	風	雨	松 前	9月18日(X13)大暴風雨 風浪高く破船多し(道史)	
		(1707)						
宝	永	5	暴	風	雨	松 前	7月25日(IX9)船破損多し(日気史)	
		(1708)						
宝	永	6	火	災	松	前	3月21日(IX30)唐津内町から出火 焼失214(維新前)	
		(1709)						
宝	永	7	大	雨	・雷	松 前	7月26日(VIII20)大雷雨 松前城に落雷(維新前)	
		(1710)						
正	徳	3	暴	風	雨	松 前	正月14日(II8)海陸に被害多し(道史)	
		(1713)						
亨	保	3	大	雨	福 山	山	6月13日(VII10)大雨洪水で河原町の民家多数流失(道史)	
		(1718)						
亨	保	4	火	災	松 前	前	3月23日(V12)湯殿沢町から出火 焼失223(道史)	
		(1719)						
亨	保	8	暴	風	松 前	前	8月10日(IX9)大風で船破壊54(道史)	
		(1724)						
亨	保	9	噴	火	神 威 山	山	春噴火 降灰数理(十数軒)の遠き及ぶ(道史)	
		(1724)						
亨	保	9	暴	風	松 前	前	3月8日(IV1)漁船に被害あり(道史)	
		(1724)						
亨	保	9	暴	風	雨	松 前	3月28日(IV21)漁船漁具多く破壊(道史)	
		(1724)						
亨	保	9	大	雨	松 前	前	6月16日(VIII4)大雨洪水 大橋流れ民家多数破壊(道史)	
		(1724)						
亨	保	14	大	雪	松 前	前	冬大雪で人家埋め死者あり(道史)	
		(1729)						
元	文	元	火	災	松 前	前	4月25日(IV4)夜、袋町から出火 焼失117(道史)	
		(1736)						
元	文	2	地	変	江 差	差	7月29日(VIII25)夜、江差海兵にわかに一島を生ず 東西10m南北200m、高さ4m位(維新前)	
		(1737)						
元	文	4	噴	火	樽 前 山	山	7月12日地震を感じ7月14日～26日(VIII18～30)鳴動噴火 降灰多く、2、3日昼夜暗黒となる(道史)	
		(1739)						
寛	保	元	噴	火	渡 島	島	7月15日から江差に降灰あり、7月19日(VIII29)大島噴火し江差では降灰10数cm昼灯を点ず 根府田～熊石津波襲来 水死1,467 家屋流失729 家屋破壊23 船舶流失1,521 震源渡島大島41.5N 139.4E M6.5 津波規模3(道史)	
		(1741)						
寛	保	3	積	雪	な し	松 前	この年積雪なし(維新前)	
		(1743)						
延	亨	元	暴	風	雨	・雷	松 前	8月11日(IX17)雷を伴う暴風雨で福山港水死30 船破壊42(道史)

年	月	日 (西暦)	種	別	地	域	被	害	状	況
		(1744)								
延	亨	3	暴	風	雨	松	前	8月24日(X8)暴風雨で海浪張り、福山海兵溺死者60 民家破壊流失		
		(1746)						75 船舶破壊360 (道史)		
寛	延	元	暴	風	雨	松	前	9月3日(IX25)夜暴風雨となり、溺死者10 民家破壊失92 船舶破壊		
		(1748)						386 (道史)		
宝	暦	2	大		雪	松	前	何十年ぶりの寒さと大雪 (維新前)		
		(1752)								
宝	暦	4	火		災	松	前	8月28日(X14)藩士の家から出火 東風はげしく瓦石を飛ばし焼失		
		(1754)						247(青山火事と呼ばれる) (道史)		
宝	暦	5	き	き	ん	松	前	秋ききんとなる 全国的 (道史)		
		(1755)								
宝	暦	6	暴		風	松	前	2月(III)暴風のため海陸被害多し (維新前)		
		(1756)								
宝	暦	7	積		雪	なし	松	前	寒中積雪なし (維新前)	
		(1757)								
宝	暦	12	地	震	・	津	函	館	地方	12月16日(翌年I29)20時ころ今までにない大地震あり大津波を伴う(
		(1762)								南部津軽地震の余波) 震源八戸地方 M7.4 (道史)
宝	暦	13	大		雨	西	部			7月(VIII)大雨洪水 田沢水あふれ家屋流失20 (維新前)
		(1763)								
明	和	元	雷		雨	松	前	6月(VII)大雷雨あり 知内ことにはげしく雷死1 (維新前)		
		(1764)								
明	和	3	地		震	松	前	1月28日(III8)大地震あり (津軽地震の余波) (道史)		
		(1766)								
明	和	4	噴		火	駒	か	岳		1月19日(II17)夜噴火す (道史)
		(1767)								
明	和	4	火		災	松	前	4月7日(V4)福山中町から出火 烈風にあい焼失407(中二階火事と		
		(1767)						いう) (道史)		
明	和	5	火		災	江	差			8月(IX)大火あり 死者2 家屋倉庫焼失C324 (道史)
		(1768)								
明	和	5	噴		火	有	珠	岳		12月16日(翌年I23)噴火 (道史)
		(1768)								
明	和	6	暴	風	雪	松	前	4月5日(V10)暴風雪となり、袖夫死者3 (維新前)		
		(1769)								
安	永	3	暴	風	雨	松	前	8月(IX)暴風雨により福山港で破船23 焼失船3 (道史)		
		(1774)								
安	永	7	火		災	函	館			1月8日(II4)弁天町から出火 焼失105 (道史)
		(1778)								
安	永	7	大		雪	松	前	正月(II)大雪で家埋まる (維新前)		
		(1778)								
安	永	7	火		災	函	館			10月8日(IX15)弁天町失火 類焼105 (道史)
		(1778)								
天	明	2	き	き	ん					全国的に凶作 (道史)
		(1782)								
天	明	3	き	き	ん					全国大凶作 夏蝦夷地ききん 宗谷・目梨の蝦夷800~900餓死
		(1783)								(道史)
天	明	4	暴		風	松	前	8月2日(IX16)大風のため福山港で破船44 (道史)		
		(1784)								
天	明	8	暴		風	松	前	12月30日(翌年I25)西の強風一夜吹き、福山城のやぐら・民家		
		(1788)						数軒破損 (道史)		
寛	政	2	地		震	渡	島			6月12日(VII23)早朝勝山に地震あり (道志)
		(1790)								
寛	政	4	暴		風	天	売	島	沖	2月21日(III13)大風にあい、こしん取船難破水死者24 (維新前)
		(1792)								
寛	政	4	地	震	・	津	後	志	地方	5月24日(VII12)16時ごろ地震あり 津波を伴い、忍路・美国で死者・船の
		(1792)								流失などの被害あり 震源積丹半島沖 44.0N 140.5E M6.9 津波規
寛	政	4	暴		風	松	前	6月26日(VII12)大風あり 激浪のため福山港では商船を含め破船159		
		(1792)						貨物その他被害多し (道史)		
寛	政	5	暴		風	松	前	秋難破船多く水死者あり (維新前)		
		(1793)								
寛	政	6	酷		暑	松	前	夏非常に暑い。(維新前)		
		(1794)								
寛	政	7	積		雪	なし	松	前	冬雪積もらず。(維新前)	
		(1795)								
寛	政	9	火		災	松	前	10月7日(XI24)朝福山大松前通りから出火 南西の強風で馬形・泊川		
		(1797)						まで延焼 家屋・倉庫焼失1,250余 寺院焼失2 (道史)		
寛	政	10	大		雪	松	前	正月大雪で積雪3mを越す。(維新前)		
		(1798)								
寛	政	12	暴		風	松	前	7月25日(IX13)南西風はげしく高潮のため水死者43 家屋流失10 倉		
		(1800)						庫破壊45 商船難破430まれにみる災害。(維新前・道史)		
亨	和	2	暴		風	渡	島	地方		3月16日(IV18)南部藩兵が野辺地を出て函館に渡る途中、暴風にあ
		(1802)								い知内に漂流 17日難破87人中溺死者41 負傷33 軍用金・武器こと
亨	和	2	き	き	ん	宗	谷			夷人狩猟獲物少なく、12月(翌年I)末から餓死者でる。(道史)

年	月	日 (西暦)	種	別	地	域	被	害	状	況
亨	和	3 (1802)	暴	風	北	見				4月15日(VI4)風波はげしく、虻田に向かう船、長万部沖で難破す。水死2(うち夷人1)(道史)
文	化	元 (1803)	暴	風	松	前				9月1~2日(X4~5)福山港大風で船破損110(維新前)
文	化	3 (1804)	火	災	函	館				10月10日(XI19)朝方弁天町から出火 北西の烈風で内間町まで延焼 民家316寺院3焼失 市中の間屋ことごとく焼く。(道史)
文	政	5 (1806)	噴	火	有	珠	岳			正月16日から地震あり19日(II10)噴火 21日(22日ともいう)大噴火 室蘭まで降灰15cmに達した。2月1日また大噴火し多量の熱泥噴出し 虻田に流出 家屋草木を押し倒し焼きはらい公所・土人部落全滅 焼死2 蝦夷死者53 負傷若干 馬2,468中1,430が焼死または行方不明(道史)
天	保	3 (1832)	火	災	松	前				6月25日(VII22)福山大松前から出火 延焼900余(道史)
天	保	4 (1833)	火	災	松	前				5月21日(VII8)福山大火 この年弁天社祭礼中止する。(道史)
天	保	4 (1833)	火	災	江	差				6月27日(VIII12)津花町から出火 焼失家屋300(道史)
天	保	4 (1833)	火	災	江	差				7月27日(IX10)関川から出火 焼失270(道史)
天	保	4 (1833)	地	震	道	南				10月26日(VII7)14時すぎ福山に強震あり 約30分後に津波襲来高さ120cm余に及び、度となく繰りかえし、翌日16時すぎ平常となる。函館湾内約2kmにわたり潮ひき後潮満ち道路まで上がる。死者42 家屋破損103 震源佐渡・出羽・越前地方 38.7N 139.2E M7.4 津波規模2(道史)
天	保	5 (1834)	地	震	石	狩				1月1日(II9)強震あり、以後22日まで震動続き地面が割れ泥水が湧出 倉庫・蝦夷家等全壊35 震源石狩地方43.3N 141.4E M6.4(道史)
天	保	6 (1835)	凶	作						全国的凶作 以後数年にわたり西蝦夷に移住者多し。(維新前)
天	保	8 (1837)	火	災	松	前				2月24日(III30)大松前大火(維新前)
天	保	8 (1837)	暴	風	松	前				9月28日(X27)大風吹き29日に及ぶ 福山港 破船40余 水死者4(道史)
天	保	8 (1837)	凶	作	松	前				不作(維新前)
天	保	10 (1839)	地	震	道	東				3月18日(V1)14時ごろ厚岸地方に強震あり、国泰寺に多少の被害あり。(道史)
天	保	11 (1840)	火	災	松	前				5月26日(V25)ふくやま大火 町役所をはじめ焼失1,000(道史)
天	保	11 (1840)	暴	風	雨	松	前			9月29日(X24)北西風強く海上大しけ 函館を出港した福山の塩さけ 受取船難破16(道史)
天	保	13 (1842)	地	震	渡	島				5月(V1)時々地震あり およそ30日続きその音雷の如し(維新前)
天	保	14 (1843)	地	震	根	室・	鉦			3月26日(IV25)あけがた大地震あり10時までに津波襲来2回大地震5~6回あり16時ごろ平常となる。地震被害国泰寺では石燈籠・石仏倒れ、庭に12~15cmの地割れ生ず津波被害水死者46 船舶破損61 震源十勝沖 M8.0 津波規模2(道史)
弘	化	2 (1845)	大	雪	有	珠	・			3月(IV)大雪降り、有珠虻田牧場の馬斃死900余(道史)
弘	化	2 (1845)	暴	風	松	前				10月4日(XI3)から6日まで暴風 激浪ひきつづき福山港で破船29(道史)
弘	化	2 (1845)	洪	水	石	狩	川			7月(VII)石狩川はらんする。資料によっては1851(嘉永4年)とある。(道史)
弘	化	3 (1846)	噴	火	恵	山				9月30日(XI18)恵山噴火 多量の熱泥を東方に流し綴法華部落を襲い、会所・民家20~30戸埋没死傷者多し(道史)
嘉	永	4 (1851)	暴	風	江	差				5月(VI)暴風で船の難破100(日気史)
嘉	永	6 (1853)	噴	火	有	珠	岳			3月5日(IV12)から鳴動し地震を伴い15日噴火 4月13日溶岩が湧出 凝結して大有珠岳を生ず。(道史)
安	政	元 (1854)	火	災	松	前				10月8日(XI27)中川原町から出火 諸町の大部分焼失 死者十数名 負傷100余 類焼1,300余(道史)
安	政	3 (1856)	地	震	太	平	洋	岸		7月19日から函館で地震を感じ、23日(VIII23)13時ごろ大地震あり、14時に津波襲来平水より2m以上高く一進一退 16時ごろ4m近くになり市街の低地一帯浸水し、家屋破損・船の打上げ・木材・貨物の流失により多大の損害あり。津波は約20回に及ぶ 浦河では500石積以上の船2 転覆 震源尻矢岬沖 41.2N 142.3E M7.7 津波規模2(道史)

年	月	日 (西暦)	種	別	地 域	被 害 状 況
安 政	3	(1856)	噴	火	駒 か 岳	8月24日より時々鳴動をきき、26日(IX24)11時ごろはげしい鳴動と供に噴火 北西の強風にのり焼熱した砂石が鹿部・本別村付近に落下 焼死2 家屋焼失17 大波15 降灰は鷓川・沙流10cm 斜里7 常呂3cm積もる。南麓の留場は砂石が9m余に埋まり浴客19人(15人とみい)下になる。(道史)
安 政	4	(1857)	噴	火	十 勝 岳	5月23日(VI14)山半腹にして火脈燃え立て黒煙さしあがるを見る。(技術報告No.74)
安 政	6	(1859)	暴	風	松 前	7月25日(VIII23)夜北東風強く、翌日南東に回り人家の破損多し 福山港内破船27 (道史)
安 政	6	(1859)	暴	風	雨 松 前	8月13日(IX9)朝から強風と雨 (道史)
万 延	元	(1860)	暴	風	松 前	5月11日(VI29)福山港内しけで難破船10 (道史)
万 延	元	(1860)	暴	風	松 前	8月18日(X2)しけで破船あり (道史)
文 久	2	(1862)	暴	風	渡 島 地 方	7月23日(VIII18)暴風襲来 函館築島その他海陸で被害多し 福山で破船26(文久元年と記す資料あるが誤りか) (道史)
文 久	2	(1862)	暴	風	松 前	8月4日(VIII28)福山で破船20 (道史)
文 久	2	(1862)	火	災	函 館	8月21日(IX14)願乗寺前に火災あり。民家多数焼失 (道史)
文 久	2	(1862)	火	災	函 館	9月12日(XI3)夜内潤町から出火 地藏町・大工町などに延焼す (道史)
文 久	3	(1863)	高	潮	西 海 岸	8月8日(IX20)昼間より22時ごろまで津波最高6m余り(日地資)とあるが、6mもの津波があれば被害も広範囲に及ぶはずで、暴風による高潮の可潮の可能性が高い。(技術報告No.2.0)
慶 応	元	(1865)	凶	冷		全道的に気候不順 農作不良 (道史)
慶 応	元	(1865)	暴	風	雨 渡 島	7月22日(IX11)大暴風雨襲来 福山では破船100 泊川町で家屋流失 吉岡・江良町でも被害あり (道史)
慶 応	元	(1865)	火	災	松 前	3月(IV)福山町中川原町から出火 数町にわたり延焼 (維新前)
慶 応	元	(1865)	火	災	松 前	10月6日(XI23)松前町から失火 数町に延焼 (維新前)
慶 応	2	(1866)	暴	風	渡 島	3月2日(IV16)大しけで松前にしん取船破損数十 水死者 70余 (道史)
慶 応	2	(1866)	暴	風	渡 島	7月8日(VIII17)朝から暴風となり1日半続く。函館では船舶破損多し (道史)
慶 応	2	(1866)	暴	風	渡 島	8月8日(IX16)明け方東風はげしく後南にvari民家被害多し福山で60余 江差30余 西蝦夷で数隻の破船あり (道史)
慶 応	2	(1866)	火	災	函 館	9月12日(X20)内潤町から出火 大災となる (維新前)
慶 応	2	(1866)	凶	冷		全道的に夏期低温のため前年以上の凶作 (道史)
慶 応	3	(1867)	噴	火	樽 前 山	秋の頃、22時頃地震を感じ雷の如き音と共に火柱をあげ、白老では降灰9cm位積る。(北海道防災会議・樽前山)
慶 応	3	(1867)	山	火	高 島	3月20日(IV24)西蝦夷高島場所にて野火起こし、祝津のほかことごとく延焼し、運上屋も全焼した。(道史)
慶 応	4・6・25	(1868)	津	波	函 館	(VIII15)津波来襲10時30分に始まり15時まで続く 10分間の水位差300cm(平常75~90cm)震源地南アメリカのチリー(研究時報)
明治元年	11月15日	(1869)	暴	風	雪 江	差 榎本武揚開陽艦に乗り江差入港、風雪激浪のため全艦破壊す。
明治2年	5月11日	(1869)	火	災	函 館	弁天町より出火872戸全焼、放火。
明治2年		(1869)	凶	作	全 道	土用明けの多雨低温のため凶作、渡島地方米1粒もとれず。
明治3年	2月	(1869)	暴	風	江 差	帆船難破 死者5名
明治4年	9月2日	(1871)	火	災	函 館	1,123戸全焼、吸がら
明治4年		(1871)	融	雪	洪 水 札 幌	豊平川融雪洪水
明治6年	3月22日	(1873)	火	災	函 館	夜豊川町火あり、延焼9、街全焼1,31戸、死者5。(道史)
明治6年	4月18日	(1873)	火	災	函 館	豊川町1,023戸全焼。
明治6年	12月14日	(1873)	火	災	福 山	福山枝ヶ崎火あり、延焼5、街203戸全焼。(道史)
明治7年	2月8日	(1874)	噴	火	樽 前 山	電火激時灰降る雨のごとし震動数回3日にして止む。
明治7年	6月5日	(1874)	大	雨	後 志 国	農作物被害多大。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
明治7年6月13日 (1874)	暴 風 雨	久 遠 群 泊 村	山くずれ民家倒壊死5、河川はんらん道路破損多し。農作物被害多大 (道史)
明治8年3月 (1875)	流 氷	鉏 路 根 室 海 岸	海浜流氷せきをなす、暑さ10~20m、昆布被害大。
明治8年4月18日 (1875)	火 災	函 館	蓮茨町火あり、延焼434戸 (道史)
明治8年9月27日 (1875)	暴 風 雨	十 勝 ・ 胆 振 ・ 日 高	河川はんらんし死傷者多し。
明治9年3月26日 (1876)	火 災	福 山	夜博知石町より火あり、延焼160余戸 (道史)
明治9年3月28日 (1876)	火 災	函 館	弁天町火あり、延焼95戸、傷者あり。(道史)
明治9年5月9日 (1876)	火 災	石 狩 町	親船町火あり、延焼196戸 (道史)
明治9年8月~9月 (1876)	大 雨	利 尻 ・ 後 志 ・ 日 高	道路、橋、家、倉庫など多数破壊、溺死多し。
明治9年9月30日 (1876)	暴 風 雨	増 毛 町	こう水、家屋倒壊、作物被害大。
明治10年5月10日 (1877)	津 波	函 館	12時59分南米チリ沖に地震。函館で11日10時30分ごろ急に潮がひいた後約2mの津波。平水より深きこと30cm余。
明治11年11月 (1878)	火 災	函 館	澗町火あり、延焼954戸。
明治12年8月9日 (1879)	大 雨	函 館	山背泊街山くずれ圧死3、鶴岡街水あふれ洪水。
明治12年12月6日 (1879)	火 災	函 館	堀江町火あり、延焼2,300余戸、放火。
明治13年5月13日 (1880)	暴 風 札	幌 幌	S S E 18.8m/s
明治14年5月16日 (1881)	火 災	小 樽	東雲町火あり、375戸焼く。
明治14年5月21日 (1881)	火 災	小 樽	芝居町火あり、800戸焼く。
明治14年10月13日 (1881)	火 災	石 狩	弁天町火あり、158戸焼く。
明治15年6~8月 (1882)	大 雨	石 狩	諸河はんらん、市街に浸水、家屋、橋、田畑被害あり。有珠死1
明治16年6~8月 (1883)	干 ば	つ 全	道 作物損害多し。
明治16年10月3日 (1883)	暴 風 函	館	港内停泊船舶および市中被害多し。
明治16年11月1~ 2日(1883)	大 雨	十 勝 地 方	被害不詳
明治16年12月24日 (1884)	火 災	江 差	中歌町火あり、111戸焼く。
明治17年 (1884)	凶 冷	渡 島 地 方	米作被害多大。
明治18年1月4日 (1885)	噴 火	樽 前 山	16時30分噴火、噴煙数千m、人畜に被害なし。
明治18年5月4~ 6日(1885)	暴 風 雨	渡 島 地 方	耕作崩壊、民家15戸、非住宅1棟流失、作物不成熟、石狩村早川氾らん。
明治18年5月13日 (1885)	火 災	函 館	恵北寿町より出火、132戸焼失。
明治18年6月10日 (1885)	火 災	小 樽	入船町より出火、500戸焼失。
明治18年7月2日 (1885)	暴 風	日 高 地 方	大小豆、小麦被害多し、家屋破損70余戸。(台風による)
明治18年11月25日 (1885)	津 波	函 館	浸水260戸、破損船舶23隻。
明治19年5月12日 (1886)	火 災	小 樽	入船町より出火、130戸焼く、失火。
明治20年5月2日 (1887)	火 災	函 館	西川町より出火、482戸焼失。
明治20年6月9~ 10日(1887)	火 災	小 樽	永井町より出火、400戸焼失。
明治21年 夏 (1888)	凶 冷	全 道	気候不順、気温上らず、農作物登熟不十分。
明治22年4月 (1889)	大 雨	石 狩 ・ 胆 振 ・ 日 高 鉏 路	大水、田畑、家畜流失多し、胆振、日高旧土人悲惨の極。
明治22年 (1889)	凶 冷	全 道	春秋気温が低く、農作不良。
明治23年1月29日 (1890)	暴 風	根 室	N 23.9m/s 被害不詳
明治23年9月6~ 8日(1890)	暴 風 雨	札 幌	豊平堤防決壊、札幌洪水。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
明治24年6月23日 (1891)	火 災	三 笠 幌 内	115戸焼く。
明治24年12月31日 (1891)	暴 風 雨	石 狩 地 方	翌1月1日石狩その他諸河用洪水。
明治25年5月4～ 5日(1892)	火 災	札 幌	12時南3条西4丁目より出火、1,000戸焼失。
明治26年9月11日 (1893)	大 雨	函 館 地 方	道路堤防欠壊、民家、農作物被害甚大、R 104mm
明治26年 (1893)	凶 冷	全 道	農作物26%減収。
明治26年12月25日 (1893)	暴 風	寿 都	波沿岸家屋に侵入、家屋、倉庫、漁船、堤防 寿都NW31.0m/s
明治27年3月22日 (1894)	地 震	根 釧 地 方	19H23' 根室南方沖M7.9 根室市街道路60～90cmさける、釧路、落 石、納沙布3燈台ランブレンズ破損す。
明治28年7月3日 (1895)	大 雨	全 道	鉄道線各地で破壊、農作物、漁船に被害多し。
明治28年10月3日 (1895)	火 災	根 室	4時花咲町から出火、焼失8町889戸。
明治28年12月28日 (1895)	暴 風	網 走	
明治29年1月11日 (1896)	暴 風	網 走	
明治29年4月14日 (1896)	暴 風	十 勝	被害不詳、帯広WNW10.9
明治29年7～8月 (1896)	大 雨	十 勝	田畑ほとんど浸水収穫皆無のところ多し、7～9月R帯広712mm
明治29年12月15日 (1896)	暴 風	十 勝	被害不詳 帯広WNW10.8
明治31年6月13～ 14日(1898)	霜	石 狩・上 川 地 方	農作物被害なし。
明治31年7月 (1898)	霜	十 勝 地 方	農作物被害なし。
明治31年8月12日 (1898)	火 災	小 樽	入船町より出火、140戸焼失。
明治31年8月24日 (1898)	火 災	寿 都	183戸焼失。
明治31年9月5～ 8日(1898)	暴 風 雨	全 道	死248、家流失損壊3,551戸、浸水24,000余戸、耕地浸水56,87ha、鉄 道道路損害多し、R札幌155、函館196、根室114、上川163、釧路141mm
明治32年5月14日 (1899)	火 災	鷲 泊	
明治32年8月8～ 12日(1899)	暴 風 雨	全 道	274戸焼失。
明治32年9月15日 (1899)	火 災	函 館	死27、浸水家屋5,744戸、浸水耕地9,168ha、農作物被害大。11～13 日 R旭川91mm
明治32年6月16日 (1899)	霜	道 東 地 方	豊川町外2,494戸焼失。
明治32年9月30日 (1899)	霜	小 樽	今までにない大降霜、大小豆、唐きび、馬鈴薯被害多し。
明治33年12月 (1900)	火 災	夕 張	1家焼失、雷死6。
明治34年4月11日 (1901)	火 災	函 館	炭山市街地800戸焼失。
明治34年4月18日 (1901)	火 災	札 幌	南1条西1丁目より出火250戸焼失。
明治34年9月7～ 9日(1901)	大 雨	道 央・道 北 地 方	死2、建物浸水7,569戸、同流失63戸、浸水面積40,206ha、浸水耕地 600余ha、損害見積額83万円 3～9日R旭川203mm
明治34年11月14日 (1901)	火 災	釧 路	西幣舞町出火680戸焼失。
明治34年12月20日 (1901)	雷	真 駒 内	畜舎2棟焼失、牧畜数1頭焼死。
明治35年6月7日 (1902)	火 災	夕 張	登川村374戸焼失。
明治35年6月10日 (1902)	火 災	函 館	鶴岡町出火396戸焼失。
明治35年7～8月 日(1902)	凶 冷	全 道	米作減収88% 7～8月平均気温平年差 旭川-2.1℃
明治36年4月17～ 18日(1903)	火 災	小 樽	手宮町より出火930戸焼失。
明治36年 (1903)	凶 冷	全 道	米作減収9% 7～8月平均気温 旭川-1.1℃
明治37年5月8～ 9日(1904)	火 災	小 樽	稲穂町株式取引所より出火、色内町外数カ町へ延焼2,481戸焼失。 原因ランブ
明治37年5月6～ 7日(1904)	大 雨	石 狩・後 志・胆 振	被害面積61,000ha農作物253万円
明治37年5月29日	火 災	小 樽	手宮町より出火186戸焼失。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
(1904)			
明治37年9月13日 (1904)	ひ よ う	石 狩	農作物被害多大。
明治38年4月21～ 23日(1905)	大 雪	旭 川	21～23日 27cm降雪
明治38年4月下旬 (1905)	流 氷	北 見 沿 岸	流水多く4月下旬になっても船舶航行できず。
明治38年5月7～ 9日(1905)	山 火	野 幌	兵村兵有林より出火した山火によって市街3日間野火に囲る。
明治38年5月8～ 9日(1905)	凶 冷	全 道	全道米収量10a当り123kg
明治38年10月13日 (1905)	火 災	増 毛	畠中4丁目より出火150戸焼失。
明治38年10月31日 (1905)	火 災	厚 岸	1,200戸焼失。
明治39年1月19日 (1906)	火 災	小 樽	稲穂町より出火112戸焼失。
明治39年1月下旬 ～2月中(1906)	流 氷	根 釧 地 方	沿岸一帯大氷原となり船舶航行不能。
明治39年2月9日 (1906)	暴 風 雨	香 深	たらつり漁船23隻遭難、生死不明27名。
明治39年2月10日 (1906)	な だ れ	利 尻 礼 文 島	ふぶきと暖気で各所になだれ発生、圧死、焼死7名。
明治39年4月1日 (1906)	流 氷	北 見 沿 岸	知床岬～能取岬海面上に高さ3m余の流水襲来、船舶航行不能
明治39年5月25日 (1906)	火 災	夕 張	炭山街市街地方5区より出火418戸全焼、原因ストーブの煙突。
明治39年6月24日 (1906)	火 災	小 樽	色内町より出火247戸全焼。原因ランプ。
明治39年8月25日 (1906)	火 災	登 川	415戸全焼。
明治39年8～9月 (1906)	凶 冷	全 道	米作減収 5%
明治40年4月11日 (1907)	暴 風	岩 内 海 岸	にしんわく船破損30隻、漁船破壊3隻、水死3。
明治40年4月21日 (1907)	暴 風	岩 内 海 岸	漁船遭難、水死あり。
明治40年5月5～ 11日(1907)	暴 風	全 道	道路破損、家屋倒壊、漁船の遭難多し。
明治40年5月10日 (1907)	火 災	札 幌	南3西1より出火370戸焼失。
明治40年8月25～ 26日(1907)	火 災	函 館	東川町より出火8,977戸全焼、焼損損害31,148,337円、上水迄停止。
明治40年9月9～ 10日(1907)	台 風	日 本 海 々 岸	汽船2隻、西洋帆船8隻、日本形帆船15隻、破損又は流失、死者11名、傷者7名。
明治40年9月9～ 10日(1907)	大 雨	利 別 川 流 域	浸水耕地1,292ha、家屋浸水303戸、流失35戸、破損2戸。
明治40年12月6日 (1907)	暴 風	全 道	人畜死傷、家屋倒壊、船舶破損多し。
明治40年12月23日 (1907)	地 震	釧 路 地 方	10時14分釧路沖M7.8、障子紙破損、器物転落、商店多数損害あり。
明治41年1月13～ 3月4日(1908)	流 氷	根 室 地 方	目梨群植別村、前海一帯氷結。
明治41年2月14日 (1908)	火 災	浦 河	浦河村60番地より出火、支庁、銀行等240戸全焼。
明治41年3月8日 (1908)	暴 風 雪	尻 矢 崎	第11観音丸(2,150吨)尻矢崎燈台付近で座礁沈む、水死27名。
明治41年3月8～ 9日(1908)	暴 風 雪	中 部 以 南	全道に猛ふぶき、死者111名、負傷者36名、牛馬死193頭。
明治41年3月11日 (1907)	暴 風 雪	天 売 島	出漁中のたらつり漁船54隻遭難、水死217名。
明治41年4月22～ 27日(1908)	融 雪 洪 水	石 狩 川 域	石狩川はん濫、家屋、耕地の冠浸水、道路、橋、堤防の破損流失多し
明治41年4月中旬 ～5月上旬(1908)	異 常 現 象	礼 文 島	全島鳴動し、家屋微震、原因同島南部海底の地すべりによる。
明治41年5月13日 (1908)	大 雪	本 別	新積雪15～18cmに達す。
明治41年6月29日 (1908)	火 災	小 樽	花園町より出火139戸全焼。
明治41年7月8日 (1908)	山 火	羊 蹄 山	山頂南西部より出火、9日中腹まで延焼、鎮火時期不明。原因雨ごりの火の不始末。
明治41年7月10日 (1908)	火 災	俱 知 安	駅前より出火159戸全焼。
明治41年8月13日 (1908)	火 災	幌 内	炭山市街地より出火300余戸全焼。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
明治41年8月 (1908)	凶 冷	全 道	夏低温のため農作物減収、米10a当り77.25kg、前年比0.315
明治41年11月5日 (1908)	暴 風 雨	えとろふ 沖	老門沖で汽船大新丸座礁、水死130名余。
明治41年12月15～ 16日(1908)	暴 風	根室地方	漁船34隻転覆、行方不明140名。
明治42年2月12日 (1909)	暴 風 雪	石 狩・空 知・後 志 地 方	汽船座礁1、死者7、鉄道不通過所多し、幾春別～岩見沢間5日間不通
明治42年3月24～ 25日(1909)	暴 風	稚 内・旭 川 地 方	漁船沈没、倒壊家屋5戸、死者22名。
明治42年3月29日 (1909)	な だ れ	熊 泊	茅部郡熊泊硫黄山抗夫長屋 棟倒壊、死者31名、負傷4名。
明治42年4月6～ 7日(1909)	大 雪	小 樽	30年来ない洪水、浸水家屋1,000余戸、流失5戸。
明治42年4月6～ 8日(1909)	融 雪 洪 水	全 道	家屋、鉄道、道路流失多く、人畜死傷者多数。
明治42年4月12日 (1909)	融 雪 洪 水	俱 知 安	尻別川はん濫、市街3丁目以西4～5尺浸水、全壊27戸、半壊36戸。
明治42年4月12日 (1909)	噴 火	樽 前 山	地震、降灰あり。23時48分爆発(3月30日の約10倍の煙量)新円頂丘が生成。
明治42年4月25日 (1909)	火 災	小 樽	手宮町、色内町より出火、焼失738戸。
明治42年5月7日 (1909)	融 雪 洪 水	十 勝 地 方	連日の暖気と雨で各河川はん濫、明治31年来の大水害となる。
明治42年5月7日～ 11日(1909)	融 雪 洪 水	北 見 地 方	7日～11日の連続降雨で、同地方一帯洪水となる。被害甚地の野付牛流失家屋100戸、行方不明50余名。
明治42年6月12日 (1909)	雷	石 狩 天 塩	ひょうで農作物被害2,000ha
明治42年10月25日 (1909)	火 災	岩 内	360戸全焼。
明治42年11月11日 (1909)	火 災	砂 川	200戸焼失。
明治43年1月30日 (1910)	暴 風 雪	全 道	鉄道不通、天塩付近漁船流失30隻、行方不明150名、漁船7隻遭難。
明治43年2月3日 (1910)	暴 風 雪	全 道	鉄道各埋没脱線不通多し、礼文尺忍村沖溺死7名。
明治43年5月18日 (1910)	火 災	札 幌	南2西5出火239戸全焼。原因ストーブ煙突。
明治43年5月24日 (1910)	火 災	天 塩	海岸通り4丁目出火、郵便局、営林署分室などをふくむ200戸全焼。
明治43年7月22～ 31日(1910)	噴 火	有 珠 岳	同岳一帯火山活動活発、鳴動降灰あり、住民10,000人以上 以上伊達方面に避難、埋没家屋20戸余。
明治43年8月22日 (1910)	雷	上 川 地 方	降ひょう、風強く、農作物被害多大。落雷2カ所、焼失1戸、畑451.5ha被害。
明治43年9月5日～ 6日(1910)	暴 風 雨	全 道	とくに北見一帯の農地浸水、道路の欠壊多し。
明治43年11月16～ 18日(1910)	暴 風 雨	西 海 岸	水死16名、漁船流失55隻、破壊37隻、家屋7戸流失、道路防波堤破壊多し。
明治44年1月13日 (1911)	大 雪	上 川・留 萌 地 方	留萌市街雪中に埋没、積雪土別2.7m、留萌2.1m
明治44年4月17～ 18日(1911)	暴 風 雪	全 道	帯広降雪のため電話線切断、福山沖汽船座礁、死者20名、その他被害あり。
明治44年5月3～ 22日(1911)	山 火	全 道	4月24日～5月中旬ほとんど雨なく、強風つづく、各地に山火事件発生 焼失面積158,000ha、枝幸、稚内市街、山火延焼失火。
明治44年5月6日 (1911)	火 災	枝 幸	山火延焼、市街110戸、土蔵等18棟、漁船23隻全焼。
明治44年5月16日 (1911)	火 災	稚 内	山火延焼、支庁、学校、警察、福祉など700戸全焼。
明治44年5月16日 (1911)	火 災	小 樽	手宮町より、焼失1,251戸。原因残火の不始末。
明治44年5月22日 (1911)	雷	天 塩・上 川 地 方	農作物被害95.4ha、小豆、菜豆6～9割減収。
明治44年6月26～ 27日(1911)	台 風	南 東 部	函館浸水2,156戸、釧路高潮のため家屋等流失多し。
明治44年8月16～ 17日(1911)	台 風	全 道	被害水田6,779戸、畑60,023ha、被害額水田790,753円、畑3,456,949円、道路、橋被害甚大。
明治44年10月10～ 17日(1911)	暴 風 雨	西 南 部	漁船遭難多数、浸水家屋多数、死者6名。
明治44年12月～45 年1月 (1911～1912)	大 雨	釧 路 地 方	山野に放牧中の牛馬飼料欠乏し、牛40頭、馬173頭死、最深積雪55cm
明治45年1月6～ 8日(1912)	暴 風 雪	北 見 地 方	20年来mの暴風雪、死者37名、傷者14名、行方不明17名、牛馬死100余頭、家屋144戸、船舶流失4隻、和船流失273隻。
明治45年2月27日 (1912)	な だ れ	香 深	尺忍村民家埋没圧死13名。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
明治45年3月18～ 19日(1912)	暴 風 雨	全 道	電信、電話、海上交通一切断絶、死傷者68名、家屋全壊122戸、床上浸水167戸、床下浸水201戸、流失12戸、船舶数100破損
明治45年4月2～ 4日(1912)	暴 風 雨	全 道	各地に水害、海難発生、豊平川堤欠壊2戸流失、水死者8名、留萌役場、民家多数倒壊した。
明治45年4月10日 (1912)	山 ぐ ず れ	小	樽暖気で手宮町26番地のがけくずれ13戸全壊、圧死10名。
明治45年4月12日 (1912)	火 災	函 館	音羽町より出火733戸全焼、損害害325,840円、原因機械の過熱。
明治45年4月13日 (1912)	火 災	小 樽	手宮町より出火159戸全焼。原因タバコの吸殻。
明治45年4月14～ 15日(1912)	融 雪 洪 水	全 道	石狩、十勝、天塩、常呂など主要河川はん濫、各地に洪水発生被害甚基地 月形、常呂。
明治45年4月16～ 20日(1912)	暴 風 雨	寿 都	漁船流失多く、行方不明24名。
明治45年5月3～ 4日(1912)	暴 風 雨	寿 都	家屋倒壊、道路、橋の破損流失多し。
明治45年7月19日 (1912)	地 す べ り	福 島	字畳で地すべり発生、民家7戸埋没、圧死11名。
明治45年7月19日 (1912)	台 風	道 南 西 部	浸水家屋59戸、死者1名、傷者1名、田畑浸水。
大正1年8月14日 (1912)	雷	旭 川 地 方	床下浸水299戸、床上浸水11戸。
大正1年9月22～ 23日(1912)	台 風	道 南	津軽海峡出海中、漁船遭難、行方不明20名、森全市街開村以来の大洪水。
大正1年12月20日 (1912)	火 災	室 蘭	浜町9より出火、浜町、千歳町、札幌通、本町474戸焼失、死者1名。原因ランプ。
大正2年4月19日 (1913)	火 災	小 樽	稲穂町より出火167戸全焼。原因風呂の煙突。
大正2年5月4日 (1913)	火 災	小 樽	稲穂町より出火163戸全焼。
大正2年5月4日 (1913)	火 災	函 館	若松町より出火1,532戸全焼、死者1名、上水道停止。損害634,077円
大正2年5月24日 (1913)	火 災	函 館	東雲町282戸全焼、原因ちようちんの置忘れ。
大正2年8月27～ 28日(1913)	台 風	全 道	各地出水被害の主なるもの。銭函家屋流失40戸、死者23名、目名～熱帯間鉄道墜落列車転覆死者7名。重傷62名、釧路漁船遭難水死14名、全道浸水家屋3,800戸。
大正2年8月7～ 28日(1913)	凶 冷	全 道	
大正2年9月19日 (1913)	霜	上 川 地 方	朝低温気温0度、草上最低温度-5.1度、戸外のため水結氷、農作物被害多し。
大正2年9月20日 (1913)	暴 風 雨	岩 内	いかつり船150余隻遭難。
大正2年12月26日 (1913)	火 災	釧 路	西幣舞より出火286戸、劇場1棟全焼、死者1名。
大正3年4月8日 (1913)	火 災	函 館	蓮英町より出火819戸焼失、上水道停水、損害289,021円
大正3年5月2日 (1914)	火 災	寿 都	大磯町より出火、劇場、寺院等549戸全焼。
大正3年5月11日 (1914)	火 災	北 見	野付牛北1西3より出火240戸全焼。
大正3年12月1日 (1914)	火 災	函 館	潤町より出火672戸全焼、上水道停水、損害66,567円。
大正4年1月12～ 13日(1915)	暴 風 雨	全 道	漁船沈没、遭難者多し。
大正4年1月17～ 18日(1915)	暴 風 雪	全 道	列車各地で立往生、海難各地に続出、礼文島でたら釣漁船難破行方不明57名。
大正4年1月21～ 29日(1915)	融 雪 洪 水	主 南 西 部	に暖気と降雨で各地に雪崩、洪水発生、列車脱線転覆死者3名、岩内浸水153戸、30日の寒気で結氷し、排水困難。
大正4年2月27日 (1915)	な だ れ	増 毛 地 方	過去30年来の大雪、字阿分民家3戸雪崩のため埋沈、圧死11名。
大正4年4月29～ 30日(1915)	暴 風 雨	北 見 沿 岸 礼 文 島	北見沿岸漁船遭難、溺死50名、漁船流失50隻、行方不明29名。
大正4年6月26日 (1915)	ひ よ う	上 川 地 方	被害面積411ha、損害額41,512円
大正4年7月22～ 23日(1915)	大 雨	上 川 地 方	死者36名、傷者20名、家畜死159頭、家屋流失1,429、倒壊30戸、浸水3,617戸、田畑浸水5,043ha、同流失162ha、道路2.5km、橋流失45カ所破損3、堤防決潰28.2km
大正4年7月26日 (1915)	ひ よ う	士 別	直径2.4cm、畑作物200ha全滅。
大正5年4月28日 (1916)	火 災	旭 川	7条通7丁目より出火110戸全焼。
大正5年5月7～ 8日(1916)	暴 風 雨	全 道	主要河川はん濫、激甚地帯 当別、幌向、夕張、訓子府。
大正5年5月7～ 8日(1916)	干 ば	つ 西 部 及 び 北 見 地 方	畑作物被害。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
大正5年8月2日 (1916)	火 災	函 館	旭町より出火、旭、音羽、栄、西川、鶴岡、地藏、汐止、真砂各町焼失1,800戸、上水道停止、損害70,000円。
大正5年12月8日 (1916)	火 災	留 辺 藁	市街地本道より出火114戸全焼。
大正5年12月28～ 29日(1916)	暴 風 雪	函 館	汽船遭難10余隻、はしけ3隻沈没、積荷3,500個流失。
大正5年12月28～ 29日(1916)	暴 風 雪	根 室	船舶24隻、家屋全壊3戸、堤防、道路欠壊。
大正5年12月28～ (1916)	暴 風 雪	網 走	高潮を伴う、家屋全壊9戸、半壊95戸、流失29戸。
大正6年1月7～ 8日(1917)	暴 風 雪	全 道	電信、電話障害、船舶遭難多し。
大正6年3月26～ 28日(1917)	流 氷	日 高 海 岸	海草被害多し、昆布37,680円、銀なん草2,473円。
大正6年4月29日 (1917)	暴 風 雪	沓 形	にしん厚く群来のため出漁中の漁船遭難、死者、行方不明51名。
大正6年4月30日 (1917)	噴 火	樽 前 山	15時05分ごろ噴火、苫小牧市街障子震動、煙砂降る。
大正6年5月12日 (1917)	噴 火	樽 前 山	10時20分噴火、鳴動30分以上に及び、支笏湖発電所方面に多量に降灰あり。
大正6年5月20日 (1917)	暴 風 雪	西 海 岸	にしん漁網流失多し、損害30,000円。
大正6年5月 中～下(1917)	山 火	全 道	被害激甚地根室、釧路、北見地方、白滝市街延焼240戸全焼、死者2名、傷者20名。
大正6年6月1～ 2日(1917)	暴 風	南 部	漁船遭難多し、水死7名。
大正6年8月17日 (1917)	ひ よ う	上 川 地 方	上伊丹別2銭銅貨大のもの降る、死者1名、倒壊9戸、農作物被害甚大
大正6年8月19日 (1917)	ひ よ う	北 見 地 方	網走付近被害約120ha、壊家2棟、佐呂間武士部落積ったひよう最深1.38km
大正6年10月1日 (1917)	台 風	全 道	死16名、傷12名、行方不明30名、家屋全壊83戸、半壊60戸、流失5戸 浸水家屋127戸、堤防決壊140m、橋梁流失235m、道路流失破損1.38km
大正6年10月21日 (1917)	火 災	天 塩	海岸通り4丁目より出火、郵便局、学校、寺院等240戸全焼。
大正7年6月13日 (1918)	噴 火	樽 前 山	7時20分ごろ噴火、鳴動8分モーラップ地方に降灰。
大正7年6月22日 (1918)	火 災	札 幌	南2東5より110戸全焼。
大正7年6月24～ 25日(1918)	暴 風 雨	主 に 道 南	激甚地、函館、室蘭、岩内地方、死者4名、行方不明40名、家屋全壊358戸、帆船2隻沈没その他漁船流失。
大正7年9月24～ 25日(1918)	台 風	全 道	死者11名、行方不明26名、家屋全壊半壊1,691戸、船舶沈没47隻、積荷、漁網347,660円、田畑65,929ha
大正7年10月22～ 23日(1918)	火 災	札 幌	南2西5より出火102戸全焼。原因ランブ。
大正8年1月2日 (1919)	暴 風 雪	石 狩	屋根まさ煙突、野積の麦、収草類ほとんど飛散す。
大正8年1月3日 (1919)	火 災	釧 路	西幣舞9より出火、強風、厳寒のためポンプ水管凍る。
大正8年1月上旬 (1919)	暴 風 雪	釧 路	市街家屋埋没、屋上馬そりで通行、食糧欠乏し生活困難をきたす。
大正8年1月17日 (1919)	暴 風 雪	磯 谷	約10日間連続ふぶく、同地方交通一切断絶。
大正8年1月 20～21 28～29 日(1919)	大 雪	留 萌 地 方	市街地積雪180～210cm、家屋埋没、市街休業除雪に従事す。
大正8年4月8日 (1919)	暴 風 雪	余 別	ムイノ岬付近に出漁中の漁船沈没、溺死19名。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
大正8年4月8日 (1919)	暴風雪	岩内地方	にしん網78カ全部流失。
大正8年4月10日 (1919)	暴風	後志地方	余市漁船70余隻、その他船舶14隻破壊流失、海中に投棄したにしん約1万数千石、溺死5名。
大正8年5月4日 (1919)	噴火	樽前山	14時40分噴火、噴煙の高さ約1,500m、噴火約15分継続 錦多峰、白老方面降灰多し。
大正8年5月7日 (1919)	火災	古平	古平座より出火190戸、非住家40棟全焼、重傷10名。
大正8年5月5～ 15日(1919)	融雪洪水	石狩・空知地方	5日以来の暖気と7、10日の大雨で各地に洪水発生、床上浸水1,019戸、流失家屋7、同倒壊10戸、田畑15,584ha、死者2名、深川、新十津川、篠路、北、当別被害激甚
大正8年5月13日 (1919)	火災	札幌	豊平町30より出火94戸全焼、2戸半焼
大正8年5月30日 (1919)	火災	小樽	祝津91戸、納屋13棟全焼。
大正8年6月17日 (1919)	噴火	駒ヶ岳	5時噴火、火山灰佐原方面にまで降る。
大正8年7月10日 (1919)	干ばつ	全道	6月末～7月上旬半はまで連日炎天続き農作物育成悪し、各地で雨ごい祈願行う。
大正8年7月26～ 27日(1919)	大雨	上川地方	石狩川出水、死者1名、家屋流失3戸、全半壊21戸、床上浸水732戸 床下同1,054戸。
大正8年8月4日 (1919)	大雨	道東	根室 床上浸水34戸、床下同78戸、道路、橋、農作物被害多し。
大正8年8月19日 (1919)	大雨	富良野	空知川堤防欠壊、全市街洪水、床上浸水450戸、田畑約800ha
大正8年8月21日 (1919)	大雨	北見十勝 釧路地方	21日早朝～22日20時まで大雨、北見、十勝、釧路地方近年にない洪水、死者5名、流失家屋206戸、床上浸水2,632戸、床下同2,600戸、浸水面積20,000ha、明治31年来の洪水。
大正8年10月1日 (1919)	火災	小樽	高島町107戸全焼、原因仏だんの灯明。
大正9年1月4日 (1920)	暴風	函館	海岸低地家屋浸水200戸、流失2戸、破損22戸。
大正9年4月3日 (1920)	暴風	岩内	朝から強いだし風吹く、にしん漁船遭難、水死35名、家屋12戸、放棄にしん3,000屯
大正9年4月14日 (1920)	火災	函館	東川町より発火13カ町延焼、2,141戸全焼、上水道停水中 損害17,798,500円。
大正9年5月4～ 5日(1920)	火災	生田原	185戸焼失、原因ランプ。
大正9年5月6日 (1920)	山崩れ	昆布森	4月28日からの連続降雨で高台くずれ一家9名埋没、圧死8名。
大正9年5月22～ 27日(1920)	大雨	斜里・生田原地方	河川はんらん、沿岸農家約100戸流失の危険、漁船2隻遭難。
大正9年6月2～ 6日(1920)	台風	釧路・網走地方	死者8名、行方不明10名、家屋倒壊13戸、橋流失、畑浸水。
大正9年7月22日 (1920)	噴火	樽前山	24時噴火、一時間にわたる火煙高く昇り、鳴動、降灰あり、白老付近草木灰色に変わる。
大正9年7月29日 (1920)	ひょう	上川地方	15時ごろから突風とともに降る。氷山、東旭川、家屋破損8戸、 水田130ha、直径1.8cm～5cm
大正9年7月31日 (1920)	暴風	日高三石	漁船遭難、水死12名。
大正9年8月9～ 11日(1920)	大雨	十勝地方	浦幌、川合、本別、豊頃、大津に被害、死者3名、農作物ほとんど全滅
大正9年8月10～ 12日(1920)	大雨	釧路地方	5日以来の連続降雨で釧路、阿寒川はんらん、釧路の被害、浸水家屋2,000戸、死者10名、農作物全滅。
大正9年8月23日 (1920)	大雨	西 東部	堤防、家屋、田畑流失多し、田畑損害2,127,858円、真狩別山津波あり
大正10年4月3～ 4日(1921)	暴風	利尻島	沓形村たらつり漁船遭難、行方不明8名、鬼脇港内で救助船座礁、死者20名。
大正10年4月4日 (1921)	暴風	函館	低気圧津軽海峡通過、家屋117戸、漁船4隻被害。
大正10年4月3～ 4日(1921)	大雨	十勝地方	利別、美利保両川はんらん、栄、開盛、高島、主要橋破壊交通断絶。
大正10年4月3～ 4日(1921)	大雨	空知地方	長沼800戸、深川～音江渡船転覆、水死9名。
大正10年4月5～ 6日(1921)	大雨	余市	激波のためにしん7,500屯放棄。
大正10年4月14日 (1921)	火災	函館	東川町より出火、宝、莢蓮、末広、会所、元町2,166戸全焼、明治45年 以来の大火
大正10年4月下旬 (1921)	融雪洪水	石狩地方	篠路、当別、厚田、茨戸泥海と化し被害多し。
大正10年5月1日 (1921)	火災	苫小牧	三条通りより出火、役場、警察、銀行、郵便局998戸全焼。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
大正10年6月16日 (1921)	ひ よ う	北見地方	置戸、仁山、トコロ、直径3cm、20分間にわたり降る。被害面積30ha、損害額11,000円。
大正10年6月19日 (1921)	異常気象	苫小牧	樹木の凍害多数。
大正10年7月6日 (1921)	噴 火	樽 前 山	3時20分噴火、苫小牧地方降灰多し、明治42年来の大噴火。
大正10年10月25日 (1921)	火 災	函 館	新川町より出火400戸全焼。
大正10年11月3～4日 (1921)	暴 風	北見沿岸	汽船難破、水死35名、漁船1隻沈没。
大正10年12月13日 (1921)	山 く ず れ	張 碓	貨車脱線3両焼失、乗務員1名死亡。
大正11年1月6日 (1922)	暴 風	雪 岩 内 地 方	前田～岩内間線路雪人夫排雪車にふれ即死2名、重傷3名、軽傷8名
大正11年1月22日 (1922)	暴 風	雪 寿 都	漁船遭難1隻、死者5名。
大正11年1月下旬 (1922)	海 氷	宗 谷 地 方	海峡一帯最近10年来になく厚く結氷1,000屯以下の汽船航行不能。
大正11年2月16日 (1922)	暴 風	雪 室 蘭	市内電話、電灯、交通ともに不通断絶、完全復旧に1カ月必要最近15年来の大被害。
大正11年3月1日 (1922)	暴 風	雪 乙 部	漁船転覆水死4名、漁船行方不明4隻。
大正11年3月20～22日 (1922)	暴 風	雪 利 礼 文 島	尻尻発動機船3隻難破、水死20名、礼文たらつり漁船遭難、行方不明19名。
大正11年3月21日 (1922)	暴 風	雪 篠 路	帰宅のため歩行中のもの2名凍死。
大正11年4月2日 (1922)	海 氷	網 走	オシヨップ沖合の漁船6隻遭難、海水のため救助不能。
大正11年4月13日 (1922)	火 災	夕 張	4丁目映画館より出火355戸全焼、原因の不明。
大正11年4月24～25日 (1922)	融 雪 洪 水	石 狩 ・ 尻 別 川 流 域	一己、滝川、砂川、篠津、千歳、尻別方面に被害。
大正11年5月27～30日 (1922)	山 火	北 見 ・ 十 勝 地 方	狩勝国境、幾寅、雄武の各地に山火発生、各500～600ha焼失
大正11年6月27日 (1922)	雷	北 見 ・ 十 勝 ・ 石 狩 ・ 天 塩 ・ 釧 路 ・ 胆 振	被害面積本道の1/3 42,000ha、被害額3,711,000円、最低気温野付牛(北見)1.4℃、枝幸3.0℃
大正11年8月2日 (1922)	突 風	天 塩	川崎船転覆、行方不明6名。
大正11年8月4日 (1922)	大 雨	中 頓 別	31日よりの連続の大雨で浜治安はらん、市街浸水床上40戸死者2名
大正11年8月15日 (1922)	大 雨	函 館	市中一面洪水、谷地頭町小舟で通行。
大正11年8月24～25日 (1922)	台 風	全 道	滝川、富良野、帯広、佐呂間、渚滑、遠軽、門別に被害、日高地方のみで死者54名、全道では死者117名、浸水家屋21,597戸、同流失872戸、田畑87,975ha、同流失6,46ha、損害額2,715万円
大正11年9月23日 (1922)	暴 風	全 道	漁船遭難多く、水死16名、行方不明8名、漁船流失2隻、網流失多数
大正11年9月29日 (1922)	暴 風	北 見 沿 岸	雄武～紋別間ほたて船250隻遭難、難破20余隻、溺死76名。
大正11年11月28日 (1922)	火 災	釧 路	真砂町旅館より出火、約100戸焼失。
大正12年1月19日 (1923)	な だ れ 幌	内 炭 山 鉾 抗 夫 長 屋 裏 山 な だ れ	、圧死5名。
大正12年1月31日 (1923)	火 災	釧 路	141戸全焼。
大正12年2月21日 (1923)	噴 火	樽 前 山	6時、同45分2回爆発、明治42年以来の大噴火、人畜被害なし。
大正12年2月29日 (1923)	火 災	小 樽	奥沢町4丁目出火、177戸全焼。原因残火不始末。
大正12年4月7～10日 (1923)	暴 風	全 道	低気圧宗谷海峡通過、行方不明浦河6名、余市13名、にしん漁中のため漁場被害大。
大正12年4月9日 (1923)	火 災	美 幌	200戸全焼。
大正12年6月17日 (1923)	噴 火	樽 前 山	13時ごろ爆発。鳴動10分間、札幌市内外降灰あり。
大正12年6月20日 (1923)	ひ よ う	野 付 牛 (北 見)	字上仁頃6～9号線に降る。積った深さ9cm、農作物全滅。
大正12年6月21日 (1923)	噴 火	樽 前 山	11時15分ごろ爆発、鳴動約10分、支笏湖、千歳方面多量に降灰。
大正12年6月21日 (1923)	ひ よ う	十 勝	直径1.5～3.0cm
大正12年6月29日 (1923)	火 災	小 樽	奥沢町4丁目より出火、約250戸全焼。
大正12年7月14日 (1923)	大 雨	羽 幌	橋流失8、田畑98ha、木材流失83m ³ 、損害額96,429円。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
大正12年7月14日 (1923)	大 雨	室 蘭	市内及び幌別町で死者1名、負傷7名、家屋全壊11戸、同半壊13戸同 浸水257戸。
大正12年7月29日 (1923)	噴 火	樽 前 山	21時40分爆発、鳴動約20分、早来、追分、振老地方降灰。
大正12年8月19日 (1923)	ひ よ う	生 田 原	約10分間降る、豆粒大、農作物被害あり。
大正12年9月8日 (1923)	大 雨	羽 幌	市街1/3は洪水、流失家屋4戸、浸水同200戸、罹災者1,000名。
大正12年9月16日 (1923)	暴 風	雨 利 尻 礼 文 島	死者6名、家屋倒壊流失20余戸、その他被害あり。
大正12年9月15～ 17日(1923)	大 雨	全 道 (主 に 道 央)	石狩川ほかはんらん、死者1名、傷者7名、浸水家屋4,539戸 田畑浸 水20,400ha、道路、橋、堤防など損害額260余万円。
大正12年9月25日 (1923)	台 風	網 走 管 内	浸水家屋161戸、田畑及び農作物被害105,298円。
大正12年9月25日 (1923)	台 風	釧 路 地 方	尾幌市街全部浸水、西部農村一帯濁水に没し全滅。
大正12年12月11日 (1923)	暴 風	雪 焼 尻	かわい船転覆、水死6名。
大正12年12月27日	火 災	小 樽	稲穂町西より出火100戸、全焼死者3名。
大正13年1月8～ 10日(1924)	暴 風	室 蘭	汽船3隻接触損害100,000円。
大正13年1月下旬	大 雪	北 見 ・ 宗 谷 地 方	22日から月末まで大雪、人家埋没、幕別～声間間列車3日間不通、斜 里20年来の大雪。
大正13年2月中旬 ～4月下旬(1924)	流 氷	厚 岸	巨大な氷塊のため海藻抜失、昆布205,125円、銀なん草182,300円。
大正13年5月9日	暴 風	雪 稚 内 地 方	漁船流失2隻、にしん355屯放棄、この時期の暴風雪は明治28年来の 現象。
大正13年5月9日	暴 風	雪 網 走 地 方	積雪量多く吹きだまり深い所1.20m以上、家屋破損、網、漁船の流失な どの被害大。
大正13年6月21日	火 災	宗 谷 地 方	宗谷線沿線鬼士別外5カ所より出火500戸焼失。
大正13年6月	干 ば	つ 空 知 地 方	5月以降6月22日まで雨なく連日好天続く、田植え不能農家各地に続 出。
大正13年7月18日	火 災	浦 河	海産製造業者より出火、郵便局など市街地140戸焼失、原因魚油に引 火
大正13年7月21日	霧	仙 法 子	シユサンベツ海岸岩石に万栄丸(1,180屯)座礁。
大正13年9月26日	ひ よ う	千 歳	畑作物脱穀したと同様になる。被害面積1,400ha、被害額10,500円。
大正13年10月6日	火 災	苦 前	市街海岸通り一角より出火、約200戸焼失。
大正13年11月10日	暴 風	雨 根 室	漁船12隻転覆、流失12隻、死者3名、行方不明17名。
大正13年11月22日	暴 風	雨 函 館	家屋全壊50戸、床上浸水32戸、汽船座礁1。
大正13年11月30日 ～12月2日(1924)	暴 風	寿 天 売	漁船流失142隻、家屋倒壊、汽船座礁など被害多し。
大正14年1月12日	暴 風	雪 根 室	市街電灯、電話切断、落石無線空中線切断、根釧間不通。
大正14年2月20日	暴 風	雪 函 館	発動機船1沈没、行方不明11名。
大正14年2月21日	火 災	釧 路	西幣舞町118戸全焼。原因ストーブの不始末。
大正14年3月1日	暴 風	幌 泉	夕刻より暴風となり漁船2隻転覆、水死10名。
大正14年3月5日	暴 風	雪 宗 谷 地 方	吹きだまり深い所で2m前後、列車各所で立往生。
大正14年3月29日	暴 風	雪 釧 路	水力発電所故障、家屋倒壊数戸、圧死2名。
大正14年3月30日	暴 風	雪 北 見 地 方	朝から雪は14時ごろより30mのふぶきとなり総ての交通機関一切断絶。
大正14年4月14日	暴 風	雪 余 市	漁獲したにしん約450屯放棄、その他被害あり。
大正14年4月14～ 19日(1925)	暴 風	雪 北 見 地 方	連日吹雪、美幌、網走方面吹きだまり2～3mに達す。 列車立往生、炊出し行方。
大正14年4月24～ 25日(1925)	融 雪 洪 水	女 満 別	23～25日まで連日大雨つづき、網走、小松川はんらん。 浸水家屋300余戸。
大正14年5月11日 (1925)	火 災	札 幌	豊平町105戸焼失。
大正14年6月7日 (1925)	火 災	岩 見 沢	2条通り郵便局より出火400戸全焼。
大正14年7月8日 (1925)	火 災	寿 都	宇新町131戸全焼。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
大正14年7月13日 (1925)	霧	旭川地方	被害面積1,094ha、被害額900,000円。
大正14年8月31日 (1925)	大雨	渡島地方	堤防欠壊、道路、田畑被害多し。被害額203,367円。
大正14年9月3～4日 (1925)	台風	福山	漁船30隻大破、死者3名。
大正14年9月6～8日 (1925)	台風	日本海岸	死者2名、重傷2名、漁船流失大破77隻、倉庫家屋等多数破損 礼文島船舶部落36戸破損。
大正14年11月21日 (1925)	暴風雪	利尻地方	かれい漁中、漁船9隻遭難、水死19名。
大正14年11月28～30日 (1925)	暴風雪	室蘭	家屋浸水108戸、漁船1隻、水死3名。
大正14年12月8～9日 (1925)	突風	苫小牧	15時20分ごろより約10分間突風吹き、駅前家屋14戸破壊す。
大正14年12月20～23日 (1925)	暴風雪	全道	海岸地方では津波も発生、被害特に多し。 渡島地方で水死110名、家屋倒壊流失、漁船流失多し。
大正15年3月26日 (1926)	雪	静内地方	夜半から朝9時まで雪が続き、積雪60cm余になる。 この時期の大雪は数10年来にない現象。
大正15年4月4日 (1926)	暴風雪	後志・室蘭地方	祝津漁船20余隻遭難、行方不明26名、室蘭漁船7隻遭難、行方不明80余名。
大正15年5月6～9日 (1926)	融雪洪水	石狩空知日高十勝	6日夜よりの大雨で各河川ははんらん、被害激多きは石狩川流域、日高地方。浸水床上57、床下189戸、堤防欠壊540m、農地1,000ha浸水。
大正15年5月24日 (1926)	噴火	十勝岳	16時15分からの20分間爆發、死者1名、行方不明144名、家屋351戸 (上富良野)77戸(美瑛、中富良野)国有地1,201ha、損害額2,587,000円
大正15年8月 (1926)	凶冷	全道	大正2年に続く全道的凶作、水稲減収率、空知0,448、上川0,557
大正15年8月26～28日 (1926)	暴風雨	函館	床上浸水155戸、床下同2,216戸、倒壊6戸
大正15年9月1日 (1926)	ひょう	網走	13時ごろ新栗覆、フシコタンほか3部落に降る。約60cm積もる。 被害面積100ha。
大正15年9月8～9日 (1926)	噴火	十勝岳	16時30分ごろ大音響とともに噴火、黒煙約200m、同17時30分ごろ平靜にもどる。
大正15年9月12～13日 (1926)	大雨	函館	床上浸水273戸、床下同2,332戸、全壊1戸、半壊13戸。
大正15年9月19日 (1926)	山くずれ	七飯	大雨のため後志域岱より山津波襲来、国道筋一帯田畑うめつくす。家屋崩壊、馬3頭死す。
大正15年10月1日 (1926)	大雨	室蘭	浸水床上266戸、同床下246戸、家屋倒壊、列車一時不通。
大正15年10月2日 (1926)	大雨	札幌・室蘭地方	1日13時から20日朝まで降りつづく、豊平川堤防欠壊、温泉浴場破壊 漁川欠壊、漁太方面泥海と化す。また帯広川増水帯広方面洪水となる。 浸水200戸、大正11年来の洪水。
大正15年10月19日 (1926)	噴火	樽前山	4時30分ごろ噴火、降灰札幌別付近15～20cmに達す。札幌付近まで飛来する。
大正15年10月30日 (1926)	噴火	樽前山	6時20分噴火、胆振方面溶岩片落下、家屋3戸、トタン屋根抜く。
大正15年12月13日 (1926)	火災	釧路	西幣舞町の一角より出火、142戸全焼、原因神棚灯明。
大正15年12月7日 (1926)	暴風雪	室蘭	発動機船転覆、水死11名。
大正15年12月18日 (1926)	暴風雪	根室	凍死2名、家屋倒壊破損16戸、船舶、道路被害あり。 被害額100,000余円。
昭和2年1月1日 (1927)	山くずれ	張碓	数日來の暖気で張碓トンネル入口上部岩石約430㎡落下、列車不通。
昭和2年2月26～27日 (1927)	暴風雪	後志地方	本道を通じた低気圧による函館本線列車各地で立往生、3月1日午後開通。
昭和2年2月28日 (1927)	なだれ	古平	沢井村、桂沢10戸破損、死者4名。
昭和2年3月10日 (1927)	暴風雪	寿都	都二ツ玉低気圧による。寿都 倒壊家屋12戸、死者2名、釧路貨物船 (1,441屯)難破高架根棧橋流失。
昭和2年4月3日 (1927)	流氷	厚岸	海面より約10mまでの昆布その他改造全滅
昭和2年4月3日 (1927)	火災	伊達	西浜町240戸全焼。
昭和2年4月21日 (1927)	暴風雨	函館付近	寒冷前線の通過による。浸水家屋200戸、流失50戸。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和2年4月27日 (1927)	火 災	三 笠	151戸全焼。
昭和2年5月3日 (1927)	暴 風	奥 尻・檜 山 沿 岸	奥尻島赤石沖で漁船転覆、水死34名、檜山石崎沖で川崎船遭難水死5名。
昭和2年5月12日 (1927)	火 災	小 樽	錦町より出火435戸全焼 損害500,000円。
昭和2年5月15日 (1927)	暴 風 雨	釧 路 地 方	沖合いで鮭漁中の漁船31隻90余名遭難、行方不明2名。船体漁具放棄19隻。
昭和2年6月4日 (1927)	異 常 気 象	苫 小 牧	樹木の凍害多数。
昭和2年6月7日 (1927)	火 災	興 部	市街地裏通りより出火、市街全戸数380戸中270戸全焼。
昭和2年6月13日 (1927)	ひ よ う 鷹	栖	約15分間径3cmのもの降る。水稲約1,240ha全滅。
昭和2年7月5日 (1927)	ひ よ う 空 知 支 庁 管内	支 管内	農作物被害2km ² 被害額8,000円。
昭和2年7月6日 (1927)	霧	襟 裳 岬	日本郵船旺洋丸(5,670吨)14時座礁。
昭和2年7月13～ 15日(1927)	豪 雨	浦 河	本道西部沖に達した低気圧は東進してオホーツク海にぬけた。家屋浸水248戸、山道破損木材流失、田畑橋梁流失。損害額250,000円。
昭和2年7月18日 (1927)	大 雨	後 志 地 方	津軽海峡を通過した低気圧による。前夜来から大雨が降り続き、函館本線各所で土砂崩発生。列車脱線転覆、衝突事故続出。小樽市内100余戸浸水。
昭和2年8月16日 (1927)	大 雨	砂 川	空知、歌志内両川はらん、橋6流失、砂川床上浸水196戸。
昭和2年9月5日 (1927)	大 雨	浜 益 地 方	浜益川など出水、流失9戸、半壊流失4戸、道路橋堤防破損多し。
昭和2年9月13日 (1927)	火 災	幾 春 別	新市街より出火112戸全焼、3戸半焼。
昭和2年10月8日 (1927)	突 風	浦 白	家屋6戸吹上げもみつぶれる。重傷1名。電信柱倒壊多し。
昭和2年10月10日 (1927)	暴 風	根 室 地 方	建網流失、溺死4名。
昭和2年10月12日 (1927)	暴 風	室 蘭 地 方	発動機船5隻、川崎船14隻遭難、行方不明2名。
昭和2年12月3日 (1927)	暴 風 雪	全 道	本道北部を通過した低気圧による。石狩、天塩、網走沿岸で発動機船遭難、水死22名、行方不明4名。
昭和2年12月28日 (1927)	暴 風 雪	函 館	汽船2隻(200吨、2,929吨)座礁、溺死2名、行方不明2名。
昭和3年1月3日 (1928)	な だ れ	利 尻	仙法子村倉庫2棟崩壊、圧死2名。
昭和3年1月10日 (1928)	な だ れ	奥 尻	葉師村長浜で圧死4名。
昭和3年1月11日 (1928)	暴 風 雪	寿 都	本道北部を通過した低気圧による。水死33名、行方不明80名、発動機船沈没多数。
昭和3年2月8日 (1928)	暴 風 雪	江 差	三陸沖を北上した低気圧による。すけそ漁船2隻転覆、水死16名。
昭和3年2月8日 (1928)	暴 風 雪	函 館 地 方	汽船(5,817吨)座礁、発動機船遭難2隻、水死5名、行方不明8名。
昭和3年2月8日 (1928)	暴 風 雪	浦 河	汽船2隻、発動機船4隻座礁。
昭和3年3月3日 (1928)	暴 風 雪	室 蘭 地 方	発動機船転覆1隻、汽船破損2隻、家屋倒壊12戸。
昭和3年3月3日 (1928)	な だ れ	礼 文 島	本村字テフネツプ漁場後方積雪落下、番屋、倉庫倒壊死者3名。
昭和3年4月11日 (1928)	火 災	芦 別	市街目抜の場所156戸全焼、原因ストーブ煙突。
昭和3年4月23日 (1928)	暴 風 雪	全 道	根室沖を北東進した低気圧による。網走地方船舶遭難33隻、死者6名、行方不明2名、その他被害多し、損害4,900円、根室地方になだれ多数、電信電話被害多し発動機船7隻、漁船10船、行方不明35名、後志地方、古平湾内 発動機船6隻 宗谷地方、猿払村漁船遭難、水死3名、旭川地方、24日朝まで24cm積雪、函館地方 汽船2隻沈没、はしけ22隻破損。
昭和3年5月21～ 22日(1928)	雷	室 蘭 寄	御崎発電所に落雷、損害10,000円。多寄村落雷軽傷4名、家屋半壊1戸。
昭和3年5月23日 (1928)	噴 火	十 勝 岳	16時10分爆発、鳴動20分、人畜被害なし。
昭和3年7月17～ 18日(1928)	大 雨	美 瑛 地 方	美瑛川はらん、水田全滅29ha、流失家屋2戸。
昭和3年7月23日 (1928)	火 災	美 深	駅前より出火、目抜き通り430戸全焼。原因乾燥用の火。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和3年8月3日 (1928)	山 火	津 別	国有林より出火、6日夕までつづく。被害面積800ha。
昭和3年8月中旬 (1928)	山 火	美 神 威 古 潭	連日の炎天つづきで美珠1,200ha、神威古潭600ha焼失。
昭和3年8月 (1928)	干 ば	つ 札	明治16年来の干ばつ。7月28日～8月23日無降雨、農作物被害大。
昭和3年8月19日 (1928)	火 災	天 塩	海岸通りより出火、全町の1/3の250余戸全焼。
昭和3年8月31日 (1928)	大 雨	室 蘭	床上浸水12戸、床下同66戸、倒壊1棟3戸。
昭和3年9月21日 (1928)	大 雨	南 空 知 地 方	夕張川鉄橋墜落、幌向、長沼洪水。浸水500戸、田畑490ha
昭和3年9月 (1928)	干 ば	つ 和 寒	7月21日以降池枯収穫皆無100ha 半作以下田畑200余ha
昭和3年9月27日 (1928)	ひ よ う	旭 羽 幌	農作物被害1,250ha以上 被害額160,000円
昭和3年10月25日 (1928)	火 災	稚 内	中通り南1より出火705戸全焼。死者1名
昭和3年11月3日 (1928)	暴 風	全 道	北海道北部を通過した低気圧による。函館地方 発動機船沈没5隻、水死1名。寿都地方 発動機船難破4隻、死者7名。岩内地方 遭難水死10名。
昭和4年1月1日 (1929)	暴 風 雪	根 室	日本海から津軽海峡を経て本道南岸を通った低気圧による。死者1名 護岸、電信施設、船舶に被害。被害額20,000円。
昭和4年1月4日 (1929)	大 雪	札 幌	3日夕刻より降りつづき、4日朝、積雪150cmに達す
昭和4年3月13～ 14日(1929)	暴 風 雪	函 館	函館付近を通過した低気圧による。汽船3隻、運送船7隻、その他13隻沈没、破損7隻。
昭和4年4月10日 (1929)	な だ れ	新 十 津 川	北幌加内道足修理工事中なだれ発生、圧死5名。
昭和4年4月21～ 22日(1929)	暴 風 雨	空 知 石 狩 後 志 地 方	行方不明83名、船舶15隻、家屋倒壊10戸、破損104戸。
昭和4年4月26～ 30日(1929)	融 雪 洪 水	空 知 南 部 石 狩 地 方	雨降り続き各地洪水となる。被害激甚地 幌向、北、篠路。
昭和4年5月15日 (1929)	火 災	美 唄	我路市街200戸全焼。原因炭火。
昭和4年5月30～ 6月1日(1929)	山 火	宗 谷 ・ 上 川 ・ 空 知 胆 振 地 方	山部村東大演習林1,000ha、当麻陸運用地2,000ha。雄信内市街全滅。
昭和4年6月8日 (1929)	異 常 気 象	北 見	252日間におよぶ連続降雨で管内畑作物雨湿害を受け全滅に近し。
昭和4年6月13日 (1929)	霧	宗 谷	泊内沖合で伏見丸(1,538吨)座礁。
昭和4年6月17日 (1929)	噴 火	駒 ケ 岳	0時26分大爆發、茅部群、亀田群東部一帯大被害、家屋全壊、全焼365棟、同半焼、半壊埋没1,500棟、死者1名、馬63頭、牛23頭、田畑1,400ha、山林31,000ha、牧野4,500ha、道路河川に被害 損害額752万円。
昭和4年6月17日 (1929)	台 風	函 館	浸水232戸、流失破損5戸、道路決壊24、畑浸水流失200ha 損害額6万円。
昭和4年6月18日 (1929)	台 風	道 南 部	浸水232戸、流失破損5戸、道路決壊24、畑浸水流失200ha 損害額6万円。
昭和4年8月22日 (1929)	ひ よ う	網 走 地 方	死者18名、行方不明11名、家屋流失浸水702戸、農耕地1,977ha、船舶沈没破損3隻、その他家畜、道路、橋流失多し損額51万円。
昭和4年8月27日 (1929)	大 雨	函 館	浸水1,141戸、全壊21戸、半壊47戸、流失30戸、橋破損22、田畑691ha、漁船流失25隻、死傷4名、損害額270,000円。
昭和4年9月4日 (1929)	ひ よ う	上 川 地 方	東鷹栖に直径約2cmのひょう降る。被害面積600ha 被害額90,000円
昭和4年9月20～ 23日(1929)	霜	根 室 地 方	そば6割から8割減収。
昭和4年11月12日 (1929)	突 風	上 磯	17時30分突風起り、4戸を破壊、死者1名。
昭和4年11月18日 (1929)	暴 風	道 北 地 方	漁船沈没2隻、死者16名、汽船(1,824吨)座礁。
昭和4年11月23日 (1929)	暴 風 雪	厚 田	季節風による。漁船転覆 水死20名。
昭和4年11月29日 (1929)	火 災	夕 張	106戸全焼 原因放火
昭和5年3月8日 (1930)	流 氷	昆 布 森	午後同沿岸一帯に大流氷おしよせ海藻類の被害甚大。9日夜半に去る。
昭和5年3月13日 (1930)	な だ れ	壯 瞥	弁慶別硫黄山で家屋倒壊 死者6名、重傷3名。
昭和5年4月20日 (1930)	暴 風 雨	寿 都	本道中央部を通過した低気圧による。発動機船遭難、板、壁、棚の倒壊、屋根の飛散多し。
昭和5年5月2日 (1930)	暴 風 雨	猿 払	遭難漁船22隻、水死、行方不明9名、漁船全半壊22隻。同日樺太亜庭湾では死者82名、行方不明102名。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和5年下旬 (1930)	山 火	北 見 根 室 地 方	藻琴原野約10,000ha、鴻の舞、丸瀬布方面15,000ha。 雄武、溝弘原野3,000ha、標津原野山林全焼。
昭和5年5月31日 (1930)	火 災	三 笠	幌内炭山市街地の1/2 146戸全焼。
昭和5年6月17日 (1930)	霧	宗 谷 岬	汽船(3,099屯)、岬東6哩泊内沖で座礁
昭和5年6月19日 (1930)	雷	北 村	第1区農家に落雷あり、焼死2名。
昭和5年7月14日 (1930)	雷	北 見 地 方	斜里、野付牛(北見)美幌の各地に落雷、斜里で雷死1名。
昭和5年7月24日 (1930)	大 雨	中 部	河川はんらんし、浸水家屋道路、橋の流失破損多し。 床上浸水68戸、床下同296戸。
昭和5年8月17日 (1930)	突 風	石 狩	生振村中央部SW～NEに向け竜巻通過、農作物収穫皆無。 約40ha、漁船大破4隻、開村以来の現象。
昭和5年8月20日 (1930)	大 雨	後 志 地 方	死者2名、傷者2名、橋流失破損210、堤防欠壊破損26、道路埋没流失等104、家屋全壊流失浸水5,842戸、田畑浸水埋没1,585ha、鉄道破損17、その他農作物に被害。
昭和5年8月29～ 30日(1930)	暴 風 雨	石 狩・空 知 地 方	家屋浸水1,497戸、堤防欠壊破損52、道路破損77、橋流失破損88、田 畑崩壊埋没浸水3,147ha、損害額34万円。
昭和5年9月2～ 3日(1930)	大 雨	十 勝 地 方	橋流失破損50、畑浸水1,600ha。
昭和5年9月27～ 28日(1930)	ひ よ う	道 中 央 東 部	水田2割5分減収1,030ha、畑3割～5割減収120ha。乾燥稲の落穂 300ha
昭和5年11月1日 (1930)	火 災	稚 内	183戸全焼 原因風呂の不始末。
昭和5年1月1～ 3日(1930)	暴 風 噴 火	湾 別	幌別、白老、苫小牧方面のいわし鮭建網流失多し。損害額10万円。
昭和5年11月12日 (1930)	暴 風 雪	函 館 地 方	漁船1隻沈没、汽船4隻破損。
昭和5年11月12日 (1930)	暴 風 雪	留 萌・増 毛 地 方	30年来の猛吹雪、家屋破損、電柱倒壊多数、死者2名、行方不明4名
昭和5年12月3～ 4日(1930)	暴 風 雪	全 道	季節風の吹き出しによる。
昭和6年1月10日 (1931)	暴 風 雪	室 蘭・根 室 地 方	函館、稚内、様似海岸被害多し。行方不明14名、溺死2名。 秋田附近と金華山沖の低気圧が本道附近を通過。溺死、行方不明17 名、船舶沈没6隻、流失4隻、家屋、全、半壊92戸。
昭和6年1月29日 (1931)	海 氷	宗 谷 海 峡	流氷に閉ざされる。稚泊連絡船開始以来の初現象。
昭和6年2月7～ 8日(1931)	暴 風 雪	西 部	樺太附近の低気圧通過後本道西部で吹雪く。 海陸交通混乱、焼尻島で漁船1隻座礁、溺死8名。
昭和6年2月16～ 25日(1931)	海 氷	宗 谷 海 峡	稚泊連絡船欠航、26日3時出航可能となる。
昭和6年2月21～ 24日(1931)	融 雪 洪 水	石 狩 川 下 流 流 域	石狩川はんらん、北村、篠路、幌向などで床上浸水、田畑冠水被害大 12時49分、震央青森県東方沖M7.7 壁はく落、煉瓦煙突、塀倒壊、亀 裂あり。
昭和6年3月9日 (1931)	地 震	函 館	夕張川、幌向川氾濫、浸水家屋780戸、田畑7,000ha。道路堤防浸水 あり。
昭和6年4月15日 (1931)	融 雪 洪 水	空 知	21日夜半来の雨と高温にて山地融雪急に進み、北村、篠路、幌向など 各地に洪水、死傷16名、家屋浸水1,118戸、堤防欠壊23、道路埋没浸 水41、田畑浸水13,474ha、損害額35,000円。
昭和6年4月24日 (1931)	融 雪 洪 水	石 狩 川 下 流 流 域	北 天塩、雨竜、空知、石狩川はんらん、各地に洪水。 中 浸水家屋1,480戸、田畑冠水890ha、橋、堤防被害あり。
昭和6年5月6～ 7日(1931)	融 雪 洪 水	道 北	石狩、夕張川流域浸水家屋130戸、田畑浸水1,500ha。 鉄道流失40m。
昭和6年6月5日 (1931)	大 雨	空 知	低温、日照不足による収量平年比 水稲0.379 畑0.564
昭和6年6月～ 8日(1931)	凶 冷	全 道	
昭和6年9月7日 (1931)	ひ よ う	根 室 地 方	根室、別海に直径2cm大降る。別海約15,000ha。農作物ほとんど全滅。
昭和6年9月26日 (1931)	台 風	根 室 地 方	日本海南部から北東進し秋田沖で2つに分かれ西海岸北上と東北北 部に残った台風による。農作物被害1,856ha。
昭和6年10月23日 (1931)	暴 風 斜 里	島 戸 狩	島戸狩で漁船転覆死者6名。
昭和6年12月13日 (1931)	暴 風 雨	後 志・留 萌 沿 岸	漁船流失136隻、発動機船難破1隻、溺死9名。
昭和7年1月29日 (1932)	暴 風 雪	寿 都	発動機船遭難大破1隻、溺死5名。
昭和7年3月23日 (1932)	暴 風 余 市	漁 船 沈 没	漁船沈没4隻、破損1隻、行方不明5名。
昭和7年4月27日 (1932)	融 雪 洪 水	北 村	石狩川水位11m増水、美唄川出水、農地1,000ha。
昭和7年4月9～ 10日(1932)	暴 風 小 樽 沿 岸	にしん漁船遭難、漁具およびにしん2,250屯流失。	

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和7年5月27日 (1932)	火 災	余 市	富沢町より出火330戸全焼。原因炉火の不始末。
昭和7年6月15日 (1932)	ひ よ う	北 見 地 方	被害面積置戸36ha、野付牛30ha、津別132ha、農作物2割減収
昭和7年6月16日 (1932)	大 雨	劍 淵	第11、12地区、田畑600ha浸水、水田30ha収穫見込みなし。
昭和7年6月16日 (1932)	霧	太 平 洋 岸	地球岬沖え汽船衝突、室内港内汽船座礁
昭和7年6月16日 (1932)	大 雨	上 川 地 方	和寒、劍淵に雪雨性大雨、田畑泥土におおわれ傾斜地表土流失
昭和7年6月29日 (1932)	霜	根 室 ・ 釧 路 内 陸 上 川 北 部 宗 谷 ・ 北 見 一	約9,000haに強度結露あり。麦類、馬鈴薯以外の農作物ほとんど全滅。
昭和7年8月10日 (1932)	ひ よ う	十 勝 釧 路 北 見 地 方	十勝639ha、被害40,276円、釧路1,095ha、被害83,258円 北見178ha、被害8,214円。
昭和7年8月9日 (1932)	大 雨	全 道 (根 釧 ・ 日 除 く)	8月4日、5日、13日、15日、24日～25日、29日～9月1日、3日～7日、10日～13日と8回にわたり大雨降り。石狩、天塩川を始め道内大小河川降雨の都度ははらん、明治31年来の大水害となる。死者24名、傷者3名、浸水家屋11,035戸、倒壊同80戸、流失17戸、田畑冠浸水108,024ha、道路欠壊682カ所、橋845カ所、河川欠壊1,018カ所。
昭和7年7月9日 (1932)	凶 冷	全 道	6月高温寡照、晩霜、7～9月低温多雨寡照、洪水、ひょう害、稲熱病まんえん、収穫皆無面積 田45,830ha、畑64,948ha、被害額72,586,951円。
昭和7年10月5日 (1932)	台 風	釧 路 地 方	高潮により浸水倉庫32棟、浸水家屋105戸、全壊1戸、半壊1戸、倉庫転倒7棟。
昭和8年1月17～18日 (1933)	暴 風 雪	根 室 地 方	標津通学児童凍死6名、大人1名、凍傷2名、牛馬10頭凍死。家屋倒壊7棟。
昭和8年2月9～21日 (1933)	大 雪	羽 幌 地 方	連日の暴風雪のため約10日列車不通、12日積雪羽幌240cm。
昭和8年3月3日 (1933)	津 波	太 平 洋 沿 岸 (三 陸 沖)	発震時2時31分、震央E144.7° N39.1° の三陸沖地震により太平洋沿岸一帯に3～6時に津波襲来。渡島亀田群漁船流失17隻、同破損21隻、襟裳岬 死者13名、負傷56名、建物全半壊91戸、同流失176戸、船流失163隻、同破損147隻、その他損害計282,568円。 津波最高 庶野10.2、油駒8.0、猿留9.0m。
昭和8年3月28～29日 (1933)	暴 風 雪	根 室 地 方	低気圧根室半島通過により死者5名、家畜165頭、家屋全半壊20戸、船破損2隻。
昭和8年5月3日 (1933)	霧	釧 路 沿 岸	釧路～厚岸間でセチネツ浜で汽船(2,205吨座礁)。
昭和8年5月2～8日 (1933)	融 雪 洪 水	石 狩 空 知 日 高 地 方	浸水家屋1,082戸、田畑浸水7,000ha、橋、堤防、道路破損あり。
昭和8年5月5～6日 (1933)	暴 風	寿 都	死者3名、傷者1名、馬4頭、家屋全壊9戸、半壊4戸、浸水336戸、非住家全壊37戸、半壊14戸、屋根破損470棟、船舶破損35隻、堤防欠壊4カ所、田畑150ha。
昭和8年6月7日 (1933)	暴 風	石 狩 ・ 志 沿 岸	石狩 漁船沈没1隻、行方不明9名、小樽市内看板、屋根破損続出。はしけ沈没数隻。
昭和8年7月25～26日 (1933)	台 風	函 館	倒壊家屋7戸、屋根破損20戸、道央でも浸水家屋300戸橋流失
昭和8年8月6～8日 (1933)	大 雨	上 川 空 知 胆 振 地 方	噴火湾から北上した低気圧と空知・上川附近に停滞した低気圧による上川 死者3名、家屋全壊6戸、浸水1,523戸、堤防欠壊45カ所、同破損45カ所、道路破損18カ所、橋流失73カ所、田畑浸水1,041ha、畑崩壊浸水667ha、被害額40万円。 空知 死者1名、傷者10名、馬4頭、豚1,500頭、家屋全壊60戸、半壊11戸、浸水837戸、堤防欠壊22カ所、破損6カ所、道路破損36カ所、橋流失33カ所、田浸水1,979ha、畑同1,559ha。 胆振地方 行方不明1名、馬10頭、その他家畜500頭、家屋半壊3戸、流失2戸、床上浸水515床下同441戸、堤防破損53カ所、道路破損67カ所、橋破損50カ所、田浸水448ha、畑同225ha、被害143万円。
昭和8年9月1日 (1933)	大 雨	下 川	1日未明より豪雨、浸水家屋700戸、田畑浸水500ha、その他被害多し
昭和8年9月4～6日 (1933)	台 風	渡 島 地 方	台風之余波で渡島東向海岸高潮襲来。家屋全半壊31戸、浸水132戸、船舶被害100隻、堤防被害9カ所、護岸31カ所、橋5カ所、橋欠落2カ所
昭和8年9月4～6日 (1933)	大 雨	砂 原	駒ヶ岳の噴出物崩壊流下し、家屋全壊2戸、同流失5戸、同浸水15戸、同埋没11戸、農作物埋没11ha、道路同4カ所、橋破損2カ所。
昭和8年9月24日 (1933)	暴 風	尾 札 部	旋風起り建物全半壊4戸、同破損5戸、小舟流失6隻、その他被害額1,300円。
昭和8年10月1日 (1933)	異 常 現 象	登 別	14時30分ごろ大湯沼で熱湯150m噴出。
昭和8年10月20～21日 (1933)	台 風	太 平 洋 岸 主 に 函 館	太平洋岸沿いに東進死者2名、傷者2名、家屋浸水79戸、同半壊6戸、船舶沈没1隻、同破損6隻、堤防欠壊13カ所、橋流失3、道路埋没破損
昭和8年11月6日 (1933)	暴 風	浜 益 室 蘭 根 室 地 方	浜益 磯船4隻、道路破損2カ所、橋破損1カ所、家屋破損20カ所、浸水家屋14戸、被害額10万円。 室蘭 市内電柱折れる。家屋破損。 伊達 建網流失(2万円)。根室 漁船破損。
昭和8年11月16～17日 (1933)	暴 風 雨	渡 島 地 方	漁船遭難、行方不明 森6名、鹿部3名。
昭和8年12月3日 (1933)	暴 風 雪	根 室 地 方	雪電線に氷着、強風にあおられ断線電柱倒壊多し。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和8年12月17日 (1933)	暴 風 雪	道 東 地 方	浜中村 出漁中の船帰港途中遭難水死5名、行方不明7名、発動機船破損3隻、大型汽船座礁1隻、電柱倒壊47
昭和8年12月23日 (1933)	霧	汐 首 岬	0時40分ごろ沖合で濃霧のため汽船2隻衝突大破。
昭和9年1月20～ 21日(1934)	暴 風 雪	道 東 地 方	網走地方20日夕～22日朝まで31時間続く。交通各所で断絶、帯広管内21日家屋全壊13戸、半壊12戸、破損320戸、非住家全壊340戸、半壊10戸。
昭和9年1月28日 (1934)	流 氷	利 尻 島	鵜泊沖合に幅約800m流氷襲来、海草被害大。
昭和9年3月21日 (1934)	火 災	函 館	18時50分ごろ住吉町より出火、面積12.25㎡、22,662世帯111,325名、死者2,015名、重傷2,318名(内79名死亡)22日6時鎮火。 原因 強風のため屋根吹飛び2階切抜炉残火拡大による。
昭和9年3月21～ 22日(1934)	暴 風 雪	太 平 洋 沿 岸	函館管内 死者1名、傷者25名、家屋全壊161戸、半壊151戸、破損2,256戸、漁船流失22隻。室蘭管内 家屋全壊8戸半壊40戸、同屋根破損436戸、浦河管内 行方不明3名、傷50名、家屋全壊3戸、半壊2戸、船舶沈没11隻、同流失2隻、同破損59隻。帯広管内 家屋全壊13戸、同半壊12戸、同破損320戸。釧路管内 浜中、厚岸地方に流氷襲来海草被害大。
昭和9年4月11日 (1934)	暴 風 雨	古 平	塩谷方面河川増水交通途絶、浸水家屋480戸、橋流失7、崖くずれあり。
昭和9年6月8日 (1934)	ひ よ う	釧 路 寄 別	14時～15時30分まで降る。農作物被害大、畑被害面積1,036ha 2～3割減収。
昭和9年6月14日 (1934)	ひ よ う	江 別	篠津一帯親指大のもの降る。畑面積437ha。
昭和9年8月25日 (1934)	ひ よ う	標 野	降ひょう区域1,530ha、畑被害甚大、面積80ha、幹の太さ30～50cmの樹強風のため折れる。
昭和9年7月上旬 ～9月上旬(1934)	凶 冷	全 道	夏期低温寡照により、水稻全道平年収量比37%。
昭和9年9月5～ 7日(1934)	暴 風 雨	登 別 地 方	家屋浸水64戸、堤防欠壊9戸、道路埋没18カ所、橋破損18カ所、畑浸水198ha、鉄道欠壊貨車15輛脱線転覆。
昭和9年9月9～ 10日(1934)	大 雨	釧 路 地 方	舌辛 死者2名、農作物被害大。木材流失550㎡、白糖 死傷3名家屋流失破損51戸、農作物被害大。音別 家屋流失倒壊9戸、同半壊20戸農作物7割減収。
昭和9年10月23日 (1934)	火 災	夕 張	196戸全焼。原因ローソクの火。
昭和9年11月1日 (1934)	暴 風 雨	釧 路 ・ 浦 河 地 方	釧路、茶路、雄別川はんらん、木材2,200㎡流失、橋流失、浸水家屋あり。漁船3隻遭難、溺死12名、浦河、漁船8隻破損。水死10名、漁具流失、防堤防欠壊。
昭和10年1月22日 (1935)	暴 風	浦 河	汽車沈没1隻、行方不明9名、傷3名。
昭和10年3月25日 (1935)	暴 風 雪	道 東 地 方	根釧間電信電話全滅的故障、阿寒発電所送電線故障、十勝管内一時停電、大津村高潮にて浸水家屋24戸、半壊8戸。
昭和10年4月30～ 5月3日(1935)	暴 風 雪	全 道	釧路 橋流失1カ所、浸水家屋5戸、厚岸 家屋破損35戸、船大破3隻 浦河管内 堤防欠壊、畑浸水、余市 浸水家屋数百戸、猿間川流域 田畑浸水300ha、道路堤防各1カ所、木材流失500石。
昭和10年7月14日 (1935)	大 雨	東 瀬 棚	家屋浸水50戸、堤防欠壊2カ所、田畑浸水400戸、同埋没7ha。
昭和10年7月28日 (1935)	大 雨	南 空 知	浸水家屋837戸、田畑浸水3,336ha、道路欠壊300m。 鉄道浸水100m、土砂崩れあり。
昭和10年8月27～ 30日(1935)	台 風	全 道	8月下旬より連日降雨に続く。日高、道東地方洪水、日高、十勝海岸被害、水害区域、空知、十勝、網走の4支庁、45町村、死者14名、家屋7,443戸のうち浸水2,074戸、被害額430万6千円。
昭和10年8月7月 ～9月(1935)	凶 冷	全 道	7月中旬多雨寡照8月低温寡照多雨、9月低温、8月29日～30日台風、9月16日霜害、同26日台風による。水稻減収割合3.4割畑同3.7割。
昭和10年9月15～ 16日(1935)	霜	道 東 地 方	北見管内被害田畑25,000ha、根室、釧路、十勝管内同1,500ha
昭和10年9月26日 (1935)	台 風	太 平 洋 岸	銚子沖通過夕刻根室付近に達す。大雨、高潮により死者10名、負傷20名、浸水家屋1,678戸、田畑被害21,869ha、被害戸数4,745戸。
昭和10年10月27～ 29日(1935)	大 雨	渡 島 ・ 十 勝 地 方	浸水6,519ha、損害額92万円、十勝地方 帯広、河西、死者4名、傷者3名、家屋流失14戸、同浸水2,949戸、橋被害166カ所、田畑浸水16,749ha、損害額82万6千円。
昭和10年11月11～ 12日(1935)	暴 風 雨	石 狩 ・ 後 志 沿 岸	北西海岸より南下太平洋岸を通った優勢な低気圧により寿都地方傷者1名、家屋105戸、非住家225戸、船流失破損67カ所、堤防破損10カ所、損害額103,000円、石狩地方死者1名、傷2名、行方不明5名、全半壊228戸、浸水149戸。 船舶327隻、その他。損害額449,000円。
昭和11年1月30～ 2月1日(1936)	暴 風 雨	後 志 ・ 日 高 沿 岸	南尻別家屋埋没1戸、ガス窒息死4名、釧路5日間不通、寿都港内発動機船3隻大破、汽船座礁、日高地方豚20頭、発動機船破損5隻。その他漁具。
昭和11年3月18～ 19日(1936)	暴 風 雨	浦 河	非住家全壊1戸、発動機船破損1隻、道路流失15km。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和11年4月21日 (1936)	暴 風	札 幌	傷者3名、家屋全壊3戸、温室倒壊2戸、屋根破損68戸。
昭和11年6月5日 (1936)	ひ よ う	陸 別	だいず大のもの約30分降る。畑被害99ha、無収穫18ha。
昭和11年4月27日 (1936)	ひ よ う	標 津	畑被害380ha、網走218ha。
昭和11年7月9～ 11日(1936)	大 雨	太 平 洋 沿 岸	渡島地方家屋半壊14戸、浸水370戸、橋流失16カ所、田畑被害182ha 被害額16万、胆振地方、伊達町被害大、家畜58頭、建物流失45カ所 浸水家屋1,098戸、田畑浸水、冠水493ha、被害額92万円、日高地方 家屋全半壊57戸、流失19戸、浸水622戸、橋流失破損82カ所、田畑浸 冠水489ha、被害額58万円、十勝地方死者1名、傷者1名、家畜1,570 頭、家屋流失28戸、同浸水倒壊896戸、橋流失101カ所、田畑同4,010 ha、被害額2千万円、釧路地方家屋流失4戸、浸水40戸、土地流失189 ㎡、田畑浸水415ha。
昭和11年8月18日 (1936)	ひ よ う	置 戸	直径約2.5cm、深さ12cm積る。田畑600ha全滅。
昭和11年8月24～ 25日(1936)	大 雨	日 高	家屋全半壊流失76戸、同浸水622戸、橋流失破損97カ所、田畑1,063 ha、その他28万円。
昭和11年9月5～ 6日(1936)	大 雨	道 南	熊石 床下浸水100戸、圧死3名、泊 土砂崩壊圧死2名、江差 土砂 崩壊、傷者2名。
昭和11年9月22～ 23日(1936)	大 雨	寿 都 地 方	雪雨、発電所落雷、死者6名、傷者7名、馬1頭、全壊家屋10戸、半壊 流失39戸、浸水425戸、橋流失破損50カ所、田畑633ha、 損害額217,429円。
昭和11年10月3～ 4日(1936)	台 風	全 道	三陸沖より根室に上陸した台風と沿海州より宗谷海峡を通る低気圧に より死者10名、行方不明10名、傷者25名、家屋全壊148戸、半壊46戸 床上浸水225戸、床下同358戸、橋流失61カ所。
昭和12年1月12日 (1937)	暴 風 雪	積 丹 ・ 室 蘭 地 方	入舸、シマヌイ沖合で汽船沈没1隻、水死33名。室蘭港外で漁船沈没 1隻、水死11名。
昭和12年2月13～ 14日(1937)	暴 風 雪	太 平 洋 沿 岸	室蘭地方 大雪で交通混乱、煙突折れ電灯線切断多し。 日高地方 家屋半壊146戸、公共建物同4棟、貨物船破損8隻。
昭和12年2月3日 (1937)	な だ れ	小 樽	張碓トンネル入口なだれ、客車転覆、乗客軽傷30名。
昭和12年3月17日 (1937)	噴 火	駒 ケ 岳	4時38分噴火、鹿部付近降灰多く深さ3cm。
昭和12年4月15～ 21日(1937)	融 雪 洪 水	十 勝 地 方	高温と近年になく地中凍結深く、浸水家屋172戸、堤防欠壊27カ所、 橋流失30カ所、余市方面400戸浸水、美幌80戸浸水。
昭和12年5月1日 (1937)	火 災	美 唄	328戸全焼、原因煙突。
昭和12年6月10日 (1937)	暴 風	十 勝 地 方	西方山麓地帯 畑作物風害、要再播面積3,164ha、 被害額175,722円。
昭和12年6月12～ 13日(1937)	霜	全 道	十勝地方 被害面積11,628ha、胆振地方468ha、 各地に被害あり。
昭和12年7月16日 (1937)	大 雨	函 館	床下9cm以上浸水274戸、土砂崩壊2戸。
昭和12年7月19日 (1937)	大 雨	空 知 ・ 石 狩 地 方	石狩川、本支流出水。空知管内 田畑4,008ha浸水。 石狩管内、厚田方面浸水大。
昭和12年7月11～ 13日(1937)	台 風	太 平 洋 沿 岸	南岸沿いに東進した低気圧。 渡島地方死者3名、傷者13名、家屋全壊12戸、流失11、浸水592戸、 漁船破損44隻、根釧地方死者12名、家屋全壊3戸、浸水170戸、漁船 破損44隻、根釧地方死者12名、家屋全壊3戸、浸水170戸、漁船沈没 座礁12隻、行方不明5名、網走地方死者2名、行方不明2名、浸水家屋 97戸、箱流失破損8カ所、網流失30統、その他被害甚大。
昭和12年10月6～ 7日(1937)	暴 風 雨	オ ホ ー ツ ク 沿 岸	死者15名、傷者5名、行方不明45名、船舶3隻沈没、同破損5隻、漁具 流失10カ統。
昭和12年12月4日 (1937)	暴 風 雪	日 本 海 沿 岸 地 方	厚田 漁船沈没1隻、行方不明15名、小樽 漁船沈没1隻、 網走 漁船2隻座礁、流失1隻。
昭和13年1月22日 (1938)	暴 風	太 平 洋 沿 岸	厚賀 漁船沈没1隻、水死5名、釧路 漁船1隻破損、行方不明18名。
昭和13年1月26日 (1938)	暴 風 雪	小 樽	汽船銭函沖合にて沈没、水死31名。
昭和13年2月17～ 18日(1938)	暴 風 雪	釧 路 地 方	死者2名、家屋倒壊9戸、半壊7戸、浸水111戸、漁船沈没1隻。
昭和13年3月29～ 31日(1938)	地 す べ り	厚 岸	床潭に200㎡の地域水平40m上下17m移動、地域内建物2戸崩壊、4戸 破損。
昭和13年5月4日 (1938)	火 災	余 市	152戸全焼、原因たばこの吸殻。
昭和13年5月15日 (1938)	暴 風	十 勝 地 方	風じん、田畑1,234ha、御影、芽室被害大。
昭和13年5月17日 (1938)	火 災	三 笠	弥生町190戸全焼、原因煙突。
昭和13年5月29日 (1938)	地 震	屈 斜 路 湖 畔	1時42分サツテキナイ部落中心に烈震M6.0、死者1名、家屋倒壊5戸、 半壊2戸、破損36戸、倒木2,500本、木炭がま142基破損。
昭和13年5月15日 (1938)	山 火	主 と し て 道 東 地 方	隆別450ha、標津800ha、斜里300ha、太田400ha、富良野100ha焼失。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和13年6月4日 (1938)	暴 風	函 館	倒壊家屋3戸、立看板、樹木、折損171件。
昭和13年6月7～ 20日(1938)	霜	後 志・上 川・釧 路 地 方	17日後志地方、被害面積710ha、要再播面積239ha、18日上川地方被害面積2,578ha、約200ha全滅、20日釧路地方被害面積約2,000ha、豆類ほとんど全滅。
昭和13年6月～ 8月(1938)	干 ば	つ 全 道	空知地方で水騒ぎ40年来の大干ばつ石狩川干し上る。湯水にあえぐ羽幌被害実に20余万円、各地で雨乞い祈願、小樽奥沢水源地SOS。干せ上った石狩川千歳川で船立往生す。
昭和13年9月16日 (1938)	ひ よ う	東 鷹 栖	落雷死4名、負傷3名、田畑556ha、水稲210屯。
昭和13年12月24日 (1938)	大 雪	帯 広	新積雪43cm、市内交通混乱、送電線切断のため十勝一円暗黒。
昭和14年1月9日 (1939)	暴 風	雪 寿 都	寿都鉄道3日間運転休止、発動機船1隻大破、家屋破損10戸、漁具損傷あり。
昭和14年1～2月 (1939)	大 寒	雪 全 道	1月4日～6日、8日～9日、20日～21日、27日～2月2日、5日～6日、26日暴風雪、1月11日～14日、20日、2月9日寒波侵入、海陸交通大混乱、各方面被害多し。
昭和14年4月下旬 ～5月上旬(1939)	融 雪	水 網 走 地 方	網走川、常呂川など出水、橋、道路、家屋、堤防など被害額45万円。2月積雪半年の2～3倍。
昭和14年5月12日 (1939)	地 震	道 東	23時05分強震標本、中震浜中、震央は広尾東方沖。
昭和14年7月12日 (1939)	大 雨	南 西 部	胆振、日高、石狩、渡島で浸水家屋2,226戸、田畑浸水4,000ha、その他被害多し。
昭和14年7月28～ 31日(1939)	大 雨	宗 谷・天 塩・留 萌 上 川 地 方	各地に洪水、稚内地方 家屋半壊26戸、流失6戸、浸水344戸、田畑浸水1,403ha、被害額38万5千円。
昭和14年8月15～ 17日(1939)	台 風	北 見 地 方	根室に上陸当地方経西進、死者1名、家畜51頭、家屋流失22戸、浸水1,262、田畑流失3,300ha、被害額85万6千円。
昭和14年8月25～ 26日(1939)	大 雨	函 館	家屋浸水1,022戸、床下6,880戸、非住家302戸、がけ崩あり。
昭和14年9月12日 (1939)	雷	雨 全 道	南尻別 落雷1棟全焼、家畜4頭焼死、樞法華沖漁船落雷死者1名。
昭和14年10月1日 (1939)	暴 風	稚 内 地 方	礼文島付近 漁船2隻遭難、死者29名、家屋全半壊26戸、船舶流失17隻、破損6隻。
昭和14年10月22日 (1939)	地 震	道 東 地 方	23時39分顕著地震、釧路、根室管内強、中震、震動釧路南々西沖。
昭和14年11月16日 (1939)	火 災	三 笠	幌内1丁目より出火124戸全焼。
昭和15年5月8～ 11日(1940)	山 火	稚 内・宗 谷・北 見 国 境	5日以来の無降雨、高温により勇知～声間10日19時～13日16時まで続く。焼失面積2,156ha、損害額6,209円、原因じんかい焼却残火。枝幸11日10時～13日2時まで続く。焼失面積2,590ha、損害121,050円。
昭和15年5月11日 (1940)	火 災	枝 幸	市街西方丘陵の山火13時15分市街に延焼、30～40分間に焼失戸数470戸、死者16名、行方不明1名、傷20名、損害500,000円。
昭和15年5月15日 (1940)	ひ よ う	石 狩 中 央 部	琴似、手稲、千歳、畑作被害大。
昭和15年8月2日 (1940)	津 波	西 海 岸 北 部	0時08分神威岬北西沖、震央E139° 1' N44° 3' とする顕著地震により西半部中弱震、西海岸一帯津波襲来、後志漁船1隻沈没流失20隻、宗谷漁船沖合へ流失550隻、全壊114隻、半壊75隻、留萌建物全壊14戸、半壊43戸焼失、流失26戸、床上浸水43戸、床下同26戸、漁船81隻、破損629隻、発動機船1隻沈没、破損12隻、損害額26万円、津波約2m、陸地侵入距離約100m。
昭和15年8月8日 (1940)	異 常 気 象	空 知・上 川 地 方	6月上中旬多雨寡照気温格差少、7月中旬多雨寡照最低気温、8月中下旬適湿により稲熟病発生まんえんす。納内、永山、地方だけで収穫皆無584ha、7割減収1,980ha、5割減631ha、3割減193ha。
昭和15年10月6日 (1940)	雷	蘭 越	農家に落雷 1戸全焼、馬1頭焼死。
昭和16年4月13日 (1941)	地 す べ り	夕 張 炭 鉱	多量の積雪と連日の降雨により、工夫長屋8棟63戸新築中の社宅1棟埋没倒壊。
昭和16年4月22日 (1941)	暴 風	留 萌	管内にしん網ほとんど流失、損害漁獲物含め53万円。
昭和16年5月26日 (1941)	大 雪	帯 広 地 方	18時より雪となり翌朝までに17cm積る。山麓地帯で83cm積ったところもある。
昭和16年6月3日 (1941)	霧	寿 都	弁慶岬沖合で汽船衝突、行方不明11名。
昭和16年6月7日 (1941)	大 雨	雄 武	6日以内の大雨で幌内ダム欠壊、家屋22戸流失、行方不明80名。
昭和16年6月6～ 8日(1941)	暴 風	雨 道 東 地 方	太平洋沿岸を通過の発達した低気圧により死者4名、家屋浸水10棟、船舶沈没7隻。
昭和16年7月15日 (1941)	強 風	十 勝 地 方	低温強風により、とうきび折損、豆類被害多し、水稲枯れる。
昭和16年7月～ 8月(1941)	凶 冷	全 道	主に低温多雨、寡照により水稲減収率0.317、上川0.473

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和16年9月5～7日(1941)	台風	道東地方	6月東海岸をすれすれに回り道し夜半にオホーツク海南部に達した台風により、十勝地方 幕別、池田、豊頃、浦幌一帯洪水 釧路地方 死者23名、傷者4名、行方不明1名、家屋全壊28戸、半壊21戸、流失20戸、床上浸水959戸、床下同631戸、田畑流失浸水1,596ha、農作物被害面積2,735ha、木材流失9,744m ³ 、昆布流失150屯、根室地方 家屋全壊5棟、半壊12棟、床下浸水28棟、田畑流失浸水117ha。
昭和16年9月23日(1941)	霜	全道	内陸部一帯霜害を受く、本年の冷害を決定的にする。
昭和16年10月1～3日(1942)	大雨	岩見沢地方	岩見沢元町、川向一帯浸水、幌向家屋浸水320戸、志文内 畑400ha浸水。
昭和17年3月21～25日(1942)	地すべり	然別～銀山間	融雪により列車乗客多数負傷、列車ガラス、郵便車大破。
昭和17年3月8日(1942)	融雪洪水	檜山	檜山管内全河川氾濫、橋破損20カ所以上、流失24カ所、田畑の浸水320ha、道路家屋被害あり。
昭和17年8月16日(1942)	大雨	函館地方	家屋半壊194戸、流失4戸、床上浸水446戸、床下同2,473戸、堤防欠壊272カ所、破損122カ所、道路埋没2カ所、破損185カ所、橋流失破損76件、土地流失132ha、浸水1,045ha、農作物被害額302,560円。
昭和17年8月29日(1942)	台風	浜益	本道西海岸北部で消滅したもの、漁船流失27隻、大破1隻、漁網流失約300m。
昭和17年9月26日(1942)	大雪	全道	札幌11cm、旭川、名寄18cm降雪あり、春以来不順の天候により不作の農作物雪中に埋没す。
昭和18年9月11～12日(1943)	大雨	胆振・空知地方	家屋崩壊4戸、床上浸水343戸、床下同434戸、非住家被害294戸、橋流失26カ所、田流失埋没131ha、畑同407ha。
昭和18年12月3日(1943)	地震	太平洋東部	15時52分震央E143° 5' N42° 1'、襟裳岬の北東約30km沖合
昭和19年6月23日(1943)	噴火	有珠	松本山、火口東側に新火口生成、泥流、旧片岩噴出、火口付近畑作物などに被害あり。
昭和19年7月2～3日(1944)	噴火	有珠山	2日1時、3日3時40ふんごろ噴火、高屋倒壊2戸、破損2戸、家畜死1頭
昭和19年9月18～19日(1944)	台風	全道	18日6時渡島東部に上陸後、北東進し、枝幸付近に抜ける。強風と大雨により各地に被害甚大。
昭和19年10月8～9日(1944)	台風	空知・留萌地方	西海岸沿いに通過、家屋全壊36戸、半壊114戸、流失150戸、交通機関、農作物に被害大。
昭和19年10月13日(1944)	火災	赤平	112戸全焼。
昭和20年2月10日(1945)	地震	日高地方	13時58分震央N40° 9' E142° 1' 八戸北東沖とする顕著地震、日高地方強、中震。
昭和20年5～8月(1945)	凶冷	全道	平均収量(10a) 水稲113kg、大豆113kg。
昭和20年11月11～12日(1945)	暴風雨	西海岸	本道西海岸中部に上陸東進した低気圧による。岩内死1、行方不明計31、船舶遭難4隻、寿都漁船流失破損20隻、被害計200万円。その他石狩、空知地方乾燥中の稲架、家屋被害多し。留萌地方 家屋全壊、半壊1,200戸以上。
昭和20年12月18～19日(1945)	暴風雪	枝寿都	枝幸地方に高潮襲来、停電、通信、交通機関全面断絶。倒壊家屋1、破壊2戸、発動機船流失、沈没3、破損27、木船流失7隻、その他 破損計441,500円、寿都地方 倒壊家屋2棟、発動機船転倒3、漁船流失10隻。
昭和21年5月5日(1946)	火災	札幌	105棟全焼。
昭和21年5月6日(1946)	火災	札幌	南8西1、北10西2より出火250数戸全焼。
昭和21年5月11～13日(1946)	山火	十勝	然別方面1,000～1,500ha焼失。
昭和21年7月20～23日(1946)	大雨	石狩川流域	前線による。田畑冠水流失、橋、道路、その他被害多し。
昭和21年9月18日(1946)	暴風	寿都	日本海を北上した低気圧、行方不明1、家屋倒壊4棟、屋根全部はく離300、一部はく離2,560、電柱倒壊25本。
昭和22年5月16日(1947)	火災	空知	977戸全焼。
昭和22年6月18日(1947)	火災	三笠	126戸全焼。
昭和22年8月15～16日(1947)	大雨	留萌・上川・空知地方	留萌地方 傷1、行方不明1、家屋流失3、床上浸水30、床下同200戸、橋流失破損13件、田畑浸水644ha。上川、空知地方 死7、橋流失111、同破損48件、家屋浸水4,303戸、田畑浸水21,548ha、鉄道流失23件。
昭和22年9月15日(1947)	台風	全道(カスリン)	カスリン台風による。行方不明1、死10、家屋倒壊33、流失20、浸水7,288戸、田畑冠水7,261ha、橋流失194、堤防欠壊75。
昭和22年11月22日(1947)	火災	福島	135戸全焼。
昭和23年1月6日(1948)	暴風雪	函館	西海岸沿いに北進した低気圧による。死16、傷4、家屋全壊3、半壊2戸、小船流失沈没15隻。
昭和23年5月11日(1948)	火災	後志	150棟全焼。
		喜茂別	

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和23年5月16日 (1948)	火 災	上 川	163棟全焼。
昭和23年8月13日 (1948)	大 雨	全 道	前線による。函館 床上浸水23、床下浸水461戸。 網走地方 浸水102戸、橋流失破損30、田畑冠水676ha。 十勝地方 浸水120戸、田畑浸水1,800ha。
昭和23年9月9日 (1948)	台 風	稚 内	死7、漁船遭難多し。
昭和23年9月13日 (1948)	暴 風 雨	函 館	津軽海峡を通過した低気圧による。傷75、家屋流失5、床上浸水236、 床下浸水843戸。
昭和24年1月1～ 2日(1949)	暴 風 雪	太 平 洋	三陸沖を北東進した顕著低気圧による。全壊5、床上浸水185戸、船舶 破損12隻。
昭和24年2月4～ 5日(1949)	暴 風 雨	室 蘭 地 方	津軽海峡を通過した低気圧。全半壊10棟、橋流失2、漁船沈没1。
昭和24年2月8日 (1949)	火 災	寿 都	全焼100戸。
昭和24年2月15～ 17日(1949)	暴 風 雪	日 本 海	船舶沈没3、磯舟流失10隻、家屋全壊、稚内4戸。
昭和24年4月7日 (1949)	暴 風 雨	道 南 地 方	北奥羽より浦河沖を東進した低気圧。室蘭 全壊家屋2、半壊7棟、小 舟流失沈没2、電話、電力障害多し。
昭和24年5月10日 (1949)	火 災	後 志	721棟全焼。
昭和24年5月14～ 16日(1949)	融 雪 出 水	天 塩 川 流 域・帯 広	天塩川流域、田畑浸水1,769ha、家屋浸水121戸、橋流失11。 帯広、田畑浸水350ha、橋流失15。
昭和24年5月30日 (1949)	火 災	夕 張	210棟全焼。
昭和24年6月10日 (1949)	火 災	上 富 良 野	112棟全焼。
昭和24年6～8月 (1949)	干 ば つ	南 部 西 部	被害面積田畑計168,000ha、被害金額25億円余。
昭和24年7月1日 (1949)	火 災	渡 島 古 内	170棟全焼。
昭和24年7月1日 (1949)	火 災	後 蘭 越	104棟全焼。
昭和24年9月1日 (キ テ イ)	台 風 全 道	西 海 岸 沿 い に 北 進 した キ テ イ 台 風 による。死3、行方不明1、傷2、家屋 全半壊7、非住家被害29戸、田畑冠水150ha、小樽機帆船沈没4、配電 線切断無数、りんご落果187.5t。	
昭和24年9月23～ 24日(1949)	大 雨	南 西 部	前線活動による。死傷10、住家流失13、半壊7戸、床上浸水180、床下 同869戸、田畑流失埋没冠水228ha。
昭和24年10月10日 (1949)	大 雨	函 館	16時32分～1時15分連続雨量96mm、床上浸水15床下多数。
昭和24年11月17日 (1949)	暴 風 雨	全 道	西海岸沿いに北進した低気圧と網走沖の副低気圧による。死1、傷94 住家全壊34、半壊72、半焼1、非住家被害35戸、船舶沈没4、流失10、 破損20隻、漁網流失123件。
昭和24年12月5日 (1949)	暴 風	室 蘭 地 方	樺太中部を通った発達した低気圧による。傷2、住宅全壊5、半壊16、 非住家被害21戸。
昭和24年12月12～ 30日(1949)	大 雪	岩 見 沢	鉄道事故多数、貨物滞貨3,486t。送電通信線障害多し。
昭和24年12月28日 (1949)	暴 風 雨	根 室 地 方	根室付近をかすめた発達した低気圧による。倒壊家屋3戸、電話電灯 断絶多し。根室一鈿路間国鉄1日連休。
昭和25年4月21～ 22日(1950)	融 雪 洪 水	天 塩 川 地 域	高温融雪促進浸水98戸、道路欠壊12、堤防欠壊118箇所。 その他、被害額計2億円。
昭和25年5月4～ 5日(1950)	融 雪 洪 水	空 知 上 川	雨竜川、天塩川はんらん、被害面積1,220ha。
昭和25年5月21～ 22日(1950)	異 常 気 象	道 北 道 東	21日夜から22日昼にかけて内陸部に降雪あり。
昭和25年6月2～ 3日(1950)	霜	道 東 地 方	北見地方のみの田畑被害で3,479haに達す。
昭和25年7月15日 (1950)	大 雨	道 南 西 部	家屋浸水、田畑冠水、堤防、橋、欠壊流失多し。 被害高数千万円。
昭和25年7月31～ 8月1日(1950)	大 雨	石 狩 ・ 空 知 ・ 上 川 ・ 胆 振 ・ 十 勝 地 方	雷雨性豪雨、石狩平野一帯洪水、新十津川村山津波、室蘭線列車転 覆、被害 死23、行方不明15、傷70余。家流失62、床上浸水2,857、 床下同6,169戸、田畑被害面積12,471ha、その他道路、橋、被害多し。
昭和25年8月27～ 28日(1950)	大 雨	稚 内 ・ 滝 川 町 ・ 千 歳 川 流 域	浸水家屋、稚内521、滝川1,000、広島、恵庭56戸。 田畑冠水307ha。
昭和25年11月14～ 15日(1950)	暴 風	近 海	季節風強く海上最大風速20m/s内外、漁船遭難27、死1、行方不明47 函館W11m/s。
昭和25年11月18～ 19日(1950)	暴 風 雨	道 南 ・ 道 央 ・ 道 東	死3、家屋浸水、倒壊、漁船、鉄道、電話、被害多し。 札幌SSE15.7、室蘭SE20.0m/s。
昭和25年11月27～ 29日(1950)	暴 風 雪	沿 岸 各 地	海岸地方各地最大風速25m/s前後となり、家屋倒壊、漁船そうなん28 隻、死9、行方不明102、江差NW28.4、網走WNW29.8、 浦河WNW29m/s

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和25年12月30日～ 26年1月2日 (1950～1951)	暴 風 雪	道 南 西	宗谷海峡を通った顕著低気圧により沿岸地20～30m/s内陸地15m/sとなり、家屋倒壊、漁船流失、沈没多し、渡島大島村全村漁船ほとんど流失、江差W32.5、雄武28.2、留萌WSW30.3m/s。
昭和26年1月7～ 8日(1951)	異 常 現 象	函 館	7日夜半～8日朝にかけ港内に厚さ5cm沿岸結氷あり。昭和年間になつての初現象。
昭和26年1月29日 (1951)	噴 火	樽 前 山	昭和11以来の噴火、勇払一帯灰降る。苦小牧降灰。
昭和26年2月22～ 23日(1951)	暴 風 雪	稚 内 地 方	なだれ20カ所発生、稚内高校生凍死1、礼文島雪崩で家屋倒壊圧死3稚内22日NE205m/s。
昭和26年5中～6 中(1951)	山 火	全 道	干天続き山火各地で発生、焼失面積、根室4,500、網走2,390、釧路、宗谷1,000ha。
昭和26年8月31日 ～9月4日(1951)	大 雨	道 央	4日以上も降雨連続、総雨量最多地300mm以上に達す。留萌川、徳富川、雨竜川、浜益川はらんらん、被害空知地方死1、行方不明3、家屋全壊13、同半壊7、床上浸水99、床下同286戸、橋流失23、田畑冠水3、3,723ha、留萌支庁一家屋全壊6、同半壊31、床上浸水843、床下同338戸、田畑浸水1,520ha、31日～4日R、浜益300mm以上。
昭和26年10月1日 (1951)	強 風	天 塩	倒壊家屋4、破損7、屋根破損100戸
昭和26年10月12日 (1951)	暴 風	斜 里 地 方	漁船転覆2、行方不明10、重傷1
昭和27年2月中旬 (1952)	暴 風 雨	道 央	留萌、岩見沢地方積雪150cm余、羽幌線11日より運休、岩見沢駅中心に札幌全貨物車運休
昭和27年3月4日 (1952)	津 波	全 道 (十勝沖地震)	10時23分震源地襟裳岬E70km42.2° E143.9° M8.1太平洋岸津波被害あり、地震規模S8年3月三陸津波地震の1/3S23年6月福井地震の4倍
昭和27年3月20日 (1952)	大 雨	根 室	河川はらんらん浸水家屋100余戸19～20日R、83.7mm
昭和27年4月15日 (1952)	暴 風	寿 都	同町屋根8割被害、全壊家屋6、半壊同約20戸。 漁船遭難続出SSE49.8m/s。
昭和27年5月10～ 13日(1952)	山 火	道 南	10～15日今金町、13～14日森、八雲町近郊、焼失面積7,135ha、学校2棟、民家54戸全焼。
昭和27年5月13～ 14日(1952)	暴 風	全 道	陸海被害続出、30地点より山火発生、山林34,000ha、民家120戸焼失傷18、風じんて十勝地方11か町村南富良野など十勝岳山麓は、再播必要、道東船沈3隻。
昭和27年7月25～ 26日(1952)	大 雨	留 萌 ・ 宗 谷 地 方	宗谷、北見両線不通。浸水戸数1,104戸、田畑冠水400ha。
昭和27年8月5～ 7日(1952)	大 雨	釧 路 地 方	畑浸水120ha、橋流失など被害発生、5～7日、R89mm。
昭和27年8月20日 (1952)	台 風	道 南 地 方	大雨で家屋倒壊、田畑流失266ha、橋流失3、船舶流失沈17隻
昭和27年9月17日 (1952)	ひ よ う	北 見 諸 滑	家屋、窓ガラス破損続出、農作物被害大。
昭和27年10月2～ 3日(1952)	高 潮	太 平 洋 沿 岸	三陸沖を北東進した熱低余波の高潮で家屋浸水、同破損、漁船漁網流失多し、十勝支庁管内被害8,000余万円。
昭和27年10月15～ 16日(1952)	暴 風 雨	南 西 部 海 岸	10～20m/sの風雨で果実農作物被害特に多し。
昭和27年10月21～ 22日(1952)	暴 風	道 東 地 方	最大風速20m/s以上瞬間最大風速30m/sとなり、高潮を誘起す、漁船転覆、家屋倒壊浸水多数、網走市長管内鮭、鱒位置の被害額のみでも10億円。
昭和27年11月5日 (1952)	津 波	太 平 洋 岸	カムチャッカ半島南東沖地震(5日1時58分25秒)により太平洋沿岸に波高1m前後高波来襲、家屋浸水、漁船流失被害発生。
昭和27年12月21～ 22日(1952)	暴 風 雪	全 道	日高沿岸風速30m/s、家屋堤防漁船被害多し。
昭和27年12月27日 (1952)	流 氷	網 走	網走測候所開設以来60年間で12月中に襲来した事は今回で2回目。
昭和28年1月12～ 13日(1953)	暴 風 雪	全 道	列車ダイヤ混乱青函半日以上運航停止、太平洋沿岸高潮襲来、道東大雪、帯広積雪110cm(同測候所開設以来記録)
昭和28年4月28～ 29日(1953)	大 雨	余 市 地 方	余市家屋流失2、浸水325戸、橋流失11、漁船流失2隻、田畑浸水1,880ha。
昭和28年5月23日 (1953)	火 災	江 別	家屋264戸全焼。
昭和28年7月7～ 9日(1953)	台 風	胆 振 以 東 太 平 洋 沿 岸	死1、行方不明2、浸水家屋4,051、同流失破損107戸、田畑浸水23,776ha、同流失1,767ha、橋流失破損191その他被害多し。
昭和28年7月25～ 26日(1953)	大 雨	松 前 地 方	梅雨末期の前線による、家屋流失、田畑冠水など損害計2,130万円
昭和28年7月27～ 28日(1953)	大 雨	遠 京 極	洪水、田畑被害多し、比羅夫一狩太トンネル土砂崩壊不通。
昭和28年7月31～ (1953)	大 雨	上 川 ・ 留 萌 ・ 空 知 地 方	前線のため大雪山以西地区に大雨、被害死1、行方不明1、家屋全壊17、同流失64、床上浸水2,422、床下同4,406戸、水田畑流失埋没52ha、同冠水20,000ha、橋92、道路41、堤防54カ所被災、崖崩れる。
昭和28年9月25～ 26日(1953)	台 風 (テ ス)	太 平 洋 岸 東 部 オ ホ ツ ク 沿 部 南	三陸沖より西東進し根室北を通る、死1、家屋全半壊69、床上浸水111床下360戸、橋流失21。
昭和29年1月29～ 30日(1954)	暴 風 雪	全 道	札幌周辺オホーツク沿岸北部の新積雪70～80cmに達し海隆被害多し被害激甚地の岩内一寿都海岸で死43(瀬棚37)傷1、漁船沈没20、破58隻、建物全壊3戸。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和29年4月17～19日(1954)	融雪洪水	日高地方	6～70mmの豪雨と融雪、家屋流失、倒壊、田畑流失などその被害額概算5億円。
昭和29年4月22～24日(1954)	山火	道南地方	原因火入れ6、電線短絡1、計7件発生、384ha焼失。
昭和29年5月9～10日(1954)	暴風雨 (メイ・スーム)	全道	発達した低気圧西海岸より本道を横断網走沖を通過、この低気圧はS9.3.21函館大火の低気圧とともに記録的強度のもので最低中心示度954mb示し戦後最大の被害を生ず、全道被害集計死26、傷69、不明390、家屋全壊301、半壊474戸、船舶沈没51、同不明24、同座礁8、同破船212隻、田畑冠水57ha、温床苗代被害8.7ha、道東沖鮭、鱒漁船沈没28隻。
昭和29年6月6～9日(1954)	霜	全道内陸	田畑被害大、農作物病虫害発生まんえん。
昭和29年6月30日(1954)	山火	宗谷・釧路地方	標茶1,200、浜中8,000、宗谷管内1,000ha焼失。
昭和29年6月上～7月中(1954)	干ばつ	全道内陸部	道央～道北程度大、明治16年以来の被害。
昭和29年8月4～5日(1954)	大雨	上川・空知地方	雷雨性大雨田畑被害大。
昭和29年8月14～16日(1954)	大雨	上川南部 北空知地方	前線中央部に停滞振動による田畑洪水被害多し。
昭和29年8月19～20日(1954)	大雨	道央道東	前線南北振動による。上川床上浸水117、床下同674戸、田畑冠水910ha。空知浸水戸数448、田畑冠水302ha、網走田畑浸冠水1,026ha。
昭和29年8月25～26日(1954)	霜	北内陸部	見中湧別町、相の内村、東藻琴山麓被害大。
昭和29年5月～9月(1954)	凶冷	全道	5月中～7月中低温寡雨、7月下～9月中低温多雨、暴風雨、干ばつ台風発生、全道米収量平年比50%。
昭和29年9月26日(1954)	台風 (洞爺丸)	全道	早朝九州南部上陸、九州中国地方横断、時速100km前後で日本海上北東進し、15時津軽海峡西方海上に達す、中心示度960mb以下、その後時速40km内外で北東し、27日朝宗谷海峡通過、青函連絡船沈没5隻、人的損害1,600余名、全壊家屋5,987戸、漁船被害1,865隻、農作物被害総面積297,370ha余、立木被害512万m ³ 、被害総額500億円余。災害救助法9市48町72村。
昭和29年9月26日(1954)	火災	岩内	20時15分相生木造2階アパートより出火強風(20時寿都37.6m/m)にあおられ全長の8割3,300戸全焼、死60、船舶焼失100隻以上、損害105億円。
昭和30年2月20～21日(1955)	暴風雪	全道	奥羽北部より太平洋沿岸を通った低気圧による、交通機関船舶関係被害大、船舶沈没22隻、座礁7、大中破8、流失6隻、国鉄ダイヤ寸断、小中学校全道ほとんど休校。
昭和30年3月7～19日(1955)	大雨	主に道南 道西	樺太南を通る前線による雨と暖気。札幌道警管内一行方不明1家屋破壊19、浸水588戸、橋流失4、函館道警管内一死2、家屋破壊20、浸水211戸、旭川道警管内一家屋流失2、浸水456戸。
昭和30年5月4～5日(1955)	暴風雨	道南	後志地方温床33knf破損。
昭和30年7月2～4日(1955)	大雨	留萌 北空知 上川北部 日高地方	雨竜、天塩、阿川、日高各河川上流域に100～200mm降り洪水となる、死13、不明30、負傷46、家屋全壊流失187、半壊141、床上浸水8,534、床下同12,280戸、田畑被害48,922ha、全道被害額87億円。日高、静内新冠地区の被害特に大。
昭和30年7月10～11日(1955)	大雨	上川南部 北空知地方	東西にのびる前線により大雪山系に100～150mmの大雨降る、床下浸水、1,479、床下同4,078、田畑冠水3,400ha、橋流失26。
昭和30年7月22～23日(1955)	大雨	追分・千歳地方	追分、千歳、由仁、栗山を中心に局地豪雨、床上浸水134、床下同986戸、水田流失19、田畑冠水1,844ha、橋流失13。
昭和30年8月17～21日(1955)	大雨	北空知 上川北部 日高地方	17日午後の名寄付近の大雨は21時ごろに旭川付近で6時間雨量169mm、雷雨性豪雨となる。石狩、天塩川流域はんらん。死9、不明2、全壊戸数14、流失戸数12、床上浸水2,768戸、床下同4,231戸、田畑流失334ha、同冠水12,362ha、道路破壊60、橋流失59、堤防欠壊95、罹災者17,882。
昭和30年8月29～31日(1955)	大雨	道北	本道を通じた前線により天塩、雨竜川流域大雨により洪水、死1、傷5、不明2、破損家屋17、床上浸水822、床下同1,881戸、田畑冠水2,000ha、罹災者4,900。
昭和30年10月7～8日(1955)	暴風雨	道南地方	低気圧により、家屋浸水800戸、田畑冠水12ha、漁船その他被害あり。
昭和30年11月16日(1955)	暴風	鴛泊	全壊14、半壊20戸、負傷4、電柱屋根へい飛散大。
昭和30年11月19日(1955)	噴火	雌阿寒岳	16時30分噴火、黒煙噴出、飽別発電所降灰のため真白となる。
昭和31年1月13～14日(1956)	暴風雪	道南	漁船遭難続出、死5、行方不明58(岩内港附近漁船7隻沈没、死38)。
昭和31年2月11～12日(1956)	暴風雪	道北	宗谷、深名、名寄各鉄道線ダイヤ寸断。
昭和31年3月7～8日(1956)	暴風雪	道東	小中学校臨時休校、漁船座礁、なだれあり。
昭和31年3月16～17日(1956)	大雪	道南	渡島、胆振、日高山地に40～60mmの大雨、函館本線なだれ、土砂崩壊で不通、融雪洪水、漁船遭難あり、八雲なだれで工場壊圧死11。
昭和31年4月16～17日(1956)	暴風雨	石狩・尻別川流域	高温と後志、道央山岳地帯60～80mmの降雨有り、漁船12隻、遭難(沓形)死15、不明43、家屋破壊35、床上浸水1,087、床下1,320戸、田畑冠水13,000、田畑流失埋没24ha、被害者8,829。
昭和31年5月上	火災	全道	高温、低温で強風続く、3日小樽111棟、7日下川253戸全焼、東川、女

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
(1956)			満別、別海などに山火発生。
昭和31年6月15日	噴 火	雌 阿 寒 岳	16時24分噴火、硫黄鉱業所現場事務所一部破壊、火山弾8合目まで降下。
(1956)			
昭和31年7～8月	凶 冷	全 道	5～6月初旬の高温と干ばつ、6月中旬～7月下旬低温、寡照多雨、8月中下旬の低温、低湿による水稲実歩合道平年比55%減収額360億円。
(1956)			
昭和31年8月17～19日	台 風	渡 島 ・ 後 志 地 方	奥羽西海上より北東進19日夜半渡島東部上陸消滅、渡島、後志地方に100～200mmの大雨降る、床上浸水187、床下同1,001戸、田畑冠水2,721ha、橋、堤防、道路など39カ所被災。
(1956)			
昭和31年12月下	大 雪	西 部 地 方	季節風強く連日雪の日続く、雨竜川上流、羊蹄山麓積雪2mに達す。
(1956)			
昭和32年3月5～6日	大 雪	函 館	台湾坊主により、新積雪40cm、積雪最深82cm開設以来の記録、下海岸吹だまり箇所220cm交通完全まひ。
昭和32年3月9～11日	暴 風 雪 道 道	南 三 陸 沖	～本道東方海上を通過した発達した低気圧による、10日朝沿岸1～3mの高潮襲来、111戸浸水、全壊53戸、磯船流失7、大破18隻、松山上の国村今井鉱山なだれに埋没、死7、傷18、6日積雪最深函館82cm。
昭和32年3月13日	な だ れ	中 札 内	ヒョータン沢砂防工事事務所飯場倒壊68、埋雪、死18、重傷10。
(1957)			
昭和32年4月8日	火 災	木 古 内	SSW13m/s強風中出火、350戸全焼、被災者数約1,000名。
(1957)			
昭和32年4月18日	暴 風	宗 谷	春にしん漁刺網船4隻遭難。
(1957)			
昭和32年5月9日	暴 風	下 川	SW13m/sの強風で目抜の場所125戸、全半焼重傷5、軽傷5、損害5億円。
昭和32年5月21～22日	大 雨	北 見	常呂川他氾濫、浸水家屋260戸、田畑冠水1,000ha。
(1957)			
昭和32年7月6日	ひ よ う	空 知 ・ 上 川 地 方	田畑2,700ha被害。
(1957)			
昭和32年8月5～7日	大 雨	根 釧 地 方	梅雨末期前線による、死傷3、家屋全半壊4、浸水1,158戸、畑冠水1,831ha。
(1957)			
昭和32年9月17～19日	大 雨 道 道	央 東	深い気圧の谷をともなった低気圧による、釧路方面で死5、その他各地で家屋半壊流失4、浸水2,600戸、田畑流失955、同冠水12,800ha、橋流失57、道路破壊134カ所、堤防欠壊86カ所被害額10億円。
昭和32年12月18～19日	高 潮	松 前 海 岸	沿海州沿いに北東した低気圧による。松前奥尻方面高潮起る漁船59隻破損。
昭和33年1月2～3日	暴 風 雪	西 海 岸	本道中央部を横断した低気圧による。船舶沈5、大中破36隻、家屋破壊11、国鉄ダイヤ混乱。
(1958)			
昭和33年1月9～10日	暴 風 雪 道	南 地 方	本道中央部を通過した発達した低気圧による、死1、負傷1、家屋被害13戸、船舶沈10、不明1、破損8隻、その他交通通信被害多し。
昭和33年1月15～18日	暴 風 雪 全 道		太平洋、日本海両沿岸沿いに進んだ低気圧による海岸地方被害大、陸上－死4、傷1、海上－船舶沈6、小破4、行方不明34。
昭和33年1月22～23日	暴 風 雪	渡 島 ・ 後 志 山 地 方	発達した低気圧による、沿岸一帯風浪高し、船舶流失3、破損17、磯船破損流失計224隻。
昭和33年2月3～4日	暴 風 雪 道	東 地 方	最大風速15m/s、新積雪40～80cmの風雪、国鉄ダイヤ混乱、船舶乗り上げ大破2、浸水中破1、ソ連領へ非難20隻、広尾町でなだれ7名埋雪(死1、重傷1)
昭和33年2月26～27日	暴 風 雪 道	北 ・ オ ホ 一 ツ ク 沿 岸	宗谷海峡通過した低気圧により樺太千島海上出漁中漁船遭難行方不明50～60名。
(1958)			
昭和33年5月13日	霜	上 川 ・ 北 見 地 方	水稲温床苗に被害、低温気温旭川－4℃、留辺蘂－7℃。
(1958)			
昭和33年5月13～14日	暴 風	天 塩 沿 岸	南高北低気圧傾度急、天塩町にしん網342,000m、遠別町216,000m流失、損害計2,500万円。
昭和33年5月23日	火 災	留 萌	3W14m/s強風下出火、100戸200世帯全焼。
(1958)			
昭和33年6月20日	霧	沿 岸 地 方	津軽海峡汽船しょう突、宗谷岬色丹島沖で漁船しょう突。
(1958)			
昭和33年7月23～24日	台 風	空 知 ・ 胆 振 ・ 日 高	三陸沖より厚岸付近上陸通過。日高山系南西側100～200mmの大雨、死7、負傷8、行方不明2、家屋破壊13、床上浸水242、床下同1,038戸田畑冠水3,566、同流失955ha、橋、道路堤防51カ所被災。
昭和33年8月19～20日	大 雨 道	南 本 州	の前線北上により200～300mmの大雨、日高地方死2、傷2、床上浸水184、床下同612、家屋全壊2、同半壊5戸、田畑流埋155、同冠水1,323ha、道路欠壊67、橋流失損壊41、堤防欠壊7、地すべり22カ所、函館市内床上浸水2、床下同264戸、木古内床上浸水350、床上同60戸、田畑冠水100ha、鉄道被害大。
昭和33年8月27日	台 風	十 勝	太平洋上東進100～200mm降雨、定置帯畑5,000ha冠水。
(1958)			
昭和33年9月27～29日	台 風	根 釧 日 高 地 方	太平洋沿岸を東進道東に上陸平均25m/s、平均最大30m/sの暴風雨死8、傷41、行方不明26、全壊家屋146、破損3,800、床上浸水176、床下同476戸、田畑冠水267ha、船舶沈11、流失2、破損14隻、罹災者5,029名、日高管内被害特に大。
(1958)			
昭和33年11月7日	地 震	全 道	7時58分3秒釧路強震、根室、帯広、浦河、札幌中震。震源地エトロフ島南200km、N43.5、E148.5、深さ約100km、道東を中心に鉄道通信および津波にて港湾施設に若干障害あり。
(1958)			
昭和33年11月18～19日	暴 風	渡 島	いかつり船4隻沈、死行方不明計25。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和33年12月10日 (1958)	暴 風	松 前 沿 岸	午後から最大風速30m/s大時化、青函連絡船翌朝まで運航停止、漁船流失30隻。
昭和34年1月30～ 31日(1959)	暴 風 雪	太 平 洋 岸	奥羽東西両海岸より、太平洋上を通った低気圧による陸上15、海上25m/sのふぶき、行方不明13、漁船沈5、座礁1、ソ連へ緊急退避37隻。
昭和34年1月30～ 31日(1959)	地 震	東 弟 子 屈 町 温 泉 一 時 止 ま る 。 根 室 本 線 不 通 、 震 源 地 弟 子 屈 町 SW10km 附 近 。	
昭和34年2月10日 (1959)	暴 風 雪	岩 内	海上18～20m/s、漁船31隻遭難、行方不明6。
昭和34年4月6日 (1959)	暴 風 雪	羅 白	12時40分ごろよりNWふぶき強まり、陸上歩行困難、海上視界さえぎらる。13～16時一層強まる。すけそ刺網漁船15隻沈、行方不明、死不明計85、家屋全壊30、同破損87戸。
昭和34年4月22～ 24日(1959)	暴 風 雪	胆 振 地 方	死4、傷3、不明3、家屋損壊380戸、床上浸水409、床下浸水210、田畑冠水1,940ha、漁船転覆2、乗り上げ2、大破7、ソ連入域退避12隻。
昭和34年5月中旬 (1959)	霧	道 東 海 域	13日釧路沖鮭鱒流網船沈、13名絶望、16日花咲沖北洋独航船と衝突行方不明5、19日静内沖で漁船座礁。
昭和34年8月18～ 19日(1959)	大 雨	道 央	芦別、歌志内を中心に150mm前後の雷雨性大雨で洪水。
昭和34年8月27～ 28日(1959)	大 雨	胆 振 ・ 日 高 ・ 十 勝 地 方	死1、不明1、浸水家屋156、流失2、田畑10ha、橋流失9、道路壊7。
昭和34年9月6～ 7日(1959)	大 雨	道 央	局地的に200mm越す雷雨、洪水で流失全壊20、床上浸水667、床下同1,903戸、田畑冠水3,644ha、橋流失26、道路欠壊24、堤防欠壊11、がけ崩れ12。
昭和34年9月18日 (1959)	高 潮	道 山 沿 岸	西方沖通過の台風により高潮、高波来襲、波高6m(所により7～9m)死亡8、負傷118、行方不明4、船舶沈流失破損1,500隻、家屋全壊340戸田畑被害12億円、罹災者10,502人、(松前2,201、福島2,692、熊石3,192、大成2,417)
昭和34年9月20日 (1959)	ひ よ う	道 浜 益 村	収穫期の水稲被害面積300ha、皆無60ha。
昭和34年9月27日 (1959)	台 風	太 平 洋 沿 岸	伊勢湾台風は27日朝、秋田沖に停滞、入戸沖に副低気圧発生、太平洋上東に去る。災害は主に高潮、激波による、死1、家全壊40戸、半壊70、破損384、浸水家屋342、橋流失、道路堤防欠壊など32、がけ崩れ6、船舶沈11隻。
昭和34年10月23～ 24日(1959)	暴 風	礼 文 島	陸上15～20m/s海上30m/s強風、小学校1倒壊、民家全半壊、漁船転覆不明3。
昭和34年12月3～ 5日(1959)	暴 風 雪	渡 島 地 方	西海岸沿いに北東進した低気圧による。星間貨客船25本欠航、乗客1,500人函館、青森で立往生。
昭和35年1月16～ 18日(1960)	暴 風 雪	道 東	三陸沖一根本室沖を台風なみに発達した低気圧による。陸上一死7、負傷11、不明3、乗り上げ5、破損22隻、行方不明55。
昭和35年3月12～ 13日(1960)	融 雪 洪 水	道 東	11日以来の高温と大雨で融雪洪水となる。救助船転覆で死3、床上浸水520、床下浸水824、道路破壊11、橋流失13、その他交通、通信障害多し。
昭和35年5月24日 (1960)	津 波	太 平 洋 沿 岸	洋震時23日4時11分20秒、震源地チリ沖中部沿岸S38°、W73°の地震により24日2時38分花咲に始まり夕刻にかけて各地に津波襲来大被害発生、死8、行方不明7、負傷15、床上浸水2,082、床下浸水985、全半壊871戸、船舶流失破損沈没223隻、その他各方面被害大。罹災者11,204名、最大津波高(cm)花咲227、釧路241、霧多布405、浦河299室蘭120、函館221、網走62。
昭和35年6月6日 (1960)	突 風	月 形	11時50分頃竜巻巻き、木造納屋の2階抜去、電柱1本ねち倒し幅3～4m、長さ150m、深さ10cm表土巻き上げる。
昭和35年6月27～ 29日(1960)	大 雨	道 山	100～200mm大雨、家屋倒壊、道路橋、田畑流失多し。
昭和35年8月2～ 3日(1960)	大 雨	道 北 ・ 北 見 地 方	前線の南北振動による死1、家屋全半壊4、床上浸水247、床下浸水609戸、橋流失3、道路欠壊8、田畑冠水503ha、畑流失55ha。罹災者1,220。
昭和35年10月21日 (1960)	高 潮	太 平 洋 沿 岸	太平洋上を通る台風の余波による、苦小牧、白老で幼児2溺死。
昭和35年11月30日 (1960)	突 風	松 前	朝、直径40m高さ100mの竜巻発生建物3棟倒壊。
昭和35年12月25～ 26日(1960)	暴 風 雪	道 東	根室沖を通過した、発達した低気圧による。陸上20、海上30m/sのふぶき、列車運休、電信、電話障害、学校休校、根室海岸高潮にて床上浸水15戸。
昭和36年1月4～ 7日(1961)	暴 風 雪	道 全	4日本道南北部を通り南千島で一つになった低気圧による家屋全壊19半壊12、破損55、非住家損67戸、漁船沈2、破損33、汽船破損4隻、列車運休170本、被害最多地羅臼村。
昭和36年1月25～ 26日(1961)	大 雪	道 北	太平洋沿岸を通った発達した低気圧による。なだれのため宗谷線雄信内一問寒別鉄橋破壊、道東鉄道不通。
昭和36年2月7～ 9日(1961)	暴 風 雪	道 東	三陸沖より道東沖に抜けた発達した低気圧による。国鉄ダイヤ混乱、運休165本、釧路市でなだれ圧死1、重傷2道東小学校臨休。
昭和36年2月9日 (1961)	な だ れ	道 都	樽岸西方「小川の沢」で700m ³ 、落雷あり死1、傷4。
昭和36年4月3～ 4日(1961)	流 氷	道 釧 路 沿 岸	3月19日～20日、同31～4月1日2回、流水接岸、漁網、海草類被害大被害額約8億円。
昭和36年4月4～ 5日(1961)	融 雪 洪 水	道 南	北部を通過した発達した低気圧がもたらした異常高温と集中豪雨による。死39、傷13、家屋全壊4、同半壊3、破損2、流失2、床上浸水247、床下浸水1,152、非住家被害5戸、田畑冠水386、畑流失7ha、橋流失14、道路欠壊20、堤防欠壊8、死傷者は新冠、平取町の工場現場なだれによる。
昭和36年5月28～	風 雨	道 全	主な被害地は函館方面で高潮被害あり、傷7、家屋全壊3、半壊16、破

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和36年7月24～26日(1961)	大 雨 道	南	損779、浸水家屋83、田畑冠水198ha、漁船破損2、流失32。 梅雨末期の大雨により南西部に100～200、山岳部300mm近くの暴雨、石狩、空知、堀株川出水、死19、傷25、行方不明7、建物全壊39、半壊98、非住家被害2,892棟、田流埋没2,177、冠水27,548、畑流埋没574冠水17,029ha、道路欠壊590、橋流失319、堤防欠壊453、崖くずれ230鉄道欠壊58カ所、船流失1、破12、被災者概数52,428。救助法6市23町村に適用。
昭和36年8月28日(1961)	ひ よ う 本	別	押帯、勇足付近に約10分経1.5～3.0cmのひょう降る。積もった深さ10cm被害畑478ha、被害金額20,937,000円。
昭和36年9月5～6日(1961)	大 雨 道	南	南熱低と前線による雷雨、死1、傷1、家屋全壊11、半壊25、床上浸水228
昭和36年9月16～17日(1961)	台 風 全 道 (第2室戸)	道	北 床下浸水1,418戸、橋44、河川105、道路62カ所欠壊破損。 関東を中斷日本海に抜け北東進し西海岸沿いに北上(第2室戸台風)強風による海岸地帯被害大。死3、傷15、全壊家屋36、流失17、半壊190、破損2,228戸、床上浸水34、床下311、非住家被害483戸、畑流埋没18、田畑浸冠水131,598ha、橋12、道路33、河川6カ所欠壊、汽船沈3、汽船乗り上げ1、漁船沈8、破損11、流失3、乗り上げ9、ソ領退避33隻。
昭和36年10月5～6日(1961)	大 雨 道	南 地 方	台風くずれの低気圧と前線による。登別温泉町一時壊滅状態になる、主被災地南茅部、上磯、木古内、登別、室蘭、白老、白糠、羅臼、死13、行方不明4、傷7、住家全壊35、流失35、半壊53、床上浸水2,454、床下浸水57,145、非住家被害1,136戸、田畑浸水3,304ha、河川255、道路110、橋76カ所被災、がけ崩壊50カ所、船舶破損17隻、被害額計3,725,766千円。救助法1市1町適用。
昭和36年10月23～24日(1961)	火 災	森	23日23時45分中心街出火、傷7、全焼586、24日3時50分ちん火。 24日2時35分瞬間最大風速WNW15.8m/s。救助法適用。
昭和36年10月29～(1961)	高 潮	胆 振 日 高 釧 路 沿 岸	根室南東海上を通過した台風による。行方不明1、傷4、住家全壊15、浸水300戸、その他被害多し。
昭和37年1月2～3日(1962)	暴 風 雪	全 道	本道南岸沖を通過した低気圧による強風と湿雪、客車166、貨車25、本道運休全道交通まひ、日高道東地方通信電力2日夜～3日にかえ不通過被害、傷1、半壊1、床下浸水72、破損55、非住家被害2戸、道路欠壊5、船沈1、破損1、小船破損5、ソ領退避16隻。
昭和37年2月10～12日(1962)	強 風 道	南	本道横断の発達した低気圧による。死2、傷5、家屋全壊1、破壊10、非住家破壊2棟、道路欠壊1、山崩壊2。
昭和37年4月4日(1962)	融 雪 洪 水	当 別 ・ 名 寄 ・ 羽 幌	日本海を北上した低気圧による高温と降雨、全壊6、半壊1、床上浸水591、床下浸水1,290戸、橋流失18、道路欠壊24、堤防欠壊9、がけ崩壊7カ所。当別町に救助法適用。
昭和37年4月23日(1962)	地 震	十 勝 ・ 釧 路 地 方	14時58分N42.8°、E143.8° 東北東沖を震源地とする、顕著地震。十勝、釧路強震、池田町家屋損壊72戸、重傷1、道路、橋、水道など被害4,000万円。その他被害大。
昭和37年6月29日(1962)	噴 火	十 勝 岳	23時ごろ大正15年来36年ぶりに爆発、死4、行方不明1、傷12、硫黄探掘所施設破壊、噴煙高12,000m、東山麓、トムラウシ部落降灰火山ガスのため住民退避、火山灰降灰面積107,000ha。新得町に救助法適用。
昭和37年7月20～21日(1962)	大 雨	渡 島 ・ 桧 山 ・ 胆 振	日本海を北上した低気圧による。胆振山麓中心に大雨、主被災地奥尻、長万部、豊浦、室蘭、北桧山の各市町村。家屋全壊3、流失3、半壊12、床上浸水267、床下浸水593、非住家被害349戸、田畑冠水流失938ha、道路欠壊18、橋流失41、がけ崩壊20カ所、被害額307,521千円。
昭和37年7月31～8月1日(1962)	大 雨	留 萌 地 方	床上浸水204、床下浸水151、畑冠水297ha。
昭和37年8月2～6日(1962)	台 風 全 道		4日未明渡島半島通過東進した台風9号による。南西部中心に最多地300mm、全道約100億tもの雨量、大災害支庁、後志、空知、上川、十勝胆振、日高。行方不明35、傷39、全壊家屋163、流失375、半壊1,358、床上浸水16,373、床下浸水32,372、非住家破壊18,315戸、田畑被害240,909ha、河川2,712、道路1,072、橋564カ所欠壊、漁船40、漁港施設104件被災、その他、被害総額75,883,133千円(一部10号被害含む)台風第10号と合わせ9市26町村に救助法適用。
昭和37年8月8～10日(1962)	台 風 道	南	9日本道に接近西海岸沿いに北上した台風第10号、死行方不明2、傷7、全壊家屋14、流失2、半壊34、床上浸水772、床下浸水10,210戸、非住家被害781戸、河川160、道路53、橋19、漁船116、港湾21件、被災被害額総計559,975千円。
昭和37年8月16～18日(1962)	大 雨	上 川 地 方	前線による。床上浸水4、床下浸水63戸、水田冠水27、畑冠水102ha、橋流失5。
昭和37年9月7～9日(1962)	大 雨	道 南 ・ 道 北 地 方	日本海を北上した台風第17号くずれからのびた前線による。主災害地、長万部、登別、室蘭、猿払、歌登、死1、傷2、全壊家屋1、半壊3、床上浸水87、床下浸水2,185、非住家破損2戸、田畑冠水191ha、道路欠壊8、橋流失1、がけ崩壊8件。
昭和37年9月28日(1962)	竜 巻 鴛 泊		大人1巻き上げられ20m離れた海中に転落死、家屋82㎡半転屋根6650m飛ぶ。
昭和37年10月17日(1962)	山 く ず れ	乙 部	10時25分ごろ豊浜海岸幅600m、奥行約1,000m、山くずれ バス海中に押し出され埋没、死11、行方不明3、重軽傷20、本年8月以降の多雨による。救助法適用。
昭和38年1月6～17日(1963)	高 潮	渡 島 ・ 十 勝 ・ 網 走 根 室 地 方	死者3名、行方不明11名負傷1人、全半壊・流失4戸、床上床下浸水100戸非住家59戸、道路、橋梁、水産物に被害、被害額計361,590千円。
昭和38年2月14日(1963)	融 雪 洪 水	渡 島 ・ 十 勝 地 方	死者3名、農業林業関係に被害、被害額計17,884千円。
昭和38年4月18～20日(1963)	融 雪 洪 水	網 走 地 方	家屋半壊1戸、同床上、床下浸水100戸、非住家37戸、農業、土木関係に被害。被害額計207,808千円。
昭和38年5月4日(1963)	火 災 赤 平		全半壊81戸、被害額36,309千円。
昭和38年5月14～	融 雪 洪 水	十 勝 ・ 桧	床上、床下浸水3戸、農業、土木関係に被害。被害額計18,586千円。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和38年5月27日 31日(1963)	火 災	山 地 方 奥 尻 村	全半焼住家102戸、非住家13戸、林業、商工業、文教関係に被害あり 被害額計270,913千円。救助法適用。
昭和38年5月中旬 ～ 下旬 (1963)	強 風 干 ば 融 雪 洪 水	道 東・道 南・道 央 日 高 地 方	農業被害1,776,567千円。 床上、床下浸水9戸、非住家1戸、農業、土木、林業関係に被害額計 28,422千円。
昭和38年7月24～ 25日(1963)	豪 雨	渡 島・松 山 地 方	前線の活動により、傷者2名、住家流失5戸、床上、床下浸水493戸、非 住家14戸、農業、土木、水産関係に被害あり、被害額計119,525千円。
昭和38年7月26～ 28日(1963)	豪 雨	宗 谷・根 室 地 方	流出4戸、住家床上床下浸水361戸、農業、土木、林業に被害あり、被 害額計39,518千円。
昭和38年8月1日 (1963)	ひ よ う 島 地 方	十 勝・渡 島 地 方	梅雨前線が南下して小低気圧が発生、農業被害、6,279千円。
昭和38年8月3～ 4日(1963)	豪 雨	上 川 地 方	44N附近を東西にのびる前線の低気圧と上層寒気の侵入による住 家流失1戸、床上床下2,482戸、非住家47戸、農業、土木、林業関係に 被害あり、被害額計69,588千円。
昭和38年8月15日 (1963)	豪 雨	根 室・釧 路 地 方	本道附近を東西にのび停滞した梅雨前線と低気圧の接近により、前線 が活発化、住家流失1戸、床上、床下984戸、非住家73戸、農業、土木 林業等関係に被害あり、被害額計382,195千円。
昭和38年8月25～ 9月1日(1963)	暴 雨 及 び ひ よ う	松 山・上 川・釧 路・網 走	気層不安定と地形性低気圧による、死者1名、行方不明1名、傷者4名 全半壊流失11戸、床上床下浸水817戸、非住家73戸、農業、土木、林 業等関係に被害あり、被害額計382,195千円。
昭和38年8月30～ 31日(1963)	豪 雨	胆 振 地 方	全半壊3戸、床上、床下浸水276戸、非住家35戸、農業、土木、林業関 係に被害あり、被害額計549,118千円。
昭和38年9月6～ 22日(1963)	ひ よ う 及 び 竜	石 狩・松 山・空 知 十 勝・根 室 地 方	全半壊3戸、非住家1戸、農業、土木関係に被害あり。
昭和38年9月16日 (1963)	豪 雨	松 山 地 方	前線の活動により、死者6名、行方不明3名、負傷22名、全半壊流失19 6戸、床上、床下浸水526戸、非住家271戸、農業、土木、水産、林業等 関係に被害あり、被害額計1,749,834千円。 救助法適用、奥尻村、大成町、北松山町
昭和38年10月1日 (1963)	豪 雨	十 勝 地 方	床上、床下浸水77戸、非住家2戸、農業、土木等関係に被害あり、被 害額計124,670千円。
昭和38年11月8～ 9日(1963)	強 風 波 浪	松 山・網 走・留 萌 地 方	低気圧の通過により、死者4名、全半壊6戸、床上、床下浸水3戸、土木 水産等関係に被害あり、被害額計664,813千円。
昭和38年11月19～ 28日(1963)	強 風 波 浪	松 山 地 方	土木、水産関係に被害あり、被害額2,360千円。
昭和39年3月22日 (1964)	火 災	芽 室 町	重傷1名、軽傷2名、住家全焼87戸89世帯403名、非住家全焼55戸、 家屋被害額210,704千円、商工被害額220,076千円、被害額計430,78 0千円、救助法適用。
昭和39年5月1日 (1964)	火 災	滝 川 市	住家全焼67戸67世帯291名、非住家全焼2戸、家屋被害額37,030千円 救助法適用。
昭和39年5月15日 (1964)	火 災	利 尻 町	死者1名、重傷1名、軽傷1名、住家全焼236戸203世帯898名、非住家 全焼73戸、住家被害額470,000千円、水産衛生施設、商工関係に被 害あり、被害額計829,795千円、救助法適用。
昭和39年5月16日 (1964)	火 災	幌 加 内 町	重傷4名、軽傷4名、住家全焼91戸94世帯351名、非住家全焼25戸、 住家被害額490,495千円、山林75ha焼失、被害額計500,495千円、 救助法適用。
昭和39年6月3～ 4日(1964)	風 雨	道 央・道 東 (88市町村)	低気圧を伴う前線が本道を横断、死者3名、軽傷2名、全半壊54戸、床 上浸水526戸、床下浸水3,806戸、農業、土木、水産、林業、商工、文 教等に被害あり。被害額計6,384,290千円。
昭和39年6月～ 11月 (1964)	冷 害	全 道	被害農家154,473戸、水稲200,669ha、32,460,296千円、畑作物561,12 8ha、24,818,251千円、被害額計52,278,547千円。
昭和40年1月8～ 9日(1965)	暴 風 雪	道 南・道 東 (57市町村)	太平洋を北東進した低気圧、行方不明1名、重傷4名、軽傷15名、全 半壊139戸、床上浸水473戸、床下浸水692戸、土木、水産施設に著し い被害あり、被害額4,598,969千円、救助法適用、知内町。
昭和40年5月23日 (1965)	タ ン カ ー 火 災	室 蘭 市	死者5名、行方不明5名、重傷3名、軽傷5名、水産被害2,285千円、タ ンカー及び原油等2,251,165千円、 被害額計2,253,450千円(ハイムワイルド号)
昭和40年9月4～ 7日(1965)	局 地 豪 雨	函 館 地 方 (7市町村)	気層の不安定による。死者1名、負傷者5名、全半壊2戸、床上浸水1,2 03戸、床下浸水5,496戸、農業、土木、商工、文教等に被害あり、被害 額計327,329千円、救助法適用、函館市。
昭和40年9月10～ 19日(1965) (第23・24号)	台 風	全 道	死者5名、行方不明1名、負傷者10名、全半壊182戸、床上浸水6,238 戸、床下浸水26,750戸、罹災世帯39,200世帯、罹災人員168,833人、 農業、土木、水産、林業、商工、等に被害あり、 被害額計12,489,708千円、救助法適用、長沼町。
昭和40年11月27日 (1965)	火 災	岩 見 沢 市	重傷1名、軽傷2名、住家全焼86戸86世帯362名、非住家全焼39棟、 家屋被害額344,168千円、商工被害額430,000千円、被害額計774,16 8千円、救助法適用。
昭和40年6月～ 11月(1965)	冷 害	道 央・道 東 (51市町村)	被害農家23,068戸、水稲41,380ha、被害額6,146,085千円。
昭和41年1月4～ 8日(1965)	暴 風 雪	道 南・道 東 (26市町村)	本道を通じた低気圧により、死者1名、重傷1名、全壊3棟、床上浸水 19棟、床下浸水131棟、土木、水産に被害あり、被害額225,214千円。
昭和41年3月29～ 30日(1966)	暴 風 雪	道 南・道 東 (9市町村)	本道南方を通じた発達した低気圧、全半壊8棟、農業、水産、林業 等に被害あり、被害額125,897千円。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和41年4月16～ 17日(1966)	融雪出水	道南・道東 (23市町村)	軽傷2名、全壊2棟、床上浸水29棟、床下浸水3棟、農業、土木に被害あり、被害額194,681千円。
昭和41年4月26～ 27日(1966)	融雪出水	道央・道 東・道北 (95市町村)	床下浸水17棟、土木被害1,029,486千円 被害額計1,033,091千円。
昭和41年5月2～ 7日(1966)	融雪出水	道央・道 東・道北 (53市町村)	床上浸水8棟、床下浸水59棟、土木被害額829,933千円、農業、林業に被害あり、被害額計1,111,691千円。
昭和41年6月29～ 30日(1966)	台風 (第4号)	道南・道東 (53市町村)	三陸沖を通過した台風、死者5名、行方不明17名、全壊1棟、床上浸水25棟、床下浸水283棟、土木被害額183,331千円、農業被害額102,246千円、水産、林業等に被害あり、被害額計340,258千円。
昭和41年7月27～ 31日(1966)	豪雨	道南・道 東・道北 (21市町村)	死者1名、重傷1名、軽傷2名、床上浸水31棟、床下浸水367棟、土木被害額52,748千円、農業被害額20,011千円、水産、林業等に被害あり被害額計80,236千円。
昭和41年8月17～ 21日(1966)	豪雨	全道 (127市町村)	前線を相ついで通った小低気圧、死者15名、負傷者19名、全半壊180棟、床上浸水3,700棟、床下浸水11,279棟、罹災人員72,111名、土木被害額6,391,793千円、農業被害額5,375,950千円、水産被害額1,556,086千円、林業、衛生、商工、文教等に被害あり、被害額計17,045,732千円、救助法適用、三笠市、美唄市、夕張市、長沼町、栗沢町、南幌町、上富良野町、中富良野町。
昭和41年10月13～ 17日(1966)	豪雨	道南・道 東・道北 (27市町村)	半壊2棟、床上浸水59棟、床下浸水255棟、罹災人員1,554名、土木被害額444,951千円、農業、水産、衛生被害あり、被害額計515,966千円
昭和41年6月～ 11月(1966)	冷害	全道	被害農家144,704戸、水稻220,382ha、36,096,178千円、畑作物540,424ha、24,984,750千円、被害額計61,078,883千円。
昭和42年1月14～ 16日(1967)	暴風	道南・道東 (13市町村)	床上浸水4棟、床下浸水12棟、漁船45隻破損、被害額12,510千円、海岸、漁港に被害あり、被害全額計185,764千円
昭和42年2月22～ 23日(1967)	大雪融雪	道南・道央 (32市町村)	日本海を北上した低気圧。負傷者2名、住家全半壊20棟、床上浸水463棟、床下浸水789棟、罹災人員6,024名、土木被害額495,529千円、農業、林業、商工、衛生、文教施設等に被害あり、被害額計915,289千円、救助法適用…古平町。
昭和42年3月4～ 5日(1967)	大雪融雪	道南・道北 (6市町村)	日本海を北上した低気圧。床下浸水14棟、土木被害額104,283千円、農業用施設に被害あり、被害額計133,113千円。
昭和42年4月1～ 6日(1967)	暴風融雪	全道 (79市町村)	日本海を北上した低気圧。住家全半壊71棟、一部破損335棟、床上浸水5棟、床下浸水49棟、罹災人員2,241名、土木被害額1,242,143千円、農業水産、衛生、商工、文教施設等に被害あり、被害額計1,404,146千円。
昭和42年4月19～ 21日(1967)	暴風融雪	全道 (93市町村)	低気圧の停滞。住家半壊2棟、床上浸水43棟、床下浸水196棟、罹災人員1,212名、土木被害額1,848,318千円、農業、水産、林業、衛生、文教施設等に被害あり、被害額計1,934,307千円。
昭和42年4月30～ 5月3日(1967)	融雪	道央・道北 (31市町村)	床上浸水1棟、床下浸水7棟、土木被害243,021千円、農業、林業、水産、文教施設等の被害あり、被害額計265,643千円。
昭和42年8月9～ 10日(1967)	大雨	道南 (19市町村)	停滞前線の活動による。死者1名、負傷者1名、床上浸水178棟、床下浸水1,391棟、罹災人員8,236名、土木被害額301,064千円、農業、水産、林業、衛生、商工、文教施設等に被害あり、被害額計546,226千円。
昭和43年5月16日 (1968)	地震 (十勝沖)	全道(道 北を除く) (129市町村)	9時49分十勝沖(エリモ岬南南東約150km)深さ0kmM7.9死者2名、負傷者133名、住家全半壊515棟、床上浸水24棟、罹災人員2,282名、土木被害額1,319,910千円、商工業被害額951,063千円、農業、水産、林業衛生、文教施設等被害あり、被害額計11,841,830千円

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和43年8月20～ 22日(1968)	大 雨	道南 (36市町村)	死者3名、負傷者1名、住家全半壊39棟、床上浸水409棟、床下浸水1,440棟、罹災人員9,520名、土木被害額1,655,238千円、農業、水産林業、商工、文教施設等の被害あり、被害額計3,219,625千円。救助法…福島町
昭和43年10月24～ 26日(1968)	高 波	太平洋沿岸 (30市町村)	水産被害125,042千円、海岸、漁港等の被害額680,661千円、被害額計813,803千円。
昭和44年2月5～ 6日(1969)	暴 風 雪	道央・道 北・道東 (59市町村)	低気圧が急速に発達してオホーツク海南部にめじた。死者13名、負傷者40名、住家全壊6棟、住家半壊2棟、一部破損109棟、床下浸水99棟、罹災者896名、農業被害76,748千円、土木被害213,420千円、水産被害172,387千円、林業、衛生、商工、文教施設等に被害あり、特に江別大橋附近で吹雪により850台の車両が2日間立往生した。被害額計497,342千円。
昭和44年8月24日 (1969)	台 風 (第9号くずれ)	全道一円 (33市町村)	道東地方を通過した台風第9号くずれの温帯低気圧。行方不明1名、床上浸水40棟、床下浸水413棟、罹災人員2,247名、土木被害345,020千円、農業、水産、林業等に被害あり、被害額計410,772千円。
昭和44年8月28日 (1969)	豪 雨	道央 (52市町村)	死者1名、床上浸水185棟、床下浸水1,697棟、罹災人員7,135名、土木被害額1,218,415千円、農業林業等に被害あり、特に栗沢町の被害が著しい、被害額計1,067,712千円。
昭和44年9月26～ 27日(1969)	暴 風 雨	道央・道 北・道東 (49市町村)	宗谷海峡を通過してオホーツク海に抜けた低気圧。負傷者8名、住家全壊3棟、一部破損102棟、罹災者533名、農業被害525,969千円、土木被害306,095千円、水産被害226,744千円、特に突風による被害が著しい、被害額計1,067,712千円。
昭和44年6月～ 11月(1969)	冷 害	全道	被害農家91,526戸、水稲224,635ha、24,067,680千円、畑作物50,956ha、3,630,441千円、被害額計27,698,121千円。
昭和44年7月20日 (1969)	大 雨 ひ よ う	網走地方	気層の不安定による。北見市、女満別、東藻琴村等で局地性豪雨、降ひょう、継続時間十数分、直径7～10mm、一部にはミカン大(50mm)、農作物被害11,987ha。20日R、端野68、女満別62、小清水60、斜里50、北見47mm。
昭和44年8月1日 (1969)	局 地 性 大 雨	網走地方	気層の不安定による。床上浸水14、床下29戸、道路決壊・土砂くずれ数カ所、農作物被害2,000ha、1日R、網走58mm。
昭和44年8月23～ 25日(1969)	大 雨 強 風	道南・道 東・札幌 ・小樽(33 市町村)	道東地方を通過した台風第9号くずれの温帯低気圧による。行方不明1名、床上浸水40、床下413棟、農作物被害2,580ha、河川決壊84、道路5、橋破損11カ所、漁船沈没破損23隻。このほか青函欠航20便、空の便欠航30数便、大雪山北鎮岳で登山者1名死亡。23～24日R、函館82森81、室蘭84、知内116、尻岸内105、トマム123、上美生115、帯広岳127mm。最大瞬間風速、寿都SSE24.9、浦河E22.8、稚内ENE22.5、雄武ENE21.0、紋別ENE24.3、網走ESE21.7、広尾W25.7、釧路E28.5、根室SE23.9m/s。
昭和44年8月28日 (1969)	局 地 性 大 雨 雷 た つ ま き	空知・桧 山地方 (51市町村)	気層の不安定による。被害、死者1名、床上浸水185棟、床下浸水1,687棟、農作物被害2,505ha、河川決壊211、道路決壊52、橋流失破損11カ所。このほか、国鉄室蘭本線、富良野線一時不通、列車運休105本、空知管内で電話不通144回線、空知・上川管内で送電線故障により停電。死者1は空知管内北村で落雷による。江差町でたつまで発生、小学校の屋根・物置に若干の被害あり。28日R、南幌217、栗沢193、和87東川73、東神楽60mm。
昭和44年8月31日 (1969)	大 雨	上川地方	本道西海岸を北上した低気圧による。床下浸水16戸、水田冠水30ha。
昭和44年9月26～ 27日(1969)	暴 風 雨	道央・道東 (49市町村)	宗谷海峡を通過してオホーツク海に抜けた低気圧による。負傷者7名、家屋全半壊・破損105、床上浸水2、床下浸水8棟、非住家被害28棟、農作物被害3,102ha、河川決壊24、道路決壊3、橋流失破損3、海岸損壊4カ所、漁船沈没破損219隻。25～26日R、美幌125、積丹岬111、中越106、安足間104、上川100mm。26日最大瞬間風速、寿都・根室NNW32.6、網走NNW31.6、留萌N31.4、稚内N30.8m/s。
昭和44年9月下～ 10月上旬(1969)	早 霜	全道	農作物に多くの被害あり、初霜日とその平年差、9月30日・函館(－18日、－は平年よりは早いことを示す。)、浦河(－37日)、10月1日・羽幌(－15日)、稚内(－17日)、10月5日・北見枝幸(+5日)、雄武(－14日)、室蘭(－33日)、10月7日・根室(－12日)、10月12日・江差(－31日)、留萌(－18日)。
昭和44年5月～ 10月(1969)	異 常 低 温 小 強 照 霜	全道	5月下旬～6月上旬の低温と雲雨天、8月の低温と日照不足、9月下旬～10月上旬の低温と強霜などによる冷害。被害地は留萌・上川・空知北部など道北を中心にほぼ全道。おもな被害作物、水稲。豆類・果樹・とうもろこし・ビート、被害面積275,59ha、被害見込額277億69,812千円
昭和44年11月24～ 26日(1969)	暴 風 雪	道央・道 北・道東 地方	本道中央部を横断した低気圧による。住家一部破損147、非住家全壊20棟、学校一部破損9件、農業施設全半壊破損236件、漁船流失6、破損60隻、網流失破損40件、水産施設被害164件。このほか25～26日、国鉄列車運休165本、道央道北で国道2、道々4カ所不通、青函連絡船2便、空の便欠航10便、13日国道230号線なだれ、国道、道々の不通箇所続出。13日新積雪、広尾42、帯広26、釧路21、根室28cm。最大瞬間風速、根室NNW35.6、江差NW29.4、寿都NWN28.4、稚内NE28.1、網走NNW27.4m/s。
昭和44年12月26～ 27日(1969)	暴 風 雪	道央・道北	西高東低の冬型気圧配置による。26～27日国鉄列車運休172本。24～28日新積雪、倶知安122、岩見沢155、留萌50、羽幌64cm。最大瞬間風速、留萌W34.0、江差WNW29.6、寿都WNW26.4、稚内NEN25.1m/s。
昭和45年1月12～ 14日(1970)	暴 風 雪 大 な だ	主として 道北・道東	低気圧の通過による。被害、負傷2名、住家全壊3棟、半壊4棟、一部破損9棟、非住家被害6戸、漁船破損7隻。13～14日国鉄列車運休205本、空の便欠航10便、13日国道230号線なだれ、国道、道々の不通箇所続出。13日新積雪、広尾42、帯広26、釧路21、根室28cm。最大瞬間風速、根室NNW35.6、江差NW29.4、寿都NWN28.4、稚内NE28.1、網走NNW27.4m/s。
昭和45年1月17日 (1970)	強 風	桧山沖	桧山管内北桧山町鶴泊港沖合で石炭運搬船転覆18名死亡。最大瞬間風速、寿都NNW27.9、江差NW20.4m/s。
昭和45年1月21日	地 震	日高・十勝	震央日高山脈南部、規模6.8、広尾・浦河・帯広で震度5、負傷32名、

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和45年1月31～ 2月3日(1970)	暴風雪 大雨	全道 (107市町村)	建物損壊3戸、道路決壊5か所。 本道南方を通った低気圧(45年1月低気圧と呼称)による。なだれ続発 日高線宙づり、被害、行方不明1名、負傷者16名、住家全壊11、半壊2 6、一部破壊548、床上浸水807、床下紳士1,962、非住家被害644棟、 河川決壊109、道路決壊26、橋流失破損10、堤防決壊3、海岸被害12 1、港湾被害19、漁港被害82、鉄軌道被害11か所、漁船被害1,089隻、 被災者概数2,116名、被害額75億4千万円。このほか国鉄列車運休1,1 10本、青函連絡船欠航71便、フェリー欠航多数、空の便欠航67便、道 路不通31日22、1日23か所、送電線の混断線36、配電線の混断線13,2 53か所、停電およそ70,400戸、1月30日～2月2日R、函館106、江差99 森149、室蘭118、倶知安102、小樽95、帯広119、広尾144mm。1月31日 ～2月3日の新積雪、倶知安121、札幌70、北見枝幸89cm。最大瞬間風 速、函館ENE33.4、江差W33.0、森E26.2、寿都WNW31.9、浦河31.8、 網走ESE26.5、釧路E30.5、根室E30.1m/s、最大波高、松前7～8m。
昭和45年2月9～ 10日(1970)	暴風雪 なだれ	道北地方	道北地方を通った低気圧による。宗谷管内の国鉄9～11日の3日間全 線運休、バス・利札航路運休、礼文島でなだれのため住家全壊1、一 部破損6戸、9～10日の新積雪、北見枝幸115、稚内48cm。最大瞬間風 速、稚内NE33.2、北見枝幸N29.2m/s。
昭和45年3月6～ 8日(1970)	暴風雪	全道	根室東方海上に停滞した低気圧と石狩湾小低気圧による。6～7日国 鉄列車運休417本、青函連絡船欠航9便、空の便欠航2便。5～7日の 新積雪、倶知安77cm。6～7日最大瞬間風速、江差WNW27.5、寿都N W28.8、稚内N25.6、網走NNW27.8、根室NNW25.6m/s。
昭和45年3月16～ 18日(1970)	暴風雪 高波	全道 (67市町村)	二つ玉低気圧による。列車立往生、車中にかんずめの乗客1万人、日 高線で宙づり、択捉島に緊急避難の漁船9隻中8隻が流水のため遭難 被害、死者4、行方不明1、負傷17名、住家全壊4、半壊4、一部破損40 床上浸水33、床下102、非住家全半壊50棟、道路破壊53、河川決壊1 海岸損壊22、港湾被害2、漁港被害9か所、漁船被害32隻、被災者概 数31名、このほか、国鉄列車運休16日256、17日491、18日773、19日6 73本、道路不通18日294路線、青函連絡船欠航5便、16～20万貨物船 52便、16～19日空の便欠航56便、電話回線障害約7,000件、道南・道 東で送配電線故障。16～18日の新積雪、帯広112、広尾105cm。17日 最大瞬間風速、江差WNW35.3、寿都W37.6、室蘭W33.2、浦河W36.2 根室ESE32.1m/s。
昭和45年5月11～ 13日(1970)	暴風雪 高波	全道 (121市町村)	二つ玉低気圧による。石狩川、尻別川等はらん、道東海岸では2～5 mの高波被害あり。被害、死者2、負傷2名、住家流失1、一部破損37、 床上浸水40、床下124戸、非住家被害22棟、農地被害18ha、道路損壊 9、橋流失破損7、堤防決壊2、がけくずれ2か所、このほか、国鉄列車 運休71本、青函連絡船欠航2便。10～12日R、島松107、岩見沢80、稚 内102、広尾90、夕張91、糠平75、支笏湖174、森野159、中梓臼152、 阿寒151mm。12日最大瞬間風速、函館SSW]25.7、江差SW30.8、雄武 WSE27.5、根室SW27.5m/s。
昭和45年6月19～ 20日(1970)	大 雨	胆振地方	二つ玉低気圧による。登別温泉で土砂くずれのため負傷3名、建物一 部破損、登別で床上浸水17棟、水源地付近壊し約8,000世帯断水。19 ～20日R、登別222、橋池304mm。
昭和45年6月25～ 27日(1970)	大 雨	上川・留萌	低気圧の通過による。被害、床上浸水1、床下281、田畑冠水4,014ha 道路決壊5、橋流失破損6か所。このほか国鉄羽幌線土砂くずれのた め一時不通。25～27日R、士別169、日進150、達布153
昭和45年7月11～ 12日(1970)	大 雷	道南地方	二つ玉低気圧による。被害、住家一部破損1、床上浸水12、床下162、 非住家被害1棟、農地被害13ha、道路決壊14、橋流失破損2、護岸決 壊1、土砂くずれ12か所。このほか函館本線で列車不通、渡島管内で 土砂くずれのため道路不通、札幌市内で落雷のため約100戸停電。11 日～12日R、室蘭128、苫小牧103、白老171mm。
昭和45年7月17～ 19日(1970)	大 雨	渡島・釧路	道南地方を通った低気圧による。被害、渡島地方で、床上浸水32、床 下66棟、田畑22ha、河川決壊3、橋流失破損1か所。釧路市内で、床上 浸水20、床下100戸、がけくずれ数か所。日高本線で列車不通。17～ 19日R、広尾150、釧路110mm。
昭和45年7月31～ 8月1日(1970)	大 雨	空知北部 上川地方 (32市町村)	寒冷前線の通った低気圧による。被害、負傷者5名、住家全壊9、半壊 13、流失6、一部破損20、床上浸水1,251、床下7,434戸、非住家被害 18棟、堤防決壊21、がけくずれ21、河川決壊387、道路決壊64、橋流 失破損35か所、農地被害約5,000ha、被害者概数5,572名、列車運休 85本、31～1日R、旭川202、安足間244、上川233mm。救助法適用…旭 川市・上川町
昭和45年8月7日 (1970)	ひ よ う	十勝・網走	気層の不安定による。十勝地方鹿追、土幌、音更、幕別町などで約15 分間降ひょう、直径1～2cm、小豆・ビート・デントコーンなどの農作物被 害884ha、網走管内佐呂間町でも30分間親指大の降ひょう、農作物被 害約50ha。
昭和45年8月15～ 16日(1970)	暴風雨	全道	本道西方海上を通った台風第9号くずれの温帯低気圧による。西部を中 心に19時間吹き荒れ家屋・果樹の被害大、道南では漁船の高波被害 も大、被害、死者2、負傷者22名、住家全壊11、半壊44、一部破損2,38 3、床上浸水8、床下66戸、非住家被害1,623棟、河川決壊3、道路決壊 11、海岸破壊11か所、漁船沈没破損395隻、被災者概数84名。 このほか国鉄列車運休65本、青函連絡船欠航33、利札航路欠航15、 羽幌～天売、焼尻航路欠航10便、空の便欠航10便以上、電話回線不 通、札幌513、函館442、小樽110、室蘭104回線、送電線停止25、羽幌 64、美国108、小金湯112、香深177mm。16日最大瞬間風速、函館SSW 37.2、江差SSW39.0、寿都SE38.7、小樽S34.8、留萌SE33.1、雄武SW 31.2、広尾WSW31.3m/s。
昭和45年8月24～ 25日(1970)	大 雨	桧山地方	道南地方を通った低気圧による。被害、住家全壊1、半壊1、床上浸水 52、床下156、非住家全半壊4棟、農地被害44.8ha、河川決壊30、道路 決壊4、橋流失破損5か所。24～15日R、江差87、中須田144、館83mm。
昭和45年9月17～ 18日(1970)	暴風雨	全道、特 に道央・ 道南(79 市町村)	本道西方海上を通った低気圧による。被害、負傷者1名、住家流失1、 一部破損13、床上浸水48、床下53戸、非住家被害20棟、農地農作物 被害4,604ha、道路損壊27、橋流失9、堤防決壊3か所、がけくずれ5、 河川決壊16か所、漁船破損13隻、このほか国鉄列車運休78本、青函 連絡船欠航24便、道路不通9路線、空の便欠航2便、発電所・送電線 の故障による停電、需要家数延べ94,700戸。16～17日R、橋池578、森 野320、支笏湖畔385mm。最大瞬間風速、留萌SW34.6、稚内S35.0、北

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
			見枝幸SW32.5、雄武WSW44.0m/s。最大波高、苫小牧8.6、仙法志8.4m。
昭和45年10月25～ 26日(1970)	大 雨	道北地方 (37市町村)	低気圧の通過による。被害、住家全壊2、一部破損1、床上浸水480、床下1,048戸、非住家被害64棟、農地流失埋没2ha、農作物被害169ha、河川決壊59、道路決壊24、橋流失破損26、がけくずれ2か所、漁船被害4隻、被災者概数1,328名。このほか国鉄列車運休114。24～26日R、美国214、幌延287、沼川267、浜頓別191、稚内178mm。最大瞬間風速、江差W28.1、根室SSW28.8m/s。
昭和46年1月22～ 23日(1971)	暴 風 雪	全道	低気圧の通過による。国鉄運休、旅客142、貨物280本、道路不通または通行止め31、送電線事故、釧路管内で約2,000戸停電。積雪、歌登91、上札内76、西興部73cm。最大瞬間風速、根室NNW34.0m/s。
昭和46年3月6～ 7日(1971)	大 雪	道央	低気圧通過後の冬型気圧配置による。国鉄運休387本、国道275号線全面通行止め。降雪、鹿島65、岩見沢53、夕張52cm。
昭和46年4月下旬 ～5月下旬(1971)	異 常 低 温	全道	シベリア東部の寒気流入による。おもに上川・網走・十勝地方の水稲・野菜類に凍霜害700ha、生育遅延あり。札幌における4月26日から5月10日まで15日間の平均気温5.4℃は明治22年半年平均の統計を開始して以来の最低記録。函館・寿都における5月7日の降雪は、遅い方の累年第3位で函館58年ぶり、寿都69年ぶり。
昭和46年5月4～ 5日(1971)	暴 風 雨 暴 風 雪 着	道北・道 東	発達した低気圧の通過による。道北・道東地方では雪、道東海域で小型漁船遭難約9隻、死亡および行方不明18、被災8、登山者死亡3名、列車運休2本、停電多数。4日9時～5日9時降雪、幌内42、十勝三股36cm。最大瞬間風速、網走NW27.2m/s。
昭和46年6月4～ 5日(1971)	局 地 性 大 雨	胆振地方	低気圧の通過による。登別市を中心に浸水66戸、空の便欠航11便。R、太平洋岸一帯に50～100、胆振山間部では250～350mm。
昭和46年6月13～ 14日(1971)	異 常 低 温 霜	道北・道東	寒気の流入と夜間の放射冷却による。上川、網走、十勝の内陸部、山沿いで、豆類・野菜など35,000ha、宗谷管内で林業関係2,000haに霜害。旭川13日最低気温3.5℃(-6.8)、帯広2.0℃(-7.0)。
昭和46年7月15～ 17日(1971)	大 雨	胆 振	低気圧の通過と梅雨前線の活発化による。胆振管内で行方不明2、床下浸水22戸。農作物被害200ha。R、森野325、支笏湖畔233mm。阿寒・知床で100～150mm。
昭和46年9月4～ 5日(1971)	大 雨	道南 (70市町村)	低気圧の相次ぐ通過による。死亡1名。国鉄運休94本、床上床下浸水2,171戸、3～5日のR、乙部225、森野215、登別214、八雲203mm。
昭和46年9月11～ 13日(1971)	大 雨 高 波	太平洋岸 (30市町村)	低気圧と台風第26号の通過による。高波のため静内町で死亡1、白糠町で行方不明1、重傷者4、床上床下浸水240戸余、道路、河川、橋梁決壊34か所。海岸決壊31か所、漁船の流失または破損100隻余。11～13日のR、広尾208、根室112、帯広111mm。
昭和46年暖候期 (1971) 小 早	異 常 低 温 照 霜	全道	4月末～5月上旬の悪天候と季節はずれの雪、6月中旬の低温、7月中旬後半～下旬の低温、8月中旬の後半の低温と降雪による冷害。水稲の作況指数は全道平均57、網走管内では2、豆類・小麦・飼料作物などいずれも平年作以下。7月(かつこ内は8月)の気温平年差、俱知安-0.6(-0.9)、札幌-1.2(-1.4)、岩見沢-0.8(-0.9)、稚内-0.9(-2.0)、網走-1.0(-1.7)、根室-1.3(-1.8)、帯広-0.7(-1.4)、旭川-1.0(-1.0)℃。7月の日照時間平年比、俱知安72、札幌72、岩見沢79、網走76、根室83、帯広86、旭川70%。
昭和46年10月17日 (1971)	た つ 巻	羽幌町	寒冷前線の通過にともなう気層の不安定による。午前5時頃、町の中心部を約1kmにわたって通過、全壊15戸、半壊、一部破損約50戸、推定風速50m/s。
昭和46年10月31～ 11月1日(1971)	大 雨	網走地方 (24市町村)	低気圧の通過による。紋別市、藻別川はんらんのため床上浸水63戸、貨物列車運休10本、農地、農作物の被害1,800ha。R、佐呂間、遠軽上藻別地方で120～160mm。
昭和46年12月3～ 4日(1971)	強 風	日高支庁	低気圧の通過による。家屋の一部破損約30棟、青函航路欠航15便、その他国道の通行止め、電話・電灯線の回線障害など。最大瞬間風速、浦河WSW38.2m/s。
昭和47年1月12～ 18日(1972)	波 浪	十 勝	房総沖と三陸沖で、それぞれ発達した低気圧。水産関係・漁網、漁具の流失破損、かにかご14,296箇、毛がに刺網1,736反、メスケ刺網540反、スケソウ刺網90反。波高 15日・浜大樹5.1m。
昭和47年1月30～ 31日(1972)	暴 風 雪 波 浪	網走・根室	北海道南岸を発達しながら東進した低気圧。人身事故・死者2。交通関係・国鉄運休15本、国道不通路線4。海難・漁船転覆1。その他・臨時休校131。日最大瞬間風速 30日・網走NW24.1。31日・根室WNW27.6。降雪の深さ 30日・網走34。
昭和47年2月13～ 14日(1972)	暴 風 雪 波 浪 大 雪 雨 な だ れ	全道的	二つ玉低気圧。道北、暴風雪となる。利尻山登山パーティ及び道央で人身事故。行方不明2、負傷者2。交通関係・国鉄運休306本、道路不通路線20。土木関係・道路決壊3、がけ崩れ4、橋流失1。建物・全壊4半壊3。浸水家屋・床上32、床下376。電力関係・停電13,600。海難・漁船破損2。他に融雪、着雪による被害も発生。日最大瞬間風速14日・稚内ESE22.2、釧路E30.2。降雪の深さ13日～14日・十勝三股74、上札内72、糠平67。降水量 13～14日・札幌108、大滝132、伊達115。
昭和47年2月20日 (1972)	強 風	留 萌	発達しながら宗谷海峡を東進した低気圧。建物・家屋破損1。土木関係・漁港破壊5、海岸施設1。海難・貨物船座礁(4,576吨)1。日最大瞬間風速 留萌WSW26.2、羽幌WSW29.1。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和47年2月27～ 29日(1972)	暴風雪 暴大な強波	全道的	二つ玉低気圧。道北では3日間ふぶき海難多発。交通関係・各機関共全面麻痺状態。人身事故・死者2、行方不明1。建物・住家全半壊4,650。浸水家屋・162。海難・漁船沈没37、破損4、沿海州海域の出漁船、しげのためソ連領域内に緊急避難のため入域22。電力関係・電柱倒壊破損950、トランス事故13、断線2,271、停電2,000。土木関係・道路損壊41、橋1、堤防決壊3、がけ崩れ4。その他・通信回線障害2,600。様似町、水道使用不能(海水流入)。小中高全面臨時休校。日最大瞬間風速 28日・稚内E31.4、網走E25.6、紋別ENE25.5、雄武E26.0、浦河NE43.2。27日・室蘭E31.6、函館E25.3。29日・江差SSE29.1。降雪の深さ 26～27日・上美生170、上札内156、清水150、27日・トマム98、幾寅86。降水量 27日・室蘭65。26～28日・函館93、森96、江差92、大沼104、南茅部199。
昭和47年3月1～ 3日(1972)	暴風雪	網走	根室南東海上で発達した低気圧。交通関係・国鉄、バス全面運休、国道、道々全線不通。その他・臨時休校547。日最大瞬間風速 2日・網走NNW21.5。降雪の深さ 2日・小清水52、佐呂間45、北見39、網走37遠軽・白滝38。
昭和47年5月17～ 18日(1972)	強風	網走	北海道西海上を発達しながら北上した低気圧。斜里地方に被害。農耕地(ビート)3,768。日最大瞬間風速 16日・網走ESE21.2。
昭和47年5月22日 (1972)	霜	留萌	移動性高気圧。農作物の霜害、移植直後の水稲398、発芽直後の畑作物1、苗床1,500㎡。日最大瞬間風速 初山別ー1.5、天塩ー0.9、羽幌ー0.6。
昭和47年5月29～ 30日(1972)	強風	網走	樺太付近の低気圧。斜網地方に風害。農耕地(ビート)2,430。日瞬間最大風速 30日・網走SSW22.3。
昭和47年6月1～ 2日(1972)	強風	網走	南高北低の気圧配置。斜網地方に風害。農耕地(ビート)4,912。日最大瞬間風速 2日・網走S18.6。
昭和47年6月8～ 9日(1972)	強風	網走	前線通過。斜網地方に風害。農耕地(ビート)2,030。日最大瞬間風速8日・網走S17.1。
昭和47年6月9～ 10日(1972)	大雨 雷よ	網走 十勝	気層の不安定。十勝管内では10分間、降ひょう(直径10mm)。農作物被害・農耕地704、農作物1,939。降水量 9日・端野51、北見・上仁頃33。
昭和47年7月1日 (1972)	大雨	留萌	前線通過。土木被害発生。決壊・道路1、河川4、その他6、農業用水路2。浸水・農耕地4。日降水量 留萌72。
昭和47年7月7～ 9日(1972)	大雨	道南・道北	前線通過。土木、農業関係被害甚大。建物・住家損壊11。浸水家屋・床上43、床下144。農業・農耕地浸水452、家畜流失34頭、苗木流失被害額843万。土木関係・河川決壊51、氾らん9。道路損壊119、橋流失、損壊等60、堤防決壊43、土砂崩れ1、国鉄路床損壊2。水産関係・養殖施設被害額300万。降水量 7～9日・歌登216、北見枝幸127、上音威子府226、中川119、遠別161、幌満143、松前132、小谷石153、江差86、浦河73。
昭和47年8月3日 (1972)	大雨	渡島	前線通過。木古内以東の海峡側市町村と八雲町で被災。人身事故・死者1、負傷者3。建物・全半壊16。浸水家屋・住家床上458、床下978土木関係・道路決壊6、橋流失1、がけ崩れ5。交通関係・国鉄不通2路線。日降水量(日最大1時間降水量)函館49、函館空港175(82)、恵山160
昭和47年8月6～ 8日(1972)	波浪	日高	北海道南東海上の台風第13号。海岸線護岸決壊110m、海岸の土砂流失3,950m ³ 。海難・漁船破損1。最大波高 庶野3m(7日)、様似5m(8日)
昭和47年9月15～ 20日(1972)	暴風雪 大強波	全道	台風20号と低気圧および秋雨前線。日高地方を除き大被害。人身事故・死者10、負傷者13。交通関係・陸、海、空共全面麻痺。建物・住家全半壊1,728。浸水家屋・床上、床下計2,438。農業・農耕地冠水、流失など34,661。家畜流失5頭。土木関係・決壊、道路671、河川438、漁港護岸2、堤防90、がけ崩れ52、橋流失146。海難・漁船転覆沈没など54。水産関係・漁網流失損害額1,760万。電力関係・停電8,100、電柱倒壊76、断線155。通信回線障害2,411。その他・各学校全面臨時休校。鉄道冠水2。樺太、沿海州海域で操業中の漁船、祖乱領海内に緊急避難入域。日最大瞬間風速 17日・稚内ESE24.0、網走E24.7、留萌E25.6、羽幌E30.0、岩見沢E26.4、広尾ESE33.4、根室E29.2、釧路E31.2、函館SSW30.0、江差SSW30.2。降水量15～20日・浦河184、大滝461、本郷402、森野813、香深295、歌登287、15～19日・帯広197、広尾304、羅臼399、糠平419、上札内382、上美生346、二俣365。16～19日・勝山192。17～19日・奥尻146、上八雲157。
昭和47年9月23～ 24日(1972)	大雨	石狩	前線通過。罹災者305。浸水家屋・床上75、床下520。土木関係・道路決壊5、橋流失2、がけ崩れ1。降水量 23～24日・札幌102、当別129。
昭和47年9月27～ 28日(1972)	ひょう	留萌	寒冷前線通過。管内全域、特に増毛町では果樹の被害が大。果樹畑27。その他の被害は詳細不明。
昭和47年10月11～ 12日(1972)	大雨	根室	前線と台風第24号。浸水家屋・273。農業・農耕地流失、埋没等2。土木関係・道路損壊35、橋流失4、がけ崩れ5。海難・漁船破損1。降水量 11～12日・根室157、羅臼228、標津180、厚床138、計根別125、中標津156。
昭和47年10月22～ 23日(1972)	強風	留萌	前線通過。人身事故・死者1。海難・漁船転覆1。建物・住家、日住家計300棟。農業・農作物5,337。その他560件(被害額620万)。日最大瞬間風速 22日・羽幌WSW25.8。23日・留萌W21.8。
昭和47年11月6～ 7日(1972)	大雨 強波	石狩・日高	北海道北部を通過した低気圧。強風被害多発。建物・全半壊37。電力関係・停電10,000異常。交通関係・国鉄運休2本。その他・回線障害292。漁具、養殖施設被災。日最大瞬間風速 7日・様似5.1m。降水量 6～7日・輪厚64、長都63、島松61。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和47年11月20～ 22日(1972)	暴 風 雨 大強波 な だ	石狩・後志 渡島・上川 十勝・根室	日本海西部から発達しながら北東進した低気圧とえりも岬南沖に発達した低気圧。人身事故・死者、行方不明5。建物・全壊1棟、半壊一部破損11棟。浸水家屋・床上、床下206棟。土木関係・道路損壊48。農業・農作物冠水104屯。海難・漁船沈没1、流失5、破損61。水産関係・漁網流失、破損61反(海難、水産被害額2,963万)。電力関係・電柱損壊56、断線50。その他・回線障害1,123。日最大瞬間風速 21日・広尾E3 1.0、倶知安SE27.8。22日・根室E34.2。降水量20～22日・北落合129、帯広90、上札内175、上美生114、芽室116。降雪の深さ 21日・北落合19
昭和47年11月27～ 28日(1972)	着 雪	十勝	千島中部で発達した低気圧。建物・非住家半壊、破損1棟。交通関係・国鉄運休6本。電力関係・断線119、電柱損壊34、停電13,300。その他・回線障害1,684。降水量 27～28日・帯広50、広尾51、糠内64、更別63。降雪の深さ 27日・上札内58・基松36。
昭和47年11月30～ 12月2日(1972)	暴 風 雪 暴大着波	道北・道東	根室南東海上で発達した低気圧。被害は全般に大きく、交通関係は各地で麻ひ。交通関係・国鉄運休720本以上。建物・住家倒壊、破損113、非住家168棟。浸水家屋・床上51、床下24。海難・漁船沈没246、破損231、流失3。電力関係・電柱倒壊2,018、損壊15,027以上、停電27,234以上。7～10日間の長期停電(宗谷)、断線19,225。その他・被災4,207、港湾施設破損11。土木関係・決壊・道路19、河川13、がけ崩れ2、橋流失1、国鉄路床冠水2。その他・臨時休校60、回線障害5,572漁船施設1、漁網流失30ヶ統(被害額1,200万)。出漁船ソ連領域内に緊急避難入域。日最大瞬間風速 1日・根室ENE33.4、稚内NE38.4、北見枝幸NNE29.4、網走N34.8、雄武NNE30.7。2日・留萌N25.8、羽幌NNE23.1。積雪の深さ 30～12月2日・幌延64、問寒別52、上札内6、糠平66、小利別63。30～12月1日・白滝94。降水量30～12月2日・広尾113、大樹139、芽室136、更別108、香深122、北見枝幸87、白滝169、丸瀬布147。
昭和47年12月19～ 22日(1972)	大 雪	空知	季節風。岩見沢市およびその周辺地帯で雪害。国鉄運休78本。降雪の深さ 19～22日・岩見沢194。
昭和48年2月5～ 7日(1973)	暴 風 雪	宗谷	発達しながら北海道を通過した低気圧。猛ぶぶきとなり、海難、交通麻ひ、電力関係に被害続出。海難・漁船遭難による人身事故、行方不明15。交通関係・国鉄運休50本、国道、道々面々通行止、バス路線一部不通、定期航路(海、空)全便欠航。電力関係・一部地域停電。その他・出漁船ソ連領域内に緊急避難入域。日最大瞬間風速 7日・稚内NE 31.5。降雪の深さ 6～7日・北見枝幸22、香深32。
昭和48年3月23～ 26日(1973)	暴 風 雪	宗谷	日本海で発達した低気圧。交通機関に被害続出。国鉄運休30本、他に列車遅延多し、国道通行止、道々通行止15路線。その他・樺太近海へ出漁中の漁船ソ連領域内に緊急避難入域。日最大瞬間風速 24日・稚内ENE25.2。新雪の深さ23～25日・北見枝幸52。
昭和48年4月 (1973)	融 雪	留萌	断続的に高温期間が現われ、融雪を促進、中小河川の増水による被害。関係機関の各被害額・8日・土木568万。11日・建物・15万。17日・農業5万。土木7,444万。19日・土木1,000万。20日・その他3,000万。30日・その他1,000万。被害総額・1億3,032万。日最高気温(日降水量)8日・留萌8.7(15)。11日・留萌10.1(0)。17日・留萌12.7(14)。19日・羽幌14.2(0)。20日・留萌16.5(0)。29日・留萌13.9(12)。内陸地方では15.0℃以上の日が多かった。
昭和48年4月20～ 23日(1973)	異 常 乾 燥	十勝	移動性高気圧。林野火災面積529。日最小湿度 20日・帯広20%、実効湿度 22日・帯広63%。日最大瞬間風速 23日・帯広N22.9。
昭和48年4月24～ 25日(1973)	強 風	石狩・空知	前線通過。人身事故・負傷者2。建物・全半壊17。日最大瞬間風速 25日・札幌SE30.8、寿都SSE37.5。
昭和48年5月8日 (1973)	強 風	網走	樺太北部を通過した低気圧。斜網地方に農業被害。畑作面積865。日最大瞬間風速 網走S27.3。
昭和48年5月15日 (1973)	融 雪	上川	低気圧全面の暖気移流。河川増水による被害。土木関係・河川決壊2(被害額1,497万)。
昭和48年6月17日 (1973)	地 震 地 震 波	道東・道南	根室半島沖地震。12時55分、43.0N、146.0E、M7.4。震度V・根室、釧路、震度IV・帯広、広尾、浦河。人身事故・負傷者26。建物・全壊破損等35棟。浸水家屋(津波による)・床上89、床下186。土木関係・道路損壊1、がけ崩れ1。水産関係・船舶破損10以上。その他・農業施設被害波高・花咲1.47m、十勝1.43m、釧路92cm、浦河52cm、道東、道南沿岸に弱い津波来襲。
昭和48年6月18日 (1973)	ひ よ う 強 風	渡島・檜山	気層の不安定。農作物被害大。農作物面積215(被害額2,580万)。中部以南各地で発雷。富良野市東山地区～南富良野で13時頃降ひょう(直径2cm)。日降水量(日最大1時間降水量)トマム29(27)、忠別24。層雲峡で、がけ崩れ発生。
昭和48年7月30～ 8月1日(1973)	大 雨	渡島・檜山	渡島半島を通過した低気圧。浸水家屋・住家床下1。土木関係・道路決壊1、がけ崩れ4。交通関係・国鉄不通2路線。その他・漁船流失。降水量 30～8月1日・熊石135、濁川141、森114、鹿部101。
昭和48年6～7月 (1973)	少 雨 除く全道	道東を 除く全道	オホーツク海高気圧の出張出し。水不足による被害。被害農家1,061世帯以上。その他、牧草収穫皆無、天売、焼尻他9市町村で給水を受ける。月降水量(平年比%) 6月・旭川18(23)、留萌20(26)、幅路3(4)、岩見沢7(8)、札幌13(17)、寿都6(9)、函館24(28)。7月・岩見沢32(30)、倶知安32(32)、札幌16(20)。
昭和48年8月17～ 19日(1973)	暴 風 雨 大	道東を 除く全道	台風第10号くずれの低気圧。交通関係・国鉄運休383本、道路不通10路線、定期航路(海、空)欠航便多発。建物・住家全壊1、半壊破損1棟、流失1。人身事故・行方不明、負傷者各1。浸水家屋・2,522。土木関係・河川決壊44、道路損壊197、橋流失49。農業・田畑冠水172、牧草地冠水1,144、農耕地流失埋没25、農耕地冠水11,209。海難・漁船沈没1流失2、破損7。電力関係・停電4,600。その他の交通傷害14。日最大瞬間風速 18日・浦河WNN21.2、函館S25.7、江差SSW28.0。降水量 17～19日・歌登128、北見枝幸113、紋別153、西興部193、名寄229、留萌165、古丹別208、羽幌176、札幌132、小金湯161、支笏湖畔155、小樽127、赤井川200、留寿都157、幌加内200、室蘭168、大滝259、洞爺240、森野210、浦河123、日高173、上八雲190。
昭和48年8月21～ 23日(1973)	大 雨	道北・後志 十勝	秋雨前線。浸水、農地の冠水、土木被害が多発。農業関係・冠水889農作物冠水40屯、農耕地埋没29。浸水家屋・194以上。土木関係・決

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和48年8月29～30日(1973)	大雨	渡島	壊、道路65、河川8、堤防93、がけ崩れ8、橋流失18。その他・漁船流失2、水道施設被災のため一部地域で給水を受ける。降水量 21～22日・北見枝幸54、豊富96、沼川94、香形63。22～23日・帯広95、清水120、上美生106、足寄95。21～23日・トマム139、小樽106、赤井川95。青森県北部を通過した低気圧。主として海峡に面した市町に被害が集中。浸水家屋・床上24、床下116。土木関係・道路決壊1、がけ崩れ1。降水量 29～30日・函館61、知内101、汐首118、尻岸内150、恵山149
昭和48年9月1～4日(1973)	暴風雨 大雨	日高・渡島 松山・十勝	津軽海峡から北海道南岸を東進した低気圧。農地、土木被害が著しい。人身事故・負傷者3。浸水家屋・床上530以上、床下1,719以上。農業・農耕地冠水、埋没等17,516。土木関係・がけ崩れ8、河川決壊36、橋流失12、道路冠水10、国鉄路床冠水64。日最大瞬間風速 1日・浦河ESE18.8。降水量 1日・函館101、小谷石129、知内127、南茅部119 3日・函館74、尻岸内132、知内110、恵山102。1～3日・浦河126、日黒296、幌満189。1～4日・広尾245、大樹184。
昭和48年9月14日(1973)	大雨	渡島・檜山	津軽海峡付近を通過した低気圧。人身事故・死者1。建物・住家全半壊7、破損2。浸水家屋・床上10、床下69。土木関係・決壊、道路2、堤防1、がけ崩れ8。降水量 小谷石164。
昭和48年9月16～17日(1973)	雷 ひょう	上川・留萌 十勝	気層の不安定。直径10～20mmの降ひょうによる農作物および落雷による被害大。農業・農作物面積6,590。電力関係・送電線障害、一部停電降水量(日最大1時間降水量)16日・鷹栖53(32)。
昭和48年9月23～25日(1973)	大雨	渡島	佐渡ヶ島から東北中部を通り根室南東沖でやや発達した低気圧。人身事故・死者12、行方不明5、負傷者13、その他罹災952世帯。建物・住家全壊104、一部流失4。浸水家屋・床上171、床下770、非住家60棟、流失11棟、埋没11棟。農業・農耕地冠水20。土木関係・決壊、道路13、堤防2、がけ崩れ18、橋流失2。電力関係・施設2。海難・船舶被害2。降水量 23～25日・函館140、汐首307、尻岸内217、鹿部262、南茅部249。
昭和48年9月27日(1973)	たつ巻	宗谷・胆振	寒冷前線通過。礼文島船舶地区および苫小牧市勇払地区被災。建物・非住家全半壊3棟、海難・漁船破損4。土木関係・香深港(礼文島)防波堤破損。その他・勇払地区被害地域700㎡。日最大瞬間風速 稚内NNE18.1、苫小牧S14.0。
昭和48年10月23日(1973)	強波	風浪 宗谷	津軽海峡付近から北海道南岸を東進した低気圧。大波による被害。人身事故・死者2。交通関係・離島航路(稚内～利尻)全便欠航。日最大瞬間風速 稚内ENE18.0。稚内港外の海面状態(目視)うねりE3、波高2～4m。
昭和48年12月4～5日(1973)	大雪	空知	季節風。滝川市中心に列車遅延多発。降雪の深さ 4～5日・滝川39、空知吉野45。
昭和48年12月17～18日(1973)	大雪	空知	季節風。交通災害多発。国鉄運休158本。降雪の深さ 17日・岩見沢67、沼ノ沢74、北48、夕張42。
昭和48年12月21～25日(1973)	暴風雪 強波 大浪	宗谷・網走 留萌・渡島 檜山	オホーツク海で猛烈に発達した低気圧。人身事故・死者、負傷、行方不明各1。交通関係・国道全面運休または通行止、定期航路(海、空)全便欠航。建物・住家、非住家等全壊2,015。電力関係・電柱折損177 断線733。海難・漁船沈没20、流失70、破損72。土木関係・道路、河川破損19。その他・公共施設破損303。水産被害額9,392万。日最大瞬間風速 22日・函館SW24.9、江差W38.9、留萌SW29.0、稚内SW33.2。23日・雄武WSW33.5、紋別SW26.2。降雪の深さ 22～23日・中頓別78 22～24日・瀬棚45。
昭和49年1月～5日(1974)	海氷	網走	佐呂間湖内に流水侵入。ホタテ養殖施設に大被害。ホタテ稚貝44%被害。養殖施設被害1,082万。その他養殖台破損2,961。
昭和49年1月23～29日(1974)	暴風雪 強波	道北・網走 根室	北海道南岸を東進し千島中部で発達した低気圧。人身事故・死者1。交通関係・国鉄運休443本、国道、道々全面不通または通行止。建物・全半壊8棟。浸水家屋・床上8、床下40。海難・漁船流失破損等4。土木関係・損壊、護岸10、道路1、港湾施設3。その他・一部地域に停電あり臨時休校35以上。日最大瞬間風速 24日・稚内NE33.6、網走NW29.2 25日・根室NW30.0。降雪の深さ 23～28日・北見枝幸82、中頓別80。24～29日・計根別88、羅臼82。25～26日・遠軽124、興部84、滝上78。
昭和49年2月8日(1974)	なだれ	留萌	国鉄留萌線浜中付近でなだれ発生。国鉄線路埋雪、気動車乗上げ脱線のため運休10本。最深積雪 8日・留萌111。
昭和49年2月8～9日(1974)	波	浪 根室	北海道南東海上の発達した低気圧。花咲港防波堤の33%(230m)の基を流失、堤体沈下、消波用ブロックの崩落。日最大瞬間風速 9日・根室N27.4。
昭和49年2月27～28日(1974)	暴風雪	留萌	天塩沖低気圧。交通関係・国鉄、バス全面運休。日最大瞬間風速 27日・羽幌WSW14.3。降雪の深さ 27～28日・幌延32。
昭和49年3月10～11日(1974)	暴風雪 波	道北 胆振・日高 釧路	発達しながら宗谷海峡を東進した低気圧。水産・土木被害多発。被害額11億100万円。日最大瞬間風速 10日・稚内NW26.0、羽幌SW28.0、留萌WSW25.7。11日・北見枝幸W28.7。降雪の深さ 10～11日・日進54 土別40。
昭和49年4月1～3日(1974)	暴風雪	宗谷	発達しながら宗谷海峡を東進した低気圧。交通関係・国鉄運休12本。日最大瞬間風速 1日・稚内SSW21.4。降雪の深さ 1～3日・浜頓別10
昭和49年4月2～6日(1974)	強波	風浪 留萌	日本海へ進んできた台風くずれの低気圧。海難・漁船転覆(95屯)。人身事故・死者3、行方不明3。日最大瞬間風速 2日・留萌WSW24.8、羽幌SW27.9。
昭和49年4月4日(1974)	なだれ	宗谷	日中の高温。人身事故・死者2(稚内市内裏山からのなだれ)。建物・住家倒壊1。日最高気温 稚内5.2(平年差+0.4)。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和49年4月21～ 22日(1974)	暴風雨 強波融	道東を除く 全道	発達しながら日本海を北上した低気圧。交通関係・国鉄運休165本、定期航路(海、空)全便欠航。建物・全壊233、半壊1,133、破損216。浸水家屋・91。人身事故・死者12、負傷者24。農業・農耕地冠水80、ビニールハウス倒壊4,079棟、海難・漁船沈没6、破損2。電力関係・電柱損傷571、断線105。土木関係・損壊、道路47、決壊、河川100、堤防37。水産関係・漁網流失180反。日最大瞬間風速 21日・網走SSE27.4、雄武WSW30.0、旭川S21.6、留萌SE27.5、俱知安SE28.3、小樽S32.4、寿都SE41.0、浦河E32.8、苫小牧ESE33.2、函館ESE29.4、江差SSW34.6、22日・稚内S32.0、羽幌SW26.3、留萌SE27.5。降水量 21～22日・支笏湖畔109、大滝98、森野96、本郷94、広尾88。
昭和49年4月29日 (1974)	強風	十勝	北海道北部を発達しながらオホーツク海にぬけた低気圧。建物・住家半壊2、非住家全壊6棟、半壊11棟、一部破損20、ビニールハウス破損200棟、日最大瞬間風速 29日・広尾WSW29.7。
昭和49年5月8～ 16日(1974)	融雪	上川	南高北低の気圧配置。小雨、高温続きで融雪が促進、河川増水。河川決壊2 (1,300m)被害額1,600万。日最高気温 12～15日・旭川12日21.9、13日21.9、14日23.0、15日23.0、16日22.9、17日22.9、18日23.1。
昭和49年5月31～ 6月1日(1974)	大雨	十勝	前線の北上。十勝南部と山間部の一部で大雨。土木関係・道路決壊4、河川の氾濫8。降水量 31～6月1日・広尾85、糠平73、豊頃77、浦幌85
昭和49年6月6～ 8日(1974)	大雨	十勝	北海道の太平洋岸を東進した低気圧。浸水家屋・床下5。農業・農耕地埋没60、冠水101、農業用水路埋没2。土木関係・橋流失1、決壊、道路24、堤防4。降水量 6～8日・広尾171、大樹129、稚内92。
昭和49年6月12～ 13日(1974)	大雨	十勝	津軽海峡で消滅した低気圧前面への湿潤大気の流れ。浸水家屋・住家床下7。土木関係・橋流失4、決壊、道路18、堤防6。農業・農耕地冠水42。降水量 12～13日・広尾129、土幌105、糠平98。
昭和49年6月18～ 19日(1974)	大雨	十勝	前線に発達した低気圧。浸水家屋・住家床下7。土木関係・決壊、道路38、河川2。農業・農耕地冠水210。降水量 18～19日・足寄86、広尾79、上音更77、大気71。
昭和49年7月27～ 28日(1974)	強風	十勝	気層の不安定。短時間強雨被害。浸水家屋・住家床上1、床下6、非住家床下3棟。農業・畑地流失、埋没等10、畑地冠水400。土木関係・決壊、道路16、鉄道1、河川1。交通関係・国鉄運休5本。その他・明暗渠排水路3。降水量 27～28日・糠平122、土幌96。
昭和49年8月6日 (1974)	大雨	十勝	ウラジオ付近からやや発達しながら接近した低気圧。浸水家屋・床下50。農業・畑地冠水500、農業用水路1。土木関係・決壊、道路4、河川3、橋流失3。交通関係・国鉄運休13本。降水量 糠平122、清水谷100。
昭和49年8月14日 (1974)	大雨	宗谷	北海道北部を通過した低気圧。浸水家屋・床下12。鉄道冠水による不通(天北線)。降水量 北見枝幸53、中頓別32。
昭和49年8月24～ 26日(1974)	大雨	道北・後志 檜山	北海道を通過した低気圧。建物・住家全半壊、破損等101、浸水家屋・床上13、床下190。農業・農耕地1,015、冠水34。海難・漁船沈没2。土木関係・道路決壊26、橋流失2。その他・臨時休校続出。降水量 24～26日・豊富95、浜頓別90、勇知92、遠別111、天塩95、寿都117、黒松内128、美幌152、今金129。
昭和49年9月3～ 4日(1974)	暴風雨	宗谷	台風第16号ぐずれの低気圧。交通関係・国鉄運休10本。浸水家屋・住家床下6。土木関係・道路冠水3。農業・農耕地冠水7。降水量 3～5日・北見枝幸102、中頓別93。
昭和49年9月5日 (1974)	ひょう 大雨 雷	う 雨	寒冷前線の通過。強風、降ひょうによる被害。農業・農作物659(2～3cm大の降ひょう)。浸水家屋・床上1、床下39。土木関係・道路冠水1。電力関係・断線5、トランス破損20、開閉器70、停電9,700。降水量 2～5日・共和139、中川132。
昭和49年9月14～ 15日(1974)	強風	留萌	発達しながら日本海を北上した低気圧。果樹落下被害額4,600万、水稲被害額1,600万。日最大瞬間風速 14日・留萌SSE21.3。日最大風速 14日・増毛SSE17.4。
昭和49年10月3日 (1974)	たつ巻	檜山	発達しながら日本海を北上した低気圧。奥尻町、19時05分～20分、同町珠浦地区で発生。建物・住家全壊2、半壊1、破損1。
昭和49年10月20日 (1974)	たつ巻	檜山	寒冷前線の通過。上ノ国町新町で15時頃。建物・非住家全壊6(被害額400万)。日最大瞬間風速 江差SSW32.7。
昭和49年10月20～ 21日(1974)	強波 風浪	留萌	千島方面で発達した低気圧。農業・果樹、ビニールハウスなど(被害額1,800万)。海難・漁船沈没、破損、その他海岸施設破損など(被害額1,420万)。電力関係・高圧線、トランス障害による停電。建物・非住家被災。日最大瞬間風速 20日・留萌WSW26.8、羽幌WSW27.6。
昭和49年11月1～ 2日(1974)	暴風雨 強波 風浪	宗谷・留萌 根室	オホーツク海で急速に発達した低気圧。ほぼ全道的に積雪状態となる。人身事故・死者1。交通関係・離島航路(稚内～利尻)欠航、国鉄運休。建物・住家破損6。浸水家屋・床上2、床下16。土木関係・決壊、道路5、堤防18、海岸施設、護岸など破損。電力関係・断線。その他・水産関係被害多発。日最大瞬間風速 1日・稚内WSW33.5、羽幌WSW30.2、留萌WSW29.4、根室W24.7、留萌港の波高計9mを観測。
昭和49年11月9日 (1974)	地震	胆振・日高	苫小牧沖、42.6N、141.8E、M6.4。震度 V浦河、IV静内、III苫小牧。人身事故・負傷者1。建物・家屋等の被害若干。
昭和49年11月11日 (1974)	大雪	空知	季節風。岩見沢市中心。交通関係・国鉄運休、遅延多発。降雪の深さ(降水量) 10～11日・岩見沢39(42)、美唄40(51)、月形31(47)。
昭和49年11月18～ 19日(1974)	暴風雨 波	宗谷・網走	二つ玉低気圧。土木関係・かけ崩れ1、海岸道路護岸決壊5、網走港灯台一部破損。交通関係・離島航路(稚内～利尻)欠航。その他・水産被害額500万。降水量 17～19日・仙志志82、北見枝幸70。日最大瞬間風速 18日・稚内N27.2、19日・紋別NW25.2、網走NW26.5。
昭和49年12月14～ 15日(1974)	暴風 大雪	宗谷・石狩	北海道南部を通過した低気圧。交通関係・国鉄運休15本、定期航路(海、空)全便欠航。日最大瞬間風速 14日・稚内NE22.1、北見枝幸NE24.1、札幌NW23.0。降雪の深さ 14～15日・札幌50。
昭和50年1月9～ 10日(1975)	暴風 大雪	宗谷	道東沖で発達しながらオホーツク海に進んだ低気圧。交通関係・国道、道々9路線不通、離島航路(稚内～利尻)全便欠航。海難・小型漁船被害額3万、ソ連領海の出漁船NW25.0。降雪の深さ 9～10日・北見幸48、歌登34。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和50年8月22～ 24日(1975)	暴風雨 大	全道	前線と台風第6号くずれの低気圧。交通関係・国鉄運休1,271本以上、主要道路不通または通行止。建物・住家全壊34、半壊、一部破損53、非住家全壊2棟。浸水家屋・床上6,294、床下16,503。農業・農耕地冠水51,407、埋没1,016。海難・漁船沈没1。人身事故・死者、行方不明など12、負傷者7。電力関係・電柱折損39、停電4,000。土木関係・道路冠水、損壊など602、がけ崩れ136、堤防決壊63、鉄道冠水29、橋流失83。その他・回線障害86、家畜被害額940万。日最大瞬間風速 23日・函館NNW24.7。24日・広尾NW29.8。降水量 一部を除いて全道的に100～200mm以上。22～24日・旭川193、札幌175、岩見沢199、京極223、濁川231、置戸199、深川198、真狩238、士別211、鷹栖215、滝川199、砂川吉野203、森235。
昭和50年9月3～ 9日(1975)	大雨 大強 つ	ほぼ全道	前線の停滞と低気圧。長雨となり、断続的に強雨。交通関係・国鉄運休834本、主要道路不通。建物・全壊15、半壊31、非住家全半壊13棟。浸水家屋・床上632、床下3,862。農業・農耕地冠水16,552、埋没644、農作物冠水27。海難・漁船破損4、人身事故・死者2、負傷者7。土木関係・道路冠水、損壊等414、がけ崩れ46、決壊・護岸4、堤防23、鉄道冠水98、橋流失65。その他・回線障害3、断水事故。8日、01時30分頃奥尻町宮津で、たつ巻発生。日最大瞬間風速 8日・江差SSW24.5。降水量 7～8日・奥尻99、熊石99、江差102、京極100、美国108、帯広135。7～9日・浜頓別92。4～8日・初山別246、温根別250、古丹別245、旭川205、士別269、深川307、朱鞠内203。
昭和50年10月7～ 8日(1975)	大雨	十勝	北海道南岸からオホーツク海へぬけた低気圧。交通関係・国鉄一時不通(士幌線)。土木関係・道路損壊8、堤防決壊5。水産関係・漁網流失3反。降水量 7～8日・糠平159。
昭和50年11月7～ 9日(1975)	暴風雨 大強 波	宗谷・網走 後志・十勝 日高	日本海から発達しながら北海道南岸を通過した低気圧。交通関係・国鉄一時不通。建物・住家全半壊26、破損2。浸水家屋・床上2。農業・農耕地冠水27。海難・漁船沈没8、破損9、流失1。土木関係・港湾施設10、道路損壊77、堤防決壊13、橋流失23。その他・漁網流失18反、定置網116ヶ統。日最大瞬間風速 8日・網走NW29.5、寿都NNW36.1、浦河WNW26.9。降水量 7～8日・歌登105、仙法志108、佐呂間94、黒松内132、広尾126、日黒165、えりも149、庶野157。
昭和50年11月11～ 13日(1975)	波	日高	北海道はるか東方海上で再発達した台風第19号。様似港、港口で、イカ釣漁船転覆1。人身事故・行方不明4(高波による。)
昭和50年11月29～ 12月1日(1975)	暴風雪 着	宗谷	日本海から発達しながら北海道中部を通過した低気圧。交通関係・幹線道路不通、離島航路(稚内～利礼)全便欠航。海難・漁船行方不明2。人身事故・死者4。電力関係・電柱倒壊7、断線52、停電3,500。日最大瞬間風速 30日・稚内NNW29.6。降雪の深さ 29日・沼川44、豊富37
昭和50年12月16～ 17日(1975)	大雪	根室・釧路	秋田沖から東進した低気圧。交通関係・国鉄運休51本、バス、航空便全便欠。電力関係・停電200。その他臨時休校75。日最大瞬間風速 17日・釧路NNE21.8、根室NNE22.7。降雪の深さ 16～17日・釧路57、太田99、塘路87。
昭和51年1月19～ 20日(1976)	大雪	空知	季節風。岩見沢市周辺に集中。交通関係・国鉄運休、国道不通。その他臨時休校6。降雪の深さ 19～20日・岩見沢77。
昭和51年3月11～ 15日(1976)	強風 船体着氷	宗谷	気圧の谷に伴い北海道を通過した低気圧。海難・野寒布岬沖で漁船(鰍刺網、96屯)沈没1。人身事故・死者4、負傷者9。日最大瞬間風速 14日・稚内W23.8。
昭和51年3月20～ 21日(1976)	暴風雪	宗谷	日本海から発達しながら北海道北部を通過した低気圧。交通関係・国鉄興浜北線20～22日迄運休、道々不通16、バス一部運休、離島(稚内～利礼)航路全便欠航。日最大瞬間風速 20日・北見枝幸W21.5、21日・稚内N23.8。降雪の深さ 20～21日・北見枝幸30。
昭和51年4月7～ 8日(1976)	暴風雪 暴風 着波	網走・釧路 根室・檜山	北海道南岸を通過した急速に発達した低気圧。交通関係・国鉄運休36本以上、主要道路不通、バス、航空便全便欠。建物・住家半壊、破損など5棟、非住家全半壊9棟。海難・漁船沈没25、破損76。人身事故・死者3、行方不明6、負傷者3。電力関係・停電5,068。土木関係・決壊、道路25、堤防3。農業・ビニールハウス倒壊1,000棟、その他ビート苗被害。その他・公共施設破損20、水産被害額826万。日最大瞬間風速 7日・網走NW31.2、釧路N32.7、根室NNW35.0。降雪の深さ 7～8日・美幌44、斜里57、釧路55。降水量 7～8日・根室78、羅臼109、釧路59
昭和51年4月14日 (1976)	がけ崩れ	後志	北海道中部を通過した低気圧。小樽市国道5号線平磯トンネル付近でがけ崩れ発生。付近国道路線埋没1、市道埋没1。降水量 小樽17。
昭和51年4月26～ 5月3日(1976)	融雪	留萌	継続的高温により融雪促進、中小河川の氾らん。4月26日、初山別村、護岸決壊1(214m)、道路損壊1。4月29日、河川決壊1(30m)、道路損壊1、浸水家屋80、農耕地冠水、流失、埋没など1,480。土木関係・36,480ヶ所。総被害額3億6,636万。
昭和51年5月2日 (1976)	波	桧山	日本海の低気圧。早朝高波来襲、10名が海中にさらわれたり、岩場に孤立、6名が救助されるが、死者4(貝取洞2、長磯、しのび岬各1)。
昭和51年5月12日 (1976)	強風	宗谷	日本海の低気圧。人身事故・死者2。海難・漁船転覆1。日最大瞬間風速 稚内S21.0。
昭和51年5月14～ 15日(1976)	強風	宗谷・網走	北海道北部を通過した低気圧。交通関係・離島航路(稚内～利礼)航路全便欠航。建物・非住家全半壊47棟。電力関係・電柱倒壊折損17。海難・漁船沈没1。農業・ビニールハウス全回32棟。日最大瞬間風速 14日・稚内WSW29.4、北見枝幸WSW29.4、雄武WSW31.2。15日・稚内SSW29.2、雄武WSW34.5。
昭和51年5月21～ 25日(1976)	強風	網走	樺太付近を相ついで通過した低気圧。斜網地区風害。農業・農耕地265。日最大瞬間風速 25日・網走S22.0。
昭和51年5月28～ 30日(1976)	強風 異常乾燥	網走	樺太付近を通過した低気圧。西興部村の山火事。山林焼失面積362。日最大瞬間風速 28日・雄武SW23.5。29日・網走NW22.0。日最小湿度 28日・紋別18%、雄武20%。
昭和51年6月18日 (1976)	霜	網走	高気圧圏内の夜間放射冷却。農業・農作物306。日最低気温(平年差) 網走5.6(-4.1)、斜里1.5。
昭和51年6月30日 (1976)	霜	十勝・釧路	オホーツク海高気圧。農業・農作物8,540。日最低気温(平年差) 糠平0.3、士幌1.0、新得1.2、帯広3.3(-8.7)。
昭和51年3月中旬	少雨	宗谷	オホーツク海高気圧による晴冷型天気。この期間、長期にわたり小雨、

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
～7月中旬(1976)			乾燥状態が続いた。農業被害甚大。被害面積46,000。最大無降水継続日数 北見枝幸17、稚内16。期間総降水量(平年比) 稚内148(47%)、北見枝幸182(52%)。
昭和51年5月～9月(1976)	少雨	網走	オホーツク海高気圧による晴冷型天気。西紋地区の牧草地被害甚大。被害額2億2,795万。期間降水量(平年比) 網走301(68%)、紋別280(55%)、雄武217(41%)。
昭和51年7月(1976)	少雨	渡島・檜山	オホーツク海高気圧による晴冷型と夏型気圧配置による晴天。大沼の水位60cm以下(滞水時1.6m)。被害概要・駒ヶ岳メロン、カボチャなど3～7割減収。森地区・シダレカラ松枯れる(総被害額 1億6,000万)。日照時間平年に比べ全般に30%多い。月降水量(平年比) 函館15(11%)、森8(開所S13年来の記録)、江差22(16%)。
昭和51年7月1～2日(1976)	霜	網走・上川	オホーツク海高気圧。農作物被害面積77。日最低気温 2日・置戸2.5 常呂1.9、丸瀬布1.4、和寒3.5。
昭和51年8月2～3日(1976)	ひょう	網走	寒冷前線通過。農作物被害面積5,935。2日と3日の午後、管内各地にピンポン玉大の降ひょう。
昭和51年8月(1976)	異常低温	渡島・松山	オホーツク海高気圧。農作物被害額・渡島11億3,615万、松山10億1,083万。8月旬別平均気温(平年差) 函館・上旬19.7(-1.9)、中旬19.5(-2.4)、下旬18.8(-2.2)、江差・上旬20.0(-2.2)、中旬20.1(-2.8)、下旬19.8(-2.4)。
昭和51年8月11～12日(1976)	大雨	後志	北海道中部を通過した低気圧。人身事故・死者1、負傷者1。建物・住家全壊2。浸水家屋・床上22、床下214。土木関係・道路損壊3、河川決壊27。降水量 11～12日・倶知安76、岩内112、赤井川105。12日・日最大1時間降水量 倶知安32。
昭和51年8月28日(1976)	大雨	留萌	前線の南下。浸水家屋・床上7、床下66。農業・田畑冠水60。降水量 天塩113。日最大1時間降水量 天塩55。
昭和51年8月～9月(1976)	異常低温	道央・網走	オホーツク海高気圧。網走地方、水稻被害面積6,205、畑作物59,647(総被害額79億1,395万)。道央・断続的に現れた低温による。水稻作況指数 石狩73、空知81、後志79。各地域の被害額・石狩121億3,423万、空知334億9,858万、後志25億3,773万。各地月平均気温の平年差 8月・札幌-2.3、岩見沢-2.5、倶知安-3.1、網走-1.8、雄武-1.5、9月・網走-1.0、紋別-1.3、雄武-1.3。
昭和51年8月4日～10月6日(1976)	異常低温	十勝	オホーツク海高気圧。被災農家9,222世帯(被害額74億5,100万)。期間平均気温(平年差) 帯広16.1(-1.5)。8月平均気温(平年差) 帯広18.2(-1.8)、広尾17.0(-1.3)。
昭和51年9月13～17日(1976)	暴風雨	宗谷・胆振 渡島・松山	日本海を北上した台風第17号。交通関係・国鉄運休151本、バス運休3(ほか不通、通行止。建物・損壊3棟。浸水家屋・床上、床下など246。農業・農耕地冠水58、農作物面積204。海難・漁船破損2。人身事故・負傷者3。土木関係・道路冠水4、決壊、道路7、堤防10、かけ崩れ14。その他・街路樹倒壊150。日最大瞬間風速 14日・苫小牧ESE24.3。15日・江差SW23.0。降水量 13～14日・登別269、恵山岬80。14～15日・室蘭102、香深115。
昭和51年9月17～18日(1976)	強波浪	網走	台風第19号。水産関係・さけ、ます定置網流失大破18ヶ統(被害額1億5,000万)。日最大瞬間風速 18日・網走WNW18.2。
昭和51年10月10～11日(1976)	強波浪	後志	二つ玉低気圧。建物・住家半壊10。農業・農耕地322。水産関係・被害額2億3,112万。日最大瞬間風速 11日・小樽N23.8、寿都NW32.7。
昭和51年10月20～22日(1976)	暴風雨 強波浪	日本海側 太平洋側 各支庁	非常に発達しながら日本海を北上した低気圧。交通関係・国鉄運休6本以上、国道、道々全面不通、バス全面運休。建物・住家半壊1、非住家・全半壊36棟、破損10棟。浸水家屋・床上24、床下92。農業・農耕地埋没10。海難・漁船沈没1。人身事故・死者2、行方不明1、負傷者6。土木関係・港湾施設損壊2、道路冠水、破損など256、かけ崩れ1、堤防決壊88、橋流失28。水産関係・定置網流失16ヶ統。その他の被害額3億5,545万。林業被害額2億1,782万。その他・街路樹倒壊70。日最大浦河W33.1、函館W33.0、江差WNW35.4。降水量 20～21日・広尾128日高102、目黒100、新和104。
昭和51年11月1日(1976)	強波浪	網走	北海道北部を通過した低気圧。海難事故・作業船沈没1。日最大瞬間風速 網走WNW28.6。
昭和51年11月9日(1976)	強波浪	網走	北海道北部を通過した低気圧。海難・漁船沈没1。人身事故・行方不明2。日最大瞬間風速 8日・網走NW23.6、9日・紋別WNW19.4。
昭和51年11月14～15日(1976)	強波浪	宗谷	北海道北部を発達しながら通過した手気圧。稚内港貯木場の原木30,000本流失。日最大瞬間風速15日・稚内NW28.0。風浪(目視) 稚内NW6(波高4～6m)。
昭和51年12月21～22日(1976)	大雪	上川・留萌	羽幌沖低気圧。国鉄運休69本。臨時休校2。降雪の深さ 21～22日・旭川44、江丹別39。
昭和51年12月25～27日(1976)	暴風雪	宗谷・十勝	日本海と三陸沖を発達しながら北上した低気圧。交通関係・国鉄運休14本、バス運休2、定期航空欠航8。日最大瞬間風速 26日・稚内ESE24.5。27日・稚内NE24.8、北見枝幸NNE25.2。降雪の深さ 26～27日・歌登52、上札内58。
昭和51年12月下旬～52年2月中旬(1976～1977)	異常低温	宗谷	冬型の気圧配置の持続(強い寒気移流)。水道関係・凍結(稚内市)1,100件。1月平均気温(平年差) 稚内-8.3(-2.5)。真冬日・12月27日～2月18日(継続期間54日)。
昭和52年1月～2月(1977)	異常低温	網走	冬型の気圧配置の維持(強い寒気移流)。水道関係・凍結7,992件。1月平均気温(平年差) 網走-9.9(-3.3)、紋別-10.2(-3.5)、雄武-10.7(-3.2)。
昭和51年12月下旬～52年2月中旬(1976～1977)	異常低温 大雪 だれ	渡島・檜山	冬型の気圧配置の維持(強い寒気移流)。南茅部町で、なだれ発生。建物・家屋全半壊33。交通関係・国鉄松前線2月14日～4日間不通、函館市電15日一時不通、函館空港14、15両日閉鎖、国鉄松前線6日間不通。海難・函館港内で船舶横転(積雪のため)。水道関係・各地で凍結事故続出。1月平均気温(平年差) 函館-6.1(-2.2)、江差-4.2(-2.5)。真冬日 函館59日、江差45日。降雪の深さ 14日・知内40、中須田45。15日・函館28。
昭和52年1月1～2月18日(1977)	異常低温	十勝	冬型の気圧配置の維持(強い寒気移流)。水道関係・凍結7,146件以上地下水道管凍結638戸。その他通信回線のケーブル凍結により事故発

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和52年1月1～2月(1977)	強 風	網走	生直前にいたる、1月平均気温(平年差)帯広-12.4(-3.4)、2月帯広9.6(-1.8)。日最低気温-20.0以下の日数帯広26。 季節風。交通関係・国鉄興浜南線一時不通。日最大瞬間風速1日・雄武N19.6。
昭和52年1月10～11日(1977)	大 雪	網走	季節風。交通関係・国鉄興浜南線一時不通。日最大瞬間風速11日・紋別NW17.4。降雪の深さ10～11日・雄武34、紋別29。
昭和52年1月20～3月10日(1977)	海 氷	十勝	冬型の気圧配置の維持(強い寒気移流)。沿岸氷結が断続的に発達出漁船の入出港に支障を与えた。月平均気温(平年差)1月・広尾-8.2(-3.0)、2月広尾-6.3(-1.7)。
昭和52年2月3～5日(1977)	大 雪	網走	季節風。交通関係・国鉄興浜南線不通2本。日最大瞬間風速5日・紋別NW19.6。降雪の深さ3～5日・上藻別80、佐呂間54、雄武37。
昭和52年2月10～11日(1977)	大 雪	十勝	北海道南岸を発達しながら東進した低気圧。交通関係・国鉄運休2本、国道通行止。降雪の深さ10～11日・広尾69、大樹44。
昭和52年3月9日(1977)	な だ れ	宗谷	樺太方面を発達しながら通過した低気圧に伴う暖気移流。稚内市・なだれ発生(小規模)。建物・住家一部損壊1。日最高気温(平年差)稚内6.5(+6.7)。
昭和52年3月24日(1977)	強 風	留萌	前線通過。被害額・土木6,000万。日最大瞬間風速留萌WSW27.3、羽幌WSW23.9。
昭和52年4月18～20日(1977)	強 風	網走・十勝	日本海から樺太を通過したオホーツク海で発達中の低気圧。交通関係・国鉄興浜南線運休2本。建物・非住家全壊3棟、半壊21棟。農業・育苗、営農施設など512ヶ所。その他・公共施設47。日最大瞬間風速19日・雄武SW32.2、広尾SW30.2。20日・帯広WSW23.6。
昭和52年4月23日(1977)	強 融	留萌	前線通過。被害額・土木1,456万(決壊、河川3、道路1)、その他350万。降水量達布28。日最大瞬間風速留萌NNW22.6、羽幌NNW22.3。
昭和52年4月28日(1977)	暴 風 雨	渡島・檜山	日本海を発達しながら北上し渡島半島を横断した低気圧。交通関係・国鉄青函定期便運休25本。建物・非住家全壊1棟、半壊3棟、住家半壊2、一部破損27、校舎屋根破損額981万。浸水家屋・床上10、海難・漁船転覆1。人身事故・死者3、行方不明1。磯舟流失、破損額140万。農業・被害額2,730万。林業被害額870万。日最大瞬間風速函館E29.6、江差E31.4、奥尻(空港)E32.9。降水量松前74、南茅部69、瀬棚56、函館46、江差48。
昭和52年5月2～3日(1977)	大 雪	上川・留萌	津軽海峡西方から根室南東海上へめけた低気圧。農業・水稲育成用ハウス支柱折損25本、果樹育成用ハウス倒壊16棟、その他トンネル栽培施設被害。降雪の深さ2～3日・旭川20、美瑛30、忠別、東川20。
昭和52年5月10日(1977)	波 浪	網走	北海道の北方を通過した低気圧。海難・船舶沈没1。人身事故・負傷者1。日最大瞬間風速紋別SW18.8。
昭和52年6月8日(1977)	大 雨 ひょう	上川	下層気温上昇により対流不安定となり熱雷発生。農業・農耕地流失、埋没など50、冠水60、農作物被害額4,720万。土木関係・被害額1億1,000万。ひょうの大きさ5～30mm。降水量金山22。
昭和52年7月1～7日(1977)	大 雨	十勝	梅雨前線の北上と低気圧。土木関係・道路破損13、橋流失6、堤防決壊38、がけ崩れ8、農業・農耕地冠水736。水産被害額120万。林業被害額1億2,271万。降水量1～7日・広尾318、大津225。
昭和52年8月4～5日(1977)	大 雨	渡島・檜山	北海道南部を通過した低気圧。土木関係・道路損壊7、堤防決壊24。浸水家屋・床上16、床下165。降水量4～5日・長万部116、八雲111、瀬棚160、今金155。
昭和52年8月7日(1977)	噴 降	胆振	有珠山噴火(7日09時12分)。噴煙の高さ12,000mに達し、火山れきを含む降灰は近隣市町村に及んだ。建物・住家埋没8棟、半壊4棟、一部破損370、非住家半壊33棟。農業・農耕地埋没3,819、農作物9,173、果樹園4、営農施設173。土木関係・河川灰没8、道路降灰37、その他被害甚大。洞爺湖温泉街の降灰量167,200m ³ 。その他・林業被害額4,851万(真狩、留寿都)、文教施設被害額249万(留寿都)、その他総額316億に達した。
昭和52年8月8～9日(1977)	降 灰	ほぼ全道	有珠山噴火。7日09時12分。降灰域は広く、宗谷、釧路、根室、檜山、渡島を除く各支庁に及んだ。
昭和52年9月8～9日(1977)	大 雨	渡島	秋雨前線が東北地方北部に停滞。交通関係・国鉄運休11本、道路通行止4、道路冠水1。浸水家屋・床上23、床下45。土木関係・がけ崩れ2。その他・養殖施設被害、一部地域住民非難。降水量8～9日・函館91、松前125、小谷石139、汐首185。
昭和52年11月10日(1977)	強 波 浪	留萌	オホーツク海中部でやや発達した低気圧。海難・天塩川河口で漁船乗揚げ(295屯)。人身事故・死者1。日最大瞬間風速羽幌WNW22.8。
昭和52年11月27～28日(1977)	大 雨	十勝	浦河沖からオホーツク海にめけた低気圧。土木関係・道路冠水10。降水量27～28日・大樹80、更別、広尾76。
昭和53年1月21～23日(1978)	暴 大 強 高 風 雪 風 潮	ほぼ全道	二つ玉低気圧が根室東海上で一つにまとまり非常に発達した低気圧。交通関係・国鉄運休505本以上、主要国道、道々全面通行止、バス運休1,182以上、定期航路(海、空)14便以上欠航。建物・住家破損1。浸水家屋・床上1、床下5。海難・漁船沈没2、転覆1、流失2。人身事故・行方不明2。電力関係・断線12、停電7,840。その他・臨時休校419以上。日最大瞬間風速22日・稚内NE22.2、北見枝幸N22.7、網走NNW26.3、紋別NNW23.6、釧路NNW28.6、根室NNW31.1、寿都NNW25.7。降雪の深さ21日・帯広84、広尾79、日黒80。21～22日・釧路50。21～23日・喜茂別59、斜里62。
昭和53年2月3～5日(1978)	大 雪	石狩・空知	冬型の気圧配置(季節風)。交通関係・国道運休728本、バス札幌市中心に全面運休、定期航路欠航104。建物・倉庫一部破損1棟。その他・落雪事故4。人身事故・負傷者6。降雪の深さ3日・札幌44。3～4日・夕張54。4～5日・岩見沢70。3～5日・石狩69。
昭和53年2月(1978)	異 常 低 温	網走	冬型の気圧配置の持続。水道関係・凍結2,660件、地下水道管凍結110件。月平均気温(平年差)網走-12.0(-4.9)、紋別-11.7(-5.0)、雄武-12.6(-5.1)。
昭和53年2月28～3月3日(1978)	暴 大 強 風 雪 風	道東・道北 道央	日本海と関東沖から共に発達しながら北東進し根室東海上で、一つにまとまり非常に発達した低気圧。交通関係・国鉄運休1,200本以上、道路通行止32、バス運休1,060本以上、定期便(海、空)欠航26、各地域

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和53年3月10～14日(1978)	強 大 着 な だ	風 雪 雪 れ	ほぼ全道 で麻ひ状態。建物・住家全半壊6棟、非住家14棟。農業・ビニールハウス倒壊、破損など596棟。人身事故・死者1。電力関係・停電3,023。その他・臨時休校2,520。日最大瞬間風速 1日・稚内NNE25.8、網走NNW30.6、紋別NW26.0、釧路NW28.0、根室NW36.0、寿都NNW35.0。降雪の深さ 1日・上藻べつ69、斜里48。28～1日・西興部46、上藻べつ95、島松50、支笏湖畔71。
昭和53年4月16～17日(1978)	大	雪	後志 日本海を発達しながら東北東進した低気圧。積丹町小泊地区で、がけ崩れ発生。交通関係・バス一時不通。その他・水道断水、回線不通128。降水量 16～17日・美国25、神恵内25。
昭和53年5月31日(1978)	強 大 波	風 雨 浪	宗谷 発達しながら北海道を縦断した低気圧。浸水家屋・住家床下3棟。海難・船舶座礁1。日最大瞬間風速 稚内NE21.3。降水量 杓形154、船舶69、稚内55、浜頓別64、北見枝幸61。
昭和53年6月1日(1978)	強	風	石狩 千島南部で発達した低気圧。支笏湖で釣舟転覆6。人身事故・死者1、行方不明1。現場推定風速10～20m/s、波高1～2m。
昭和53年6月12～13日(1978)	強	風	胆振 日本海中部の低気圧。浸水家屋・住家床下17棟。農業・農耕地流失、埋没、冠水など3,083。土木関係・河川決壊45、道路破損67、橋流失2。交通関係・国鉄(豊浦～洞爺)土砂崩れのため一時不通。降水量(日最大1時間降水量) 12～13日・大滝76、苫小牧71、大岸171(12日・32)。
昭和53年6月20～21日(1978)	大	雨	檜山 台風ずれの低気圧に伴う前線。浸水家屋・住家床下9棟。農業・農耕地冠水196(被害額718万)。土木関係・道路損壊5、橋流失2、堤防決壊7、治山3。降水量 20～21日・うずら103、江差100。
昭和53年7月6～7日(1978)	大	雨	胆振・日高 日本海から道央を通過した北見沖にぬけた低気圧。交通関係・国鉄日高線一時不通(土砂崩れ)、町道不通2路線。浸水家屋・床上、床下各1棟。降水量 6～7日・室蘭83、新和88、日高門別83。
昭和53年7月11日(1978)	大 ひ	雷 よ う	網走 気層の不安定。常呂町で15時過ぎと16時過ぎに、それぞれ5分間位降ひょう(10～12mm)。農業・畑作物耕地1,575。浸水家屋・住家床上6、床下46。交通関係・国鉄一時不通(湧網線)。土木関係・道路破損12。電力関係・停電4,000。日降水量(日最大1時間降水量) 常呂138(52)。
昭和53年7月16～18日(1978)	大	雨	後志 前線帯の南下。交通関係・国道(229号線)がけ崩れのため一時不通。降水量 17～18日・美国74、神恵内79、赤井川65。
昭和53年7月25～26日(1978)	雷	十勝	気層の不安定。電力関係・高圧ファイダー、トランスなどに落雷、停電8,000(帯広市周辺一帯)。降水量 25～26日・上足寄79、新得55、陸別52
昭和53年8月10日(1978)	大	雨	留萌 日本海から道北を通過した北見沖にぬけた低気圧。交通関係・国鉄運休56本。浸水家屋・住家床上51棟、床下292棟。農業・田畑冠水908。土木関係・道路損壊29、河川決壊4。降水量(日最大1時間降水量) 留萌108(37)、達布111(36)、古丹別133(28)。
昭和53年8月13～15日(1978)	大 た	雷 つ 巻	宗谷・日高 日本海からやや発達しながら道南を通過した低気圧。宗谷管内豊富町稚咲内で、たつ巻発生(14日、10時40分頃)。土木関係・決壊、道路75堤防46、砂防堤14、護岸2、がけ崩れ9、橋流失6。建物・住家全半壊5棟、一部破損8、非住家全壊8、半壊5。農業・田畑冠水48。浸水家屋・浸水家屋・住家床上27、床下163。電力関係・電柱倒壊2、停電3,300。
昭和53年8月23日(1978)	強 ひ	雷 よ う	十勝 寒冷前線通過。人身事故・負傷者1。建物・住家一部破損61棟、非住家半壊32棟。農業・畑作物3,440、農機具、その他20件(被害額868万)。電力関係・停電7,000。日最大瞬間風速 帯広WNW18.0。降水量(日最大1時間降水量) 新得39(23)、鹿追26(19)。
昭和53年6～8月(1978)	少	雨	網走 夏型の気圧配置の持続。高温、高照による干害。農業・農作物(牧草、馬鈴薯、玉ねぎ)42,592(被害額46億1,394万)。月平均最高気温(平均最高気温(平年差) 6月・網走19.4(+2.5)、紋別19.6(+3.8)、雄武19.1(+3.6)、7月・網走26.5(+5.5)、紋別25.8(+6.2)、雄武24.5(+4.7)。8月・網走25.5(+2.7)、紋別24.9(+4.0)、雄武24.4(+2.3)。月間日照時間(平年比%) 6月・紋別202(124)、7月・網走291(155)、雄武215(136)。8月・網走215(122)、紋別198(148)、雄武183(121)。月降水量(平年比%) 6月・紋別75(80)、雄武54(65)、7月・網走57(65)、紋別9(9)、雄武46(42)。
昭和53年9月3～4日(1978)	強 波	風 浪	根室 日本海から道南を通過した低気圧。海難・漁船遭難2。人身事故・死者2、行方不明15。日最大瞬間風速 3日・根室SE21.1。
昭和53年9月5～6日(1978)	ひ	よ う	上川・空知 気層の不安定。6日、上川南部に15時から20分間、降ひょう(10mm大)。農業・農作物1,133。滝川市周辺に5日23時40分から約1時間降ひょう(20mm大)、リンゴ畑120。
昭和53年9月16～18日(1978)	大 波	雨 浪	根室 三陸沖から急速に発達しながら北上、根室東海上に達した低気圧。浸水家屋・住家床上7、床下16。土木関係・道路決壊22(高波)。降水量 16～17日・羅臼105、標津114、別海113、根室114。日最大瞬間風速 17日・根室NE27.8。
昭和53年10月16日(1978)	強	風	胆振 日本海から北海道南岸を東進した低気圧。有珠山周辺、泥石流による被害。降水量 大滝31、大岸23、室蘭36、有珠山13。
昭和53年10月23～24日(1978)	強	雨	胆振 気層の不安定。24日21時45分、雷雨により大規模な泥石流発生。有珠山周辺一市二町に甚大な被害。人身事故・死者2、行方不明1。建物・住家全壊2棟、半壊5棟、一部破損3棟。浸水家屋・住家床上24棟(66戸)床下88棟(142戸)。農業・農耕地流失、埋没など48、家畜被害(馬1、豚12頭)、その他農業施設などの被害額3,891万。土木関係・埋没、国道、道々など10、堤防3、浄水場施設。電力関係・約1時間停電。その他・市街地区(温泉町)給水不能。降水量 23～24日・有珠山30、室蘭17、伊達18。
昭和53年10月29～30日(1978)	大	雨	渡島 能登半島沖から発達しながら、えりも岬南沖を東進した低気圧。浸水家屋・住家床下2。電力関係・一部地区停電。土木関係・土砂崩れ1。降水量 29～30日・森71、南茅部83、木古内87、千軒150。
昭和54年1月31～	大	雪	十勝・釧路 二つ玉低気圧。交通関係・国鉄運休23本、バス郊外線全休、定期航空

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
2月2日(1979)	大強	渡島	全便欠航、青函定期欠航18、フェリー定期全便欠航、国道不通(273号線)、道々不通3。浸水家屋・住家床1棟、床下42棟。海難・漁船破損19、流失7。その他・臨時休校4。降雪の深さ 31日・上札内60、糠内81。2日・帯広53、太田59。降水量 31～2月1日・木古内60、釧路53、広尾66。日最大瞬間風速 2月1日・函館SW23.6。
昭和54年2月1～2日(1979)	強波	宗谷・留萌 檜山	季節風。交通関係・国鉄運休12本以上、離島航路(稚内～利礼)全便欠航、国道全面通行止(238号線)、道々通行止8路線。海難・漁船沈没1、座礁2、破損77。人身事故・負傷者2。土木関係・港湾施設損壊12(海難、土木被害合計4,287万)。その他・臨時休校69。日最大瞬間風速 2日・稚内ENE20.2、留萌N16.8、江差WSW31.0。
昭和54年2月6～7日(1979)	暴大な着	風雪	九州南西海上から本州太平洋岸沿いに発達しながら北上し国後島東海上に進み非常に発達した低気圧。交通関係・国鉄運休981本、国道通行止16、道々387路線、定期航路(海、空)全便欠航、その他、空港閉鎖続出、バス運休1,014。海難・漁船沈没1、損壊77。土木関係・黄金道路、なだれ発生不通。電力関係・停電4,000以上。人身事故・死者1。その他臨時休校662。標津港で入出港不能(漂砂堆積)。日最大瞬間風速 6日・根室ENE25.6、釧路N25.7。7日・網走N28.0。降雪の深さ 6日・大樹58、帯広57、釧路40、札幌40、目黒42、倶知安42。降水量 6日・芽室87、別海60、糠内58、釧路53、帯広48。
昭和54年2月11～12日(1979)	強大	風雪	樺太南部を前線を伴い通過した低気圧。交通関係・国鉄興浜北線全面運休、離島航路(稚内～利礼)全便欠航、道々通行止2路線。日最大瞬間風速 11日・稚内SW27.3。降雪の深さ 11～12日・北見枝幸17歌登16。
昭和54年3月11～12日(1979)	強大	風雪	三陸沖から発達しながら北東進した根室東海上の低気圧。交通関係・国鉄運休33本、バス運休4本、通行止、国道2、道々1路線。日最大瞬間風速 11日・網走NW21.8。降雪の深さ 11日・佐呂間42、北見35。
昭和54年3月25～26日(1979)	強大	風雪	二つ玉低気圧、根室沖で一つにまとまり発達した低気圧。交通関係・国鉄運休46本、バス運休112本、通行止、国道2、道々1路線。日最大瞬間風速 25日・紋別NW22.9。26日・網走NW25.6。降雪の深さ 25日・雄武27、興部24。
昭和54年3月30～4月1日(1979)	暴大な強波	風雪	道北・道南 道東
昭和54年4月2～4日(1979)	大	雪	道南・石狩 十勝
昭和54年4月8～10日(1979)	強大融	風雪	道東・網走 宗谷
昭和54年4月16～17日(1979)	大	雪	十勝
昭和54年4月30～5月1日(1979)	強	雪風	根室
昭和54年6月26～27日(1979)	大	雨	日高
昭和54年7月2～3日(1979)	大	雨	釧路
昭和54年7月8～9日(1979)	大ひ強	雨	上川・網走
昭和54年7月11日(1979)	強ひ	雨	網走
昭和54年8月7～8日(1979)	大	雨	日高

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和54年9月5～6日(1979)	大強波	釧路・根室 網走	台風第12号くずれの低気圧、秋田沖から東進し釧路沖で再びやや発達。浸水家屋・床上2棟、床下33棟。建物・住家半壊、一部破損など19棟。土木関係・道路冠水10、道路損壊4、がけ崩れ、土砂崩れなど3。交通関係・道路不通2。海難・漁船破損27、沈没2。水産関係・鮭鱒定置網流失193ヶ統、その他漁具損害(水産被害額4億5,984万)。日最大瞬間風速 5日・紋別NW26.2、網走NW27.2。6日・根室W23.6。降水量(日最大1時間降水量) 5～6日・羅臼126(5日・27)、阿寒湖畔91(5日・22)、白糠、網走89(5日・白28、網13)、常呂93(5日・16)。
昭和54年9月10日(1979)	雷ひょう	十勝	気層の不安定。鹿追町で16時30分から20分間、新得町で15時30分から10分間、それぞれ降ひょう(5mm～小指先大)。農業・畑作物(小豆、ピーナツなど)被害額2億2,588万。電力関係・停電2,300。降水量(日最大1時間降水量) 芽室12(12)。
昭和54年9月30～10月1日(1979)	大強波	道東・網走 胆振	台風第16号本州を縦断、千島南部で温帯性に変わった低気圧。交通関係・定期航路、欠航10。人身事故・死者1。土木関係・道路冠水32、国鉄路床冠水4、道路損壊49、堤防決壊2、がけ、土砂崩れなど3。農業・農耕地300、畑作物、農業施設など被害額1,950万。浸水家屋・床上5棟、床下59棟。建物・住家半壊、一部破損など4棟。その他・臨時休校28。海岸浸食275m。日最大瞬間風速 10月1日・釧路NE27.1、根室NW30.4、網走N23.5、浦河ENE25.0。降水量(日最大1時間降水量) 10月1日・釧路84(17)、根室79(20)、網走97(15)、広尾113(13)、上藻別111、東もこと120(18)、羅臼97(15)、標津108、30～10月1日・大樹110、上札内116、白老93、静内91、大津91、日黒85。
昭和54年10月3～4日(1979)	大雷	胆振・石狩	二つ玉低気圧。交通関係・国鉄運休104本。浸水家屋・住家床上500以上、床下2,073以上。農業・農作物9(被害額8,082万)。土木関係・道路損壊98、橋流失1、堤防決壊6、河川決壊6、鉄道冠水3、道路冠水2。電力関係・停電8,700。建物・住家、納屋など一部焼失(落雷)。降水量(日最大1時間降水量) 3～4日・苫小牧107(3日・80)、新篠津60、島松69、支笏湖畔95、白老193(3日・68)、登別193(3日・44)。
昭和54年10月18～20日(1979)	暴大強波	風雨 全道	台風第20号九州南海上から北東進、東日本を縦断、えりも岬沖を通過千島北部に達する。人身事故・死者、行方不明など72、負傷者10。建物・住家全壊14棟、半壊、一部破損など638棟。浸水家屋・床上286棟、床下1,932棟、非住家15棟。海難・漁船沈没、破損、流失など322。土木関係・道路損壊769、橋流失54、がけ崩れ34、堤防決壊184。電力関係・断線935、電柱倒壊670、トランス事故15、停電88,683。水産関係・鮭鱒定置網、漁具など流失(損害額65億1,160万)。農業・農耕地流失、埋没、冠水など2,830。交通関係・国道、道々通行止38、国鉄路床損壊、冠水など15、国鉄運休540本、バス運休65本、定期航路欠航87、青函航路欠航22、フェリー、離島航路全便欠航。その他・丘珠空港内で、セスナ機転覆大破、回線障害1,152、林業被害額11億9,615万。日最大瞬間風速 19日・根室SE33.2、苫小牧NNW30.8。20日・稚内NNW31.0、北見枝幸NNW30.4、羽幌NNW30.8、雄武NNW31.4、紋別NNW33.5、留萌N30.5、網走NW37.4、小樽NNW29.5、寿都NNW39.4、浦河WNW31.0、江差NW32.3。降水量(日最大1時間降水量) 18～20日・広尾232(19日・34)、釧路157(19日・21)、根室148、島松146、羅臼193(19日・24)、糸節別205(19日・31)、中標津179(19日・24)、別海150、中徹別163(19日・34)、太田173、二俣166(19日・32)、日黒184、南茅部197(19日・35)、千軒185。波高(m) 19日・函館9.2。20日・石狩7.8、留萌6.9、広尾10.5。
昭和54年11月2日(1979)	たつ巻	巻 渡島	寒冷前線通過。松前町茂草地区で01時58分、たつ巻発生。人身事故・負傷者1。建物・住家半壊、一部破損など40棟、非住家全壊2棟。その他・一時停電、回線障害1、乗用車破損5台。
昭和55年1月13～15日(1980)	大強波	雪風浪 根室	関東東海上から発達しながら北東進、根室南東海上で非常に発達した低気圧。交通関係・国鉄列車遅延続出、定期航空欠航2、不通・国道3、道々8路線。建物・住家半壊、一部破損など20棟。電力関係・停電720。日最大瞬間風速 14日・根室NNW34.4。降雪の深さ 14日・根室25。
昭和55年1月30～31日(1980)	大強波	雪風浪 十勝・檜山	日本海を発達しながら北上、北海道の西海上に達した低気圧。交通関係・国鉄運休8本、定期航空欠航3、離島航路(江差～奥尻)欠航。人身事故・負傷者5。建物・住家破損27棟。浸水家屋・床上1棟。土木関係・決壊、道路1、防波堤5。海難・漁船流失、破損など18。その他・臨時休校105。日最大瞬間風速 31日・江差SW27.9。降雪の深さ 30日・上札内65、更別51、大樹48。30～31日・帯広44、広尾46。
昭和55年1月13～15日(1980)	暴風波	風雪浪 宗谷	宗谷海峡を東進した低気圧と季節風。交通関係・国鉄運休85本、定期航空欠航8、離島航路(稚内～利礼)欠航16、国道通行止(238号線)、海難・漁船沈没、流失など2。その他・臨時休校173。日最大瞬間風速 31日・稚内WNW25.6。降雪の深さ 31日・稚内26。2月1～2日・歌登38。
昭和55年2月12日(1980)	大強波	雪風浪 留萌	季節風。交通関係・国鉄運休4本。日最大瞬間風速 留萌W18.0、羽幌W16.3。降雪の深さ 12日・達布24。
昭和55年3月9～13日(1980)	暴大強波	風雪浪 ほぼ全道	えりも岬沖と関東沖の低気圧。それぞれ発達しながら北東進、根室付近で非常に発達した低気圧。交通関係・国鉄運休1,029本、定期航空欠航175、バス、離島航路(天売～羽幌、稚内～利礼)全面運休、札幌新道通行止。不通・国道、道々など355路線。人身事故・死者1、負傷者1。建物・住家半壊、一部破損など125棟。海難・漁船沈没10、破損13、流失3。電力関係・停電8,800。その他・臨時休校1,013。各被害額・農業関係2,275万、水産関係8,743万、林業関係2,320万。日最大瞬間風速 10日・苫小牧NNW29.0。11日・稚内NW29.4、寿都WNW29.3、網走WNW31.0、根室W31.8、浦河WNW32.2。降雪の深さ 10日・網走32、斜里30、東もこと53。9～10日・北見大和92、川湯60。10～11日・旭川55。9～11日・安平77。
昭和55年4月5～8日(1980)	大強波	雨 後志	日本海から津軽海峡を東進した低気圧。交通関係・国鉄運休99本。降水量 5～6日・赤井川48、美園86、余市56。
昭和55年4月28～29日(1980)	大強波	雪 十勝	日本海から東北地方を横断し釧路南海上を東進した低気圧。交通関係・国道(274号線)全面通行止、定期航空欠航10。降雪の深さ 28日・帯広20、広尾26、上札内40、更別34。
昭和55年5月28日(1980)	大強波	風 十勝	中国東北区から樺太北部を通過し非常に発達した低気圧。砂じんあらし発生。被害額・農作物1,310万。日最大瞬間風速 帯広SW14.6、広尾WSW27.9。日最高気温(日最小湿度%) 帯広23.3(36)、広尾22.8(

年 月 日 (西曆)	種 別	地 域	被 害 状 況
			27。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和55年7月11日 (1980)	雷	上川	気層の不安定。電力関係・トランス損傷6、停電7,400。人身事故・負傷者3。
昭和55年8月 (1980)	異常低温	全道	オホーツク海高気圧、断続的に強化しながらゆっくり南下。農作物被害が大きい。オホーツク海側地方と釧路、十勝、日高地方では著しい低温となった。降水量は道北、道東で少なく平年の65%以下となり、オホーツク海側地方と道南の一部では日照不足。水稻被害額552億円2,000万(面積14億2,467)、畑作物被害額291億6,432万(面積35億9,921)。月平均気温(平年差) 網走15.1(-3.9)、室蘭17.6(-3.4)。月降水量(平年差) 稚内25(22)、北見枝幸57(41)、留萌67(49)、根室51(44)。月間日照時間(平年比%)網走107(60)、雄武95(63)、室蘭100(63)。
昭和55年8月28～ 31日(1980)	大雨	胆振・渡島	秋田沖に停滞した低気圧。人身事故・負傷者6。建物・全壊48棟、半壊、一部破損など60棟。土木関係・決壊、道路70、堤防1、河川15、橋流失、がけ崩れ140。農業・農耕地流失、埋没など21。冠水46、浸水家屋・床上1,768、床下2,057、国鉄床冠水2。その他・回線障害490、水道施設10。交通関係・国鉄室蘭本線不通、室蘭市内バス全面運休。降水量28～31日・登別493、白老352、室蘭255、森野251、小谷石323、汐首249、千軒210、函館172。
昭和55年9月5日 (1980)	大雨	釧路	前線通過。浸水家屋・床上2棟、床下22棟。降水量(日最大1時間降水量) 白糠77(45)。
昭和55年10月6日 (1980)	波浪	留萌	前線が弱まりながら北海道を南下。海難・漁船転覆1。人身事故・死者3。日最大瞬間風速 留萌WSW16.3。
昭和55年10月6～ 16日(1980)	大雨	上川	6日と8日に寒冷前線が北海道を通過、13～14日には日本海中部から発達しながら北見沖へぬけた低気圧があり、15～16日には沿海州南部から樺太南部を低気圧が通過するなど降雨が断続。人身事故・負傷者4。建物・住家半壊1棟。土木関係・道路損壊1、土砂崩れ1(天人峡)。その他・回線障害14。降水量 6～9日・上川34、白金39、忠別41。6～16日・天人峡136。
昭和55年10月25～ 27日(1980)	強波	風浪 渡島・檜山	二つ玉低気圧。人身事故・負傷者1。建物・住家半壊、一部破損など36。浸水家屋・床上3、床下44。土木関係・道路損壊2、冠水2、防波堤損壊5。海難・漁船流失2、沈没、破損など131。交通関係・離島航路(江差～奥尻)欠航。その他・リンゴ園被害額1億円以上。日最大瞬間風速 25日・函館E22.8。26日・江差SW29.8。波高 26日・松前10.4m。27日・江差6.0m。
昭和55年10月25～ 27日(1980)	大雨 雷 つ 巻	十勝・日高	日本海から発達しながら北上、天塩沖とえりも岬沖に分裂した二つ玉低気圧。人身事故・負傷者3。建物・住家全壊1、半壊2、非住家全壊6、非住家半壊6、住家一部破損23、非住家19。交通関係・定期航空欠航8。日高地方を襲った、たつ巻の経路、厚別川鉄橋付近から厚賀中学校を通過、北東へぬける。日最大瞬間風速 浦河ESE23.5。降水量 大樹65、糠平62、浦河56、帯広51。
昭和55年11月25～ 26日(1980)	波浪	胆振	日本海と関東沖から、それぞれ北東進し三陸沖で一つにまとまった低気圧。土木関係・海岸線の消波用護岸決壊3(被害額2億597万)。日最大瞬間風速 26日・苫小牧NNW19.5。波高 25日・浜厚真3.2m。
昭和55年12月4日 (1980)	大雪 強波 た つ 巻	十勝・胆振 渡島・檜山	日本海を北上した低気圧。奥尻町育苗地区で04時30分、たつ巻発生。建物・住家全壊1棟、非住家全壊3棟、住家半壊、破損など69棟、非住家半壊、破損など13棟。海難・漁船流失、破損など22。人身事故・負傷者3。農業関係・施設損壊37。交通関係・道々不通1路線、定期航空欠航28、青函航路欠航3、離島航路(江差～奥尻)全便欠航。その他・臨時休校13。降雪の深さ 糠平21。日最大瞬間風速 苫小牧SW36.0、室蘭W33.8、江差WNW32.6。波高 松前7.6m。
昭和55年12月13～ 15日(1980)	暴風 着 波	風浪 雪 宗谷	日本海を北上し宗谷海峡西で発達し、オホーツク海南部へぬけた低気圧。海難・漁船流失、破損など20。交通関係・国鉄運休2本、定期航空欠航12。土木関係・道路決壊3。浸水家屋・床上4棟。電力関係・断線6、停電970。日最大瞬間風速 15日・稚内NNW29.5。波高 稚内4～6m。降雪の深さ 13～15日・北見枝幸39、沼川32、中頓別36、豊富30。
昭和55年12月18～ 19日(1980)	大雪	留萌	北海道西海上の小さな低気圧。交通関係・国鉄運休16本。その他・臨時休校1。降雪の深さ 18～19日・初山別82、古丹別47、羽幌80、増毛46。
昭和56年4月8～ 29日(1981)	融雪	雪 全道 (159市町村)	被害額3,009,098千円。
昭和56年7月5～ 6日(1981)	大雨	日高など (25市町村)	低気圧と前線による日高地方を中心とした大雨。死者1人、家屋被害507棟、被害額17,314,215千円。
昭和56年8月3～ 6日(1981)	台風第12号	全道 (185市町村)	前線と台風第12号。死者8人、重傷5人、軽傷9人。家屋被害27,257棟、被害額270,481,037千円。災害救助法適用(6市5町1村)
昭和56年8月21～ 23日(1981)	台風第15号	全道 (198市町村)	台風第15号と前線。死者2人、重傷12人、軽傷42人、家屋被害18,134棟、被害額90,418,330千円。災害救助法適用(2市)。
昭和56年9月3～ 4日(1981)	台風第18号 く ず れ 低 気 圧	道南・道央 (67市町村)	台風第18号から変わった低気圧と前線。死者9人、重傷2人、軽傷3人、家屋被害1,454棟、被害額13,714,800千円。
昭和56年中(1981)	冷害	全道	被害額50,930,000千円。
昭和57年3月21日 (1982)	地震	道南・道央 (52市町村)	浦河沖地震。重傷22人、軽傷145人、家屋被害716棟、被害額10,360,765千円。
昭和57年10月19～ 21日(1982)	大雨	全道 (60市町村)	低気圧。軽傷1人、家屋被害72棟、被害額6,039,057千円。
昭和58年5月26日 (1983)	地震	道南 (30市町村)	日本海中部地震。死者4名、重傷10人、軽傷14人、家屋被害145棟、被害額3,808,804千円。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
昭和58年9月24～ 25日(1983)	大 雨	胆振 (5市町)	低気圧。軽傷1人、家屋被害1,064棟、被害額9,193,008千円。災害救助法適用(1市)。
昭和59年2月～ 3月(1984)	流 氷	道北・道東 (13市町)	水産被害額5,978,838千円。
昭和59年7月16～ 17日(1984)	大 雨	渡島・日高	家具被害5棟、被害額4,867,424千円。
昭和59年7月～ 8月(1984)	干 ば つ	宗谷・網走・胆振	被害額6,216,000千円。
昭和60年9月1日 (1985)	台 風 第 13 号	全道 (91市町村)	軽傷者1名、家屋被害741棟、被害総額10,680,376千円。
昭和61年9月3～ 4日(1986)	大 雨	全道 (79市町村)	台風第15号から変わった熱帯低気圧。 家屋被害831棟、被害総額12,771,471千円。
昭和62年8月26日 (1986)	大 雨	道 央 (20市町村)	低気圧による胆振・石狩地方を中心とした大雨。 家屋被害828棟、被害総額8,208,970千円。
昭和62年8月31～ 9月1日(1987)	強風・高波	全道 (160市町村)	台風第12号から変わった低気圧。 死者2名、重傷23名、軽傷29名、家屋被害1,921棟、 被害総額19,260,984千円、災害救助法適用(大樹町)
昭和63年8月24～ 27日(1988)	大 雨	道 央 (75市町村)	前線による大雨。家屋被害5,396棟、被害総額36,977,750千円。 災害救助法適用(留萌市・北竜町・沼田町)
昭和63年10月28～ 31日(1988)	大 雨	道 東 (54市町村)	低気圧による大雨。重傷2名、軽傷1名、家屋被害200棟、 被害総額27,286,944千円。
昭和63年11月24～ 25日(1988)	大 雨	全道 (56市町村)	低気圧による大雨。家屋被害672棟、被害総額22,433,861千円。
平成元年6月28～ 30日(1989)	大 雨	道 央・道 東 (35市町村)	低気圧による大雨。家屋被害44棟、被害総額11,183,709千円。
平成元年8月27～ 29日(1989)	台 風 第 17 号	全道 (46市町村)	家屋被害24棟、被害総額3,146,609千円。
平成2年11月4～ 6日(1990)	大 雨	道 南・道 央 (44市町村)	低気圧による大雨、死者2名、重傷2名、軽傷1名、 家屋被害121棟、被害総額9,724,658千円。
平成3年2月16～ 17日(1991)	暴風雪・波浪	道 央・道 南 (35市町村)	低気圧による暴風雪・波浪。重傷1名、軽傷1名、 家屋被害119棟。被害総額8,514,012千円。
平成4年8月8～ 10日(1992)	豪 雨	道 南・道 東 (58市町村)	台風第10号から変わった低気圧による豪雨。家屋被害471棟。 被害総額50,899,248千円。
平成5年1月15日 (1993)	地 震	全道一円 (99市町村)	釧路沖地震、死者2名、重傷116名、軽傷850名、家屋被害5,618棟。 被害総額95,551,595千円。
平成5年7月12日 (1993)	地 震	道 南 (60市町村)	北海道南西沖地震、死者201名、行方不明28名、重傷83名、軽傷240 名、家屋被害6,849棟、被害総額174,720,672千円。
平成5年中 (1993)	冷 害	全道	農作物被害額197,400,000千円。被害面積552千ha。
平成6年10月4日 (1994)	地 震	道 東 (63市町村)	北海道東方沖地震。重傷32名、軽傷404名、家屋被害7,519棟。 被害総額79,306,859千円。
平成7年8月20～ 28日(1995)	大 雨	道 南 (24市町村)	低気圧と前線による大雨、死者2名、重傷2名、軽傷3名、家屋被害1,659 棟。被害総額17,573,317千円。
平成8年2月10日 (1996)	道 路 災 害	古平町	豊浜トンネル崩落事故。死者20名、軽傷1名。
平成8年8月15～ 23日(1996)	台 風 第 12 号	道 南・道 央 道 北 (25市町村)	家屋被害140棟、被害総額2,167,567千円。
平成9年8月3～ 14日(1997)	大 雨	全道一円 (92市町村)	低気圧による大雨、家屋被害371棟 被害総額22,316,336千円。
平成10年9月15～ 17日(1998)	台 風 第 5 号	全道一円 (111市町村)	死者2名、重傷者3名、軽傷者2名、家屋被害1,100棟 被害総額40,936,892千円。
平成11年7月28～ 8月2日(1999)	大 雨	道 央・道 南 道 北 (79市町村)	低気圧による大雨、家屋被害333棟、被害総額37,927,429千円。
平成12年3月28～ (2000)	有 珠 山 火 噴	伊達市 虻田町 壮瞥町 洞爺村	家屋被害850棟、被害総額23,296,919千円。 災害救助法適用4市町村。
平成12年7月24日～ 26日(2000)	大 雨	道 央 (44市町村)	負傷者5名、家屋被害110棟、被害総額5,025,846千円。

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
平成13年9月9日～ 13日(2001)	豪 雨	全道一円 (141市町村)	家屋被害2,910棟、被害総額39,634,233千円。
平成13年10月4日 (2001)	土 砂 崩 落	北見市	国道333号北見市(ルクシ峠)土砂崩落災害。死者2名。
平成14年6月29日～ 30日(2002)	火 災	稚内市	稚内中央小売市場火災。消失面積8,354㎡、全棟数25(38軒)。
平成14年9月14日 (2002)	水 難	湧別町	プレジャーボート転覆(サロマ湖沖)。死者7名。
平成14年10月1日 ～2日(2002)	台 風 第 21 号	全道一円 (90市町村)	重傷1名、軽傷10名、一部破損128棟、床上浸水6棟、床下浸水29棟。 被害総額7,103百万円。
平成15年8月9日～ 10日(2003)	台 風 第 10 号	日高・十勝 (61市町村)	死者10名、行方不明者1名、全壊16棟、半壊8棟、床上浸水128棟、 床下浸水398棟。被害総額81,902百万円。 平取町、門別町、新冠町に災害救助法適用。
平成15年9月13日～ 14日(2003)	台 風 第 14 号	道南・道央 (30市町村)	死者1名、負傷者3名、一部破損13棟。被害総額237百万円。
平成15年9月26日～ (2003)	地 震	道東 (79市町村)	十勝沖地震。死者1名、行方不明者1名、重傷者68名、軽傷者779名。全壊116棟、 半壊368棟、一部破損1,580棟、床下浸水1棟。被害総額53,471百万円
平成16年1月13日～ 16日(2004)	雪 害	網走・釧路 根室 (66市町村)	死者1名、重傷者2名、軽傷者7名。床上浸水1棟、床下浸水1棟 一部破損39棟。被害総額4,315百万円。
平成16年2月22日～ 24日(2004)	暴 風 雪	全道一円 (98市町村)	死者2名、重傷者1名、軽傷者2名。床下浸水14棟、一部破損24棟。 被害総額1,383百万円。
平成16年9月7日～ 8日(2004)	台 風 第 18 号	全道一円 (207市町村)	死者9名、重傷者97名、軽傷者376名。全壊18棟、半壊318棟、 一部破損10,778棟、床上浸水88棟、床下浸水42棟、被害総額54,217百万円
平成16年11月13日 (2004)	海 難	石狩市 小樽市	韓国貨物船事故。死者7名。
平成16年11月29日 (2004)	地 震	根室・釧路	釧路沖地震。重傷7名、軽傷(症)45名。全壊1棟、一部破損4棟
平成16年12月6日 (2004)	地 震	根室・釧路	釧路沖地震。重傷1名、軽傷(症)11名。 被害総額73百万円。
平成16年12月14日 (2004)	地 震	留萌	留萌支庁南部を震源とする地震。軽傷8名。一部破損165棟
平成17年1月18日 (2005)	地 震	根室・釧路	釧路沖地震。重傷者1名 被害総額18百万円
平成17年9月7日～ 8日(2005)	台 風 第 14 号	全道一円 (57市町村)	住家一部破損1棟、床上浸水4棟、床下浸水44棟 被害総額4,002百万円。
平成17年11月28日～ 12月1日(2005)	強 風 波 浪	道北・道央 道南・道東 (14市町村)	重傷者1名、軽傷者3名、住家一部破損45棟 被害総額16百万円
平成18年8月17日～ 20日(2006)	風 水 害	道北・道央 道東 (38市町村)	重傷者1名、住家全壊1棟、一部破損1棟、床上浸水19棟、床下浸水222棟 被害総額15,341百万円。
平成18年10月6日 (2006)	風 水 害	全道一円 (101市町村)	重傷者3名、軽傷者8名、住家半壊4棟、一部破損562棟、床上浸水72棟 床下浸水256棟、被害総額29,055百万円。
平成18年11月7日 (2006)	竜 巻	佐呂間町	死者9名、重傷者6名、軽傷者25名、住家全壊7棟、半壊7棟、一部破損27棟 被害総額715百万円
平成19年1月6日～ 9日(2007)	強 風 ・ 波 浪	全道一円 (79市町村)	軽傷者5名、住家半壊14棟、一部破損244棟、床下浸水4棟 被害総額3,625百万円
平成19年7月28日 (2007)	大雨・洪水	渡島・檜山 (7市町村)	軽傷者2名、住家半壊1棟、一部破損3棟、床上浸水9棟、床下浸水67棟 被害総額349百万円
平成19年8月7日 (2007)	大雨・洪水	上川・網走 (4市町村)	死者1名、住家一部破損1棟 被害総額1百万円
平成19年9月7日～ 8日(2007)	台 風 第 9 号	渡島・宗谷・胆振 日高・十勝・釧路 (22市町村)	重傷者1名、住家一部破損48棟、床上浸水4棟、床下浸水25棟 被害総額386百万円
平成19年12月29日 (2007)	暴 風 ・ 波 浪	渡島・上川・胆振 (4市町村)	住家一部破損29棟 被害総額28百万円
平成20年2月23日～ 24日(2008)	暴 風 雪 波	檜山・後志・空知 胆振・十勝・釧路 根室 (10市町村)	死者1名、住家一部破損6棟 被害総額343百万円
平成20年3月31日～ 4月1日(2008)	暴 風 ・ 波 浪	胆振・釧路・根室 (10市町村)	住家一部破損41棟 被害総額31百万円
平成20年7月23日 (2008)	大 雨 ・ 洪 水	渡島・檜山・空知 胆振・日高・十勝 (14市町村)	床上浸水27棟、床下浸水87棟 被害総額608百万円

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
平成20年7月24日 (2008)	地 震	渡島・日高・十勝 釧路・根室	岩手県沿岸北部地震。重傷者1名
平成20年8月3日 (2008)	大 雨・洪水	渡島・檜山 胆振・日高 (11市町村)	住家一部破損1棟、床下浸水26棟 被害総額603百万円
平成21年2月20日 (2009)	暴風雪・波浪	石狩・渡島・檜山 後志・網走・釧路 根室 (13市町村)	住家一部破損16棟 被害総額150百万円
平成21年3月6日～ 7日(2009)	暴風雪・波浪	檜山・後志・留萌 網走・胆振・十勝 釧路・根室 (12市町村)	住家一部破損5棟、床下浸水1棟 被害総額430百万円
平成21年4月13日～ 8月18日(2009)	地 す べ り	渡島・檜山・空知 (3市町村)	被害総額647百万円
平成21年4月25日 (2009)	暴 風・波 浪	渡島・檜山・日高 十勝・釧路 (10市町村)	住家半壊1棟、一部破損22棟 被害総額42百万円
平成21年5月15日 (2009)	落 雷	上川 (15市町村)	被害総額263百万円(農業)
平成21年6月22日 (2009)	大 雨・洪水	日高・十勝 釧路・根室 (17市町村)	床下浸水10棟 被害総額1,643百万円
平成21年7月16日 (2009)	山 岳 遭 難	トムラウシ山 美瑛岳	新得町トムラウシ山で2パーティ19名と美瑛岳でパーティ6名の山岳遭難。 死者10名
平成21年10月9日 (2009)	台風第18号	網走・日高・十勝 釧路・根室 (21市町村)	軽傷者1名、住家一部破損112棟、床下浸水1棟 被害総額94百万円
平成21年11月14日～ 15日(2009)	暴 風・波 浪	渡島・檜山 宗谷・日高 (9市町村)	軽傷者2名、住家一部破損9棟 被害総額235百万円
平成22年2月27日 (2010)	地 震 津 波	太平洋沿岸	チリ中部沿岸地震。道路の冠水、港湾施設の冠水、避難指示1市、避難勧告25市町
平成22年3月20日～ 22日(2010)	暴風雪・波浪	石狩・渡島・檜山 後志・空知・上川 留萌・宗谷・網走 胆振・日高・十勝 釧路・根室 (45市町村)	重傷者3名、軽傷者8名、住家半壊2棟、一部損壊104棟、非住家全壊8棟 非住家半壊37棟 被害総額494百万円
平成22年7月28日～ 30日(2010)	大 雨・洪水	空知・石狩・後志 胆振・日高・渡島 檜山・上川・留萌 宗谷・十勝 (57市町村)	住家一部損壊6棟、床上浸水48棟、床下浸水219棟、非住家全壊1棟 非住家半壊30棟 被害総額5,195百万円
平成22年8月23日～ 24日(2010)	大 雨・洪水	空知・石狩・後志 胆振・日高・渡島 上川・留萌・十勝 (28市町村)	死者2名、住家床上浸水23棟、床下浸水126棟 被害総額3,539百万円
平成23年1月9日 (2011)	雪 害	空知 (7市町村)	死者2名、重傷者9名、軽傷者29名、住家一部損壊5棟 被害総額67百万円
平成23年1月17日 (2011)	雪 害	空知 (10市町村)	死者1名、重傷者9名、軽傷者6名、住家一部損壊20棟 被害総額75百万円
平成23年3月11日 (2011)	地 震 津 波	太平洋沿岸	東北地方太平洋沖地震。 死者1名、軽傷者3名、住家半壊4棟、一部破損7棟、床上浸水329棟、床下浸水545棟 避難指示22市町、避難勧告19市町村
平成23年9月1日～ 8日(2011)	台風第12号 からの大雨	空知・石狩・後志 胆振・日高・渡島 檜山・上川・留萌 宗谷・オホーツカ・十勝	住家一部損壊2棟、床上浸水6棟、床下浸水53棟 避難指示・勧告10市町村、被害総額4,166百万円
平成24年11月26日～ 27日(2012)	暴風・暴風雪	石狩・後志・胆振 日高・渡島・檜山	住家一部損壊20棟、非住家被害33件 鉄塔1基倒壊し大規模停電発生(登別市中心)
平成25年3月1日～ 3日(2013)	暴風雪・大雪	宗谷・釧路・根室 オホーツカ・上川・留萌 胆振・日高・石狩 空知・後志・渡島 檜山	死者9名、重傷者4名、軽傷者9名 住家半壊2棟、住家一部損壊22棟 被害総額489百万円
平成25年4月7日～ 8日(2013)	暴風・大雨・融雪	石狩・空知・後志 宗谷・留萌・オホーツカ 釧路・根室・十勝 胆振・日高・渡島 檜山	重傷者2名、軽傷者3名 住家半壊8棟、住家一部損壊107棟、床上浸水8棟、床下浸水57棟 釧路町・標茶町で避難勧告、国道230号線(中山峠)で土砂崩れが発生。 被害総額935百万円
平成25年8月27日～ 28日(2013)	大 雨・洪水	石狩・空知・後志 胆振・日高・宗谷	住家一部損壊1棟、床上浸水4棟、床下浸水10棟 被害総額18百万円

年	月	日	種	別	地	域	被	害	状	況
						オホーツク				

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
平成25年9月16日～ 17日(2013)	台風第18号	空知・上川・渡島 樺山・日高・オホーツク 根室・釧路・十勝	軽傷者1名 住家一部損壊18棟、床上浸水117棟、床下浸水190棟 河川増水のため、釧路町別保で避難指示、新ひだか町・別海町・浜中町・美幌町で避難勧告 被害総額1,672百万円
平成25年10月16日 (2013)	台風第26号	石狩・オホーツク・日高 釧路・根室・十勝	住家一部損壊133棟、床下浸水4件 河川の増水と倒木による停電により97戸(置戸町、根室市、南富良野町、北斗市)自主避難 被害総額1,458百万円
平成26年2月15日～ 19日(2014)	暴風雪・大雪・波浪	宗谷・留萌・オホーツク 釧路・根室・十勝 日高・渡島	重傷者1名、軽傷者3名 住家一部損壊44棟、国道230号線(中山峠)で雪崩が発生。 被害総額324百万円
平成26年8月4日～ 6日(2014)	大雨・洪水	石狩・空知・後志 宗谷・オホーツク・上川 留萌・渡島・樺山	床上浸水17棟、床下浸水133棟 被害総額1,928百万円
平成26年8月24日～ 25日(2014)	大雨・洪水	宗谷	死者2名、重傷者1名 住家全壊1棟、住家一部破損10棟、床上浸水3棟、床下浸水17棟 礼文町で発生した土砂災害により2名死亡 被害総額2,051百万円
平成26年9月10日～ 12日(2014)	大雨・洪水	石狩・空知・後志 胆振・日高・上川 留萌・渡島・樺山 十勝	住家一部損壊1棟、床上浸水9棟、床下浸水22棟 9月11日には、石狩地方、空知地方、胆振地方に「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」 が発表され、北海道内で初めての特別警報発表となる。 被害総額1,233百万円
平成26年12月16日～ 19日(2014)	暴風雪・大雪・波浪	石狩・後志・宗谷 オホーツク・上川・留萌 釧路・根室・十勝 胆振・日高・渡島 樺山	死者1名、軽傷者2名 住家一部損壊88棟、床上浸水96棟、床下浸水41棟 被害総額5,576百万円
平成27年8月10日～ 13日(2015)	大雨・洪水	宗谷・石狩・空知 後志・上川・留萌 オホーツク・釧路・根室 十勝・胆振・日高 渡島・樺山	住家一部損壊2棟、床上浸水12棟、床下浸水56棟 根室市では避難準備情報発令 被害総額242百万円
平成27年10月1日～ 3日(2015)	大雨・暴風・波浪	宗谷・上川・留萌 オホーツク・釧路・根室 十勝・石狩・空知 後志・胆振・日高 渡島・樺山	死者1名、重傷者8名、軽傷者10名 住家半壊4棟、住家一部損壊651棟 被害総額6,009百万円
平成27年10月7日～ 9日(2015)	台風第23号	石狩・後志・宗谷 上川・留萌・釧路 根室・十勝・オホーツク 樺山・胆振・日高	死者2名、重傷者1名、軽傷者19名 住家一部損壊643棟、床上浸水80棟、床下浸水140棟 被害総額7,256百万円
平成28年1月14日 (2016)	地震	石狩・渡島・空知 上川・胆振・日高 十勝・釧路	浦河沖地震。軽傷者2名。 最大震度5弱:渡島地方東部、日高地方中部、日高地方東部 被害総額45百万円
平成28年8月16日～ 18日(2016)	台風第7号	石狩・空知・後志 上川・留萌・釧路 根室・十勝・胆振 日高・渡島・宗谷 オホーツク	軽傷者2名 住家半壊7棟、住家一部損壊96棟、床上浸水8棟、床下浸水64棟 8月17日23時40分に足寄町では避難指示が発令された。また、8月18日には足寄 川で氾濫が発生。 被害総額4,926百万円
平成28年8月18日～ 19日(2016)	大雨	釧路・根室・十勝 日高	住家半壊2棟、住家一部損壊7棟、床上浸水32棟、床下浸水15棟 被害総額2百万円
平成28年8月20～ 24日(2016)	台風第11号、第9号	石狩・空知・後志 上川・留萌・釧路 根室・十勝・胆振 日高・渡島・樺山 宗谷・オホーツク	死者1名、重傷者2名、軽傷者7名 北海道では、8月17日から23日の1週間に、1951年の統計開始以来はじめて3個の 台風(第7号、第11号、第9号)が連続して上陸した。また、8月21日未明には、常呂川(北 見市)が決壊・氾濫、8月23日午後3時頃には、石狩川(深川市)で河川が氾濫した。 住家半壊2棟、住家一部損壊45棟、床上浸水70棟、床下浸水453棟 被害総額45,002百万円
平成28年8月26日～ 27日(2016)	大雨	釧路・根室	住家一部損壊6棟、床上浸水6棟、床下浸水18棟 被害総額17百万円
平成28年8月30日～ 9月4日(2016)	台風第10号	石狩・空知・後志 上川・留萌・釧路 根室・十勝・胆振 日高・渡島・樺山 宗谷・オホーツク	死者2名、行方不明者2名、軽傷者1名 住居全壊24棟、住家半壊62棟、住家一部損壊934棟、床上浸水173棟、床下浸水310棟 8月31日4時40分頃、空知川水系ユコトラシユベツ川(幾寅築堤)堤防が決壊、また、 同日5時20分頃には、十勝川水系礼内川(帯広市大正橋下流)が決壊した。 さらに、8月30日には国道274号線(日勝峠)で広範囲に道路が崩落した。 被害総額111,150百万円
平成28年9月6日～ 9月11日(2016)	大雨	空知・釧路・根室 十勝・渡島・宗谷 オホーツク	死者1名 住家全壊15棟、住家半壊40棟、住家一部破損37棟、床上浸水106棟、床下浸水220棟 被害総額1,564百万円
平成29年4月18日 (2017)	暴風・高波・大雨	石狩・空知・後志 上川・留萌・釧路 根室・胆振・日高 渡島・樺山 オホーツク	軽傷者5名 住家半壊1棟、住家一部破損71棟 被害総額570百万円
平成29年7月21日～ 22日(2017)	大雨	石狩・空知・後志 上川・留萌・十勝 胆振・渡島・樺山 宗谷	住家半壊13棟、住家一部破損49棟 被害総額309百万円

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
平成29年9月14日～ 15日(2017)	大 雨	石狩、後志	重傷者1名 住家一部破損1棟、床上浸水13棟、床下浸水41棟 被害総額521百万円
平成29年9月18日 (2017)	台 風 第 18 号	石狩、空知、後志 上川、留萌、釧路 根室、十勝、胆振 日高、渡島、檜山 宗谷、オホーツク	重傷者1名、軽傷者5名 住家一部破損333棟、床上浸水13棟、床下浸水42棟 被害総額20,830百万円
平成29年10月23日 (2017)	台 風 第 21 号	石狩、釧路、根室 十勝、胆振、日高 渡島、檜山	重傷者2名、軽傷者1名 住家一部破損10棟 被害総額507百万円
平成29年11月11日～ 12日(2017)	暴 風 ・ 高 波	石狩、空知、後志 上川、留萌、釧路 根室、胆振、日高 渡島、檜山 オホーツク	重傷者1名、軽傷者6名 住家一部破損151棟 被害総額142百万円
平成29年12月25日～ 27日(2017)	暴 風 ・ 暴 風 雪 高 波 ・ 大 雪	石狩、空知、後志 上川、留萌、釧路 根室、十勝、胆振 日高、渡島、檜山 宗谷、オホーツク	重傷者2名、軽傷者12名 住家一部破損95棟 被害総額1,124百万円
平成30年2月3日～ 5日(2018)	暴 風 雪 ・ 大 雪 波	日高、渡島	死者1名 被害総額1,336百万円
平成30年3月8日～ 9日(2018)	降 雨 ・ 融 雪 等	日高、十勝、釧路 オホーツク	軽傷者1名 住家一部破損6棟、床上浸水17棟、床下浸水42棟 被害総額326百万円
平成30年3月9日～ 10日(2018)	大 雨 ・ 洪 水 暴 風 ・ 波 浪	胆振、日高、上川 十勝、釧路、根室 オホーツク	死傷者1名 住家半壊3棟、住家一部破損2棟、床上浸水32棟、床下浸水88棟 被害総額493百万円
平成30年7月3日～ 5日(2018)	大 雨 ・ 洪 水	空知、後志、胆振 渡島、檜山、上川 留萌、十勝 オホーツク	住家一部破損1棟、床上浸水12棟、床下浸水117棟 被害総額9,091百万円
平成30年9月4日～ 5日(2018)	台 風 第 21 号	石狩、空知、後志 上川、根室、十勝 胆振、日高、渡島 檜山、宗谷 オホーツク	軽傷者6名 住家半壊2棟、住家一部破損338棟 被害総額2,561百万円
平成30年9月6日 (2018)	地 震 (胆振東部地震)	道内全域	死者43名(災害関連死2名含む)、重傷者48名、中等傷8名、軽傷者726名 住家全壊469棟、住家半壊1,660棟、住家一部損壊13,849棟 道内全域停電、断水44市町村 被害総額147,690百万円
平成31年1月1日～ 4月30日(2019)	雪 害	空知・石狩・後志・ 上川・十勝・宗谷・ オホーツク、釧路	死者12名(落水雪への巻き込まれ、屋根からの転落等)、重傷82名(屋根やはしごからの転落、 落水雪や除雪機材への巻き込まれ等)、軽傷175名(屋根やはしごからの転落、除雪機材への巻き込まれ、転倒等) 住家半壊2棟(積雪等)、住家一部損壊20棟(落水雪等) 被害総額2百万円
平成31年1月21日 (2019)	大 雪 空 知		重傷者1名(除雪作業中の事故)
平成31年2月21日 (2019)	地 震	石狩、胆振、日高	最大震度6弱 軽傷者6名 住家一部損壊19棟 被害総額70百万円
令和元年5月20日 (2019)	暴 風	空知、オホーツク、十 勝、根 室	住家一部損壊2棟 被害総額136百万円
令和元年8月30日～ 31日(2019)	大 雨	空知・上川	住家床上浸水3棟、床下浸水12棟 被害総額8百万円
令和元年11月1日～ 12月31日(2019)	雪 害	上 川、石 狩 後 志、空 知	死者1名(工事現場における除雪中の転落)、重傷4名(屋根の雪下ろし中の転落、重機等への巻き込まれ) 住家一部損壊44棟、被害総額10百万円
令和元年12月3日～ 4日(2019)	暴 風 雪 ・ 波 浪	胆振・日高・檜山・留 萌、宗 谷	重傷者2名、軽傷者1名、住家一部損壊12棟 被害総額10百万円
令和2年1月1日～ 4月30日(2020)	雪 害	空知・石狩・後志・ 上川・十勝・宗谷・ オホーツク、釧路	死者3名(落水雪による事故、屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ)、 重傷20名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 軽傷75名(雪下ろし中の事故、転倒等) 住家一部破損5棟(積雪、倒壊等)、被害総額2百万円
令和2年5月31日	地 震 (震 度 4)	根 室	重傷1名(地震による屋内での骨折)
令和2年8月7日～ 8月11日(2020)	大 雨	空知・石狩・ 後志・渡島・ 宗 谷	重傷1名、軽傷3名(強風による転倒等) 住家床上浸水6棟、一部破損24棟 被害総額1,579百万円
令和2年9月25日	暴 風 ・ 波 浪	日 高	軽傷1名(風による飛来物) 住家半壊2棟、一部破損3棟(屋根破損等) 被害総額95百万円

年 月 日 (西暦)	種 別	地 域	被 害 状 況
令和2年11月1日～ 12月3日(2020)	雪 害	空知・石狩・ 後志・上川	死者5名(落水雪、除雪機への巻き込まれ、屋根からの落下等) 重傷38名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 軽傷73名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 住家一部破損7棟 被害総額12百万円
令和3年1月1日～ 4月30日(2021)	雪 害	空知・石狩・後志・ 胆振・日高・渡島・ 檜山・上川・留萌・ 宗谷・オホーツク・ 十勝・釧路・根室	死者15名(落水雪による事故、屋根からの転落等) 重傷94名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 軽傷164名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 住家半壊2棟、床上浸水1棟、床下浸水2棟、一部破損66棟 被害総額835百万円
令和3年11月9日～ 11月11日(2021)	大 雨	空知・胆振・日高・ オホーツク・十勝・ 釧路・根室	住家床上浸水1棟、一部破損10棟 被害総額1,070百万円
令和3年11月22日～ 11月23日(2021)	暴 風	空知・胆振・日高・ 留萌・宗谷・十勝・ 釧路・根室	軽傷3名(風にあおられ転倒) 被害総額12百万円
令和3年11月30日～ 12月2日(2021)	低 気 圧	空知・石狩・胆振・ 檜山・留萌・宗谷・ オホーツク・十勝・ 釧路・根室	死者1名(強風による転倒) 軽傷6名(強風による転倒等) 住家全壊1棟、床上浸水1棟、一部破損20棟 被害総額538百万円
令和3年11月1日～ 12月31日(2021)	雪 害	空知・石狩・後志・ 胆振・日高・渡島・ 檜山・上川・留萌・ 宗谷・オホーツク・ 十勝・釧路・根室	死者2名(除雪中の事故) 重傷10名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 軽傷36名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 住家床上浸水1棟 被害総額74百万円
令和4年1月1日～ 4月30日(2022)	雪 害	空知・石狩・後志・ 胆振・日高・渡島・ 檜山・上川・留萌・ 宗谷・オホーツク・ 十勝・釧路・根室	死者27名(落水雪による事故、屋根からの転落等) 重傷87名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 軽傷175名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 住家全壊2棟、半壊3棟、床下浸水1棟、一部破損105棟 被害総額4,864百万円
令和4年8月8日～ 8月10日(2022)	大 雨	空知・石狩・後志・ 胆振・日高・渡島・ 檜山・上川・留萌・ 宗谷	住家半壊2棟、床上浸水23棟、床下浸水91棟 被害総額1,698百万円
令和4年8月15日～ 8月19日(2022)	大 雨	空知・石狩・後志・ 胆振・日高・渡島・ 檜山・上川・宗谷・ オホーツク・十勝・ 釧路・根室	住家床上浸水20棟、床下浸水77棟 被害総額11,148百万円
令和4年9月5日～ 9月7日(2022)	台 風 11 号	空知・石狩・後志・ 胆振・渡島・檜山・ 上川・留萌・宗谷	軽傷2名(強風の飛散物による怪我、強風による転倒) 住家一部破損20棟 被害総額158百万円
令和4年11月1日～ 12月31日(2022)	雪 害	空知・石狩・後志・ 胆振・日高・渡島・ 檜山・上川・留萌・ 宗谷・オホーツク・ 十勝・釧路・根室	死者5名(除雪中の事故) 重傷24名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 軽傷73名(はしご・屋根からの転落、除雪機への巻き込まれ等) 住家一部破損7棟 被害総額404百万円